

コートジボワール共和国
内務省

コートジボワール共和国
大アビジャン圏社会的統合促
進のためのコミュニティ緊急
支援プロジェクト
終了時評価報告書

平成 28 年 01 月
(2016 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

基盤
JR
15-192

序 文

コートジボワール共和国、大アビジャン圏社会的統合促進のためのコミュニティ緊急支援プロジェクトは、2013年2月に署名・交換された討議議事録（R/D）に基づき、コートジボワール共和国における社会統合の促進を目的として2013年7月から2016年6月まで約3年間の予定で実施されたものです。

プロジェクト期間の終了を控え、独立行政法人国際協力機構（JICA）は2015年8月25日から9月12日までの間、終了時評価調査を実施し、これまでの活動実績の確認や目標達成等について総合的な評価を行いました。これらの評価結果は、調査団とコートジボワール共和国側関係者による協議を経て評価レポートとしてまとめられ、協議議事録（M/M）の署名・交換を行いました。本報告書は、同調査団による協議及び評価調査結果等であり、関連する国際協力の推進に活用されることを願うものです。

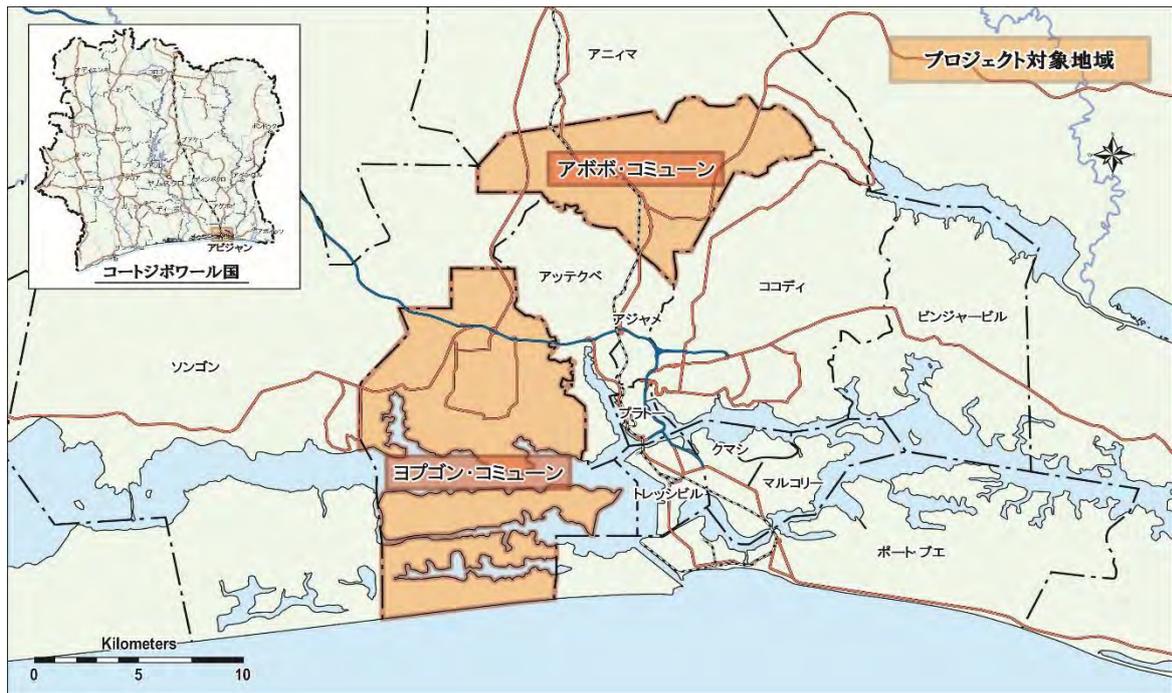
最後に本調査の実施にあたり、ご協力とご支援を頂いた両国関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

平成 27 年10月

独立行政法人国際協力機構

社会基盤・平和構築部長 中村 明

プロジェクト位置図¹



プロジェクト写真

<p>学校建設事業（アボボ）</p>	<p>CCGPPメンバーへの聞き取り調査（アボボ）</p>
<p>アボボ市役所職員への聞き取り調査</p>	<p>CCGPPメンバーへの聞き取り調査（アボボ）</p>

¹ プロジェクト業務計画書内の地図を引用。



プロジェクトマスコットによる道路工事現場での啓発ポスター（ヨブゴン）



道路工事改修事業（ヨブゴン）



ヨブゴン市役所



アボボ市役所



JCCの様子



M/M署名（JCCにて）

目次

序文

目次

評価調査結果要約表

第1章	終了時評価調査の概要	1
1-1	調査団派遣の経緯と目的	1
1-2	調査団の構成と調査日程	1
1-3	主要面談者	3
第2章	終了時評価の方法	4
2-1	評価手法	4
2-2	評価5項目	4
2-3	評価の枠組み	4
2-4	情報・データの収集方法	5
第3章	プロジェクトの実績と実施プロセス	7
3-1	投入実績	7
3-2	成果の達成度	8
3-3	プロジェクト目標の達成見込み	13
3-4	上位目標の達成見込み	16
3-5	プロジェクトの実施プロセス	18
第4章	評価結果	21
4-1	妥当性	21
4-2	有効性	22
4-3	効率性	24
4-4	インパクト	24
4-5	持続性	26
4-6	結論	28
第5章	PDMの改訂	29
第6章	提言と教訓	30
6-1	提言	30
6-2	教訓	30
6-3	団長所感	31

添付資料

添付資料 1	主要面談者リスト	添付 1-1
添付資料 2	カウンタパート組織図	添付 2-1
添付資料 3	協議議事録 (M/M)・合同終了時評価報告書	添付 3-1

ANNEXES

1. Schedule of the Terminal Evaluation Study
2. PDM
 - 2-1. PDM Ver. 1
 - 2-2. PDM Ver. 2
3. PO Ver. 1
4. List of the JICA Experts and Counterparts
5. Equipment List
6. Training Record
7. Local Expenses (the Japanese Side)
8. JCC Member List
9. CCGPP Member List
10. Evaluation Grid

添付資料 4	インタビュー記録	添付 4-1
--------	----------	--------

略語一覧

略語	正式名称	和文
CCGPP	Pilot Project Joint Management Committee	パイロット事業合同管理委員会
CGQ	Comité de Gestion du Quartier	地区（カルティエ）管理委員会
COGES	Comité de Gestion des Etablissements Scolaires	学校運営委員会
COSAY	The Project on the Reinforcement of Community for Promoting Social Cohesion in Greater Abidjan	大アビジャン圏社会統合促進のための コミュニティ緊急支援プロジェクト
C/P	Counterpart	カウンターパート
DASCPH	Socio-Cultural Activity and Human Promotion Department	社会・文化・人材局（アボボ市役所）
DDHt	Human Development Department	人間開発局（ヨブゴン市役所）
DGDDL	Department of Decentralisation and Local Development	地方分権化総局
DST	Technical Service Department	市役所技術局
EU	European Union	ヨーロッパ連合
FCFA	Franc CFA	セーファーフラン（通貨単位）
GRCI	the Government of Republic Cote d' Ivoire	コートジボワール共和国政府
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JET	JICA Expert Team	JICA 専門家チーム
M/M	Minutes of Meeting	会議議事録
MEMIS	Ministry of State, Ministry of Interior and Security	内務省
MENET	Ministry of National Education and Technical Education	国民教育・技術教育省
MSFWC	Ministry of Solidarity, Family, Women and Children	連帯・家族・女性・児童省
NGO	Non-Governmental Organisation	非政府組織
PARCS	Projet d' Appui à la Réconciliation et à la Cohésion Sociale des populations des communes	アボボとヨブゴンにおける住民の和解 と社会統合支援事業（EU 資金事業）
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マト リックス
PO	Plan of Operation	プロジェクト活動計画
PP-PKG	Pilot Project Package	パイロット事業パッケージ
R/D	Record of Discussion	合意議事録

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：コートジボワール	案件名：大アビジャン圏社会的統合促進のためのコミュニティ緊急支援プロジェクト
分野：都市開発・地域開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：社会基盤・平和構築部	協力金額（評価時点）：6.8 億円
協力期間：2013 年 7 月～ 2016 年 6 月	実施機関：内務省、アボボ市、ヨプゴン市 日本側協力機関：株式会社オリエンタルコンサルタンツグローバル、エイト日本技術開発
<p>他の関連協力：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術協力プロジェクト 「中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト」（2013. 11～2016. 11） ● 開発計画調査型技術協力案件 「大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクト」（2013. 02～2014. 11） 「アビジャン圏都市インフラ地理情報システム及びデジタル地形図作成プロジェクト」（2013. 10～2015. 10） 	
<p>1.1 協力の背景と概要</p> <p>コートジボワール共和国（以下、コートジボワール）の首都圏である大アビジャン圏では、10 年に亘るクーデター等や 2010 年の大統領選挙後の騒乱の影響を大きく受けた。なかでも、実際に戦闘が行われたヨプゴン・コミューン（推計約 107 万人）とアボボ・コミューン（推計約 103 万人）は、最も紛争の影響を受けている。これらの地区では都市貧困層の存在や不十分な基礎インフラに加えて、高い失業率が社会の不安定要因となっている。さらに宗教や民族、政治的思考で分裂した社会において住民には相互不信が存在しており、これが近い将来に紛争を再燃させかねないと懸念されている。</p> <p>このような課題に対応するために、コートジボワール政府は、「社会的調和促進プログラム（2012 年-2015 年）」を策定した。本プログラムでは、司法の回復と平和構築に次いで、社会的弱者の生活・健康の改善が 3 点目の大きな取り組むべき課題と位置づけられている。そのために、コートジボワール政府は紛争影響コミューンにおいて、基礎インフラを整備しながら社会統合を推進するアプローチを実践するための技術協力プロジェクト（技プロ）の実施を我が国に要請した。この要請に基づいて、2013 年 2 月、「大アビジャン圏社会的統合促進のためのコミュニティ緊急支援プロジェクト」（以下、本プロジェクト）の実施が合意された。</p>	
<p>1.2 協力内容</p> <p>1.2.1 上位目標： 紛争により影響を受けたコミューンにおいて社会的統合が促進される。</p> <p>1.2.2 プロジェクト目標 社会インフラ整備事業の実施を通じて紛争影響コミューンにおける住民の関係が強化される。</p>	

1.2.3 成果（アウトプット）

成果 1：各コミュニティにおける社会インフラ整備事業の計画及び実施制度の確認結果を踏まえて、パイロット事業が選定される。

成果 2：パイロット事業が実施され、適切に事業が監理される。

成果 3：コミュニティ・オフィス職員が社会インフラ整備事業を実施するための手法が整備される。

1.2.4 投入

(1) 日本側

- ICA 専門家：総括/コミュニティ開発/平和構築、副総括/建築計画 1、建築計画 2、LBT1 / 土木エンジニアリング計画、LBT2、調達監理 1/入札支援、調達監理 2/工事安全管理、施設維持管理（道路/排水）、施設維持管理（建物）/調達監理 3、医療機器、積算（土木）/調達監理 4、積算（建築）、調達監理 5、調達監理 6、環境社会配慮、ローカルガバナンス、社会調査/学校運営・住民活動強化 1、学校運営・住民活動強化 2、学校運営・住民活動強化 3、研修管理・事業モニタリング、業務調整/コミュニティ開発補助
- 機材供与：約 1.5 百万円
- 研修：①C/P 本邦研修：13 名、②国内研修：のべ 530 名
- 現地業務費：約 263 百万円、パイロット事業費、車両調達、現地スタッフ人件費等

(2) コートジボワール側

- カウンターパート（C/P）人材の配置：20 名。
- 施設・機材：オフィス・スペース（MEMIS 内、アボボ市役所内、ヨプゴン市役所内）、C/P 用車両
- 各種手配：プロジェクト活動に必要な情報の入手等
- C/P 活動経費：約 13 百万円

2. 評価調査団の概要

調査者	日本側		
	団長／平和構築	JICA 国際協力専門員（平和構築）	土肥 優子
	調査企画	JICA 社会基盤・平和構築部	前川 貴恵
	評価分析	片平エンジニアリング・インターナショナル	一宮 尚美
調査期間	2015 年 8 月 25 日～2015 年 9 月 12 日	調査区分	終了時評価

3. 評価結果の概要

3.1 紛争分析

本プロジェクトが大統領選挙後の騒乱収束 2 年後のタイミングでスタートした当時、復讐が繰り返された紛争終結直後と比べると対象地域では人々の往来が少しずつ活発になり、IDP に関しても大半が帰還している状況であった。プロジェクト開始時の対象地域における最大の不安定要因は、前大統領バクボ支持派と現大統領ワタラ支持派間の緊張関係が継続していたこと、更には若年層の多くが依然として緊張関係にあった両派の急先鋒層を担っていたことである。加えて中長期的な不安定要因として、住民のコミュニティ行政に対する不信感があげられる。特に紛争終結以降、ヨプゴンコミュニティでは行政における政治色が強くなり、行政機能が満足に

機能していない傾向も指摘されていた。一方、対象地域の安定要因としては、第一にコミュニケーションの基礎能力が比較的高いこと、第二に地域差はあるものの民族・宗教、青年・女性等のグループ別に住民が組織化されていることであった。

その後プロジェクト開始2年目から3年目にかけて、国レベルでは、治安の安定と経済成長の2本柱を軸に国家再建が比較的順調に進む中で、国籍法の制定や政党間の対話、投獄された旧政権関係者の釈放等、遅々としてではあるが着実に国民和解に向けて政治プロセスが進行した。しかしながら国家レベルの取組みが、住民やコミュニティレベルにトリックルダウンすることはさほどなく、対象地域の不安定要因は、プロジェクト開始以降大きく変化しなかった。

以下は、こうした状況とプロジェクトの関係性を鑑みた上での評価結果である。

3.2 成果の実績

(1) 成果1

[指標] 1-1. 社会インフラ整備事業の計画及び実施制度がとりまとめられ、各市役所によって確認される。

1-2. パイロット事業選定基準が策定される。

1-3. 選定されたパイロット事業の内容と役割を住民が理解する。

指標の達成状況から成果1は達成しているといえる。**指標 1-1**：社会インフラ整備事業の計画・実施制度がJCCで承認された。**指標 1-2**：ステークホルダーが参加するキックオフ・ミーティングでパイロット事業選定基準が合意された。アボボとヨブゴン両市で同じ選定基準を用いることになった。**指標 1-3**：パイロット事業は上掲の選定基準にそってロングリストから選定し、各コミュニティとも学校案件と道路案件が各2ヶ所、決まった。プロジェクトではパイロット事業の目的とスケジュールをパイロット事業地区の住民代表に説明した。住民もパイロット事業合同管理委員会（CCGPP）設立やパイロット事業計画づくりを通じて、パイロット事業の目的や内容を理解した。

(2) 成果2

[指標] 2-1. 各パイロット事業サイトで、パイロット事業管理委員会（CCGPP）が各サイトで設立される。

2-2. 調達方針に基づいて住民が雇用される。

2-3. 契約書に沿って労働者に賃金支払いが行われる。

2-4. 各市役所のC/Pがパイロット事業の現場視察を行っている（1回/1週間）。

2-5. 合同モニタリングの結果が適宜、住民にフィードバックされている。

5点設置されている指標は2-1が達成されている。残る指標4点はパイロット事業が終わる2015年9月末には達成予定であることから、成果2は同時期に達成すると見込まれる。**指標 2-1**：2014年2月までに、各パイロット事業サイト（地区）でCCGPPが設立された。CCGPPは市役所C/Pが議長を担当し、住民メンバーは宗教・民族別のグループや女性・若年層等の組織から構成されている。学校パイロット事業のCCGPPにはCOGESと呼ばれる学校管理委員会のメンバーも含まれている。**指標 2-2**：各CCGPPが地元労働者の調達基準を策定した。各施工業者には地元労働者を道路パイロット事業では全労働者の60%、学校パイロット事業では同50%、雇

用することを求めることとした。アボボの道路パイロット事業以外はこれら割合に達した。**指標 2-3**：完工したパイロット事業については、契約書に沿って労働者に賃金が支払われたことが確認されている。実施中のパイロット事業については、CCGPP がモニタリング中である。**指標 2-4**：CCGPP は、各地区においてパイロット事業の工事を毎週にモニタリングしている。**指標 2-5**：毎週のモニタリングの結果は、CCGPP メンバーから住民に求めに応じて共有されている。

(3) 成果 3

[指標] 3-1. 社会的統合に配慮して策定された研修計画に従って研修が実施される。

3-2. パイロット事業実施から取りまとめられた教訓を各市役所の主要 C/P 全員が理解する。

3-3. 教訓を反映した社会インフラ整備事業プロポーザルがドナーに提出される。

成果 3 は、指標 3 点のうち 3-1 が達成しており、残る 2 点は 2016 年 4 月に達成する予定であることから、成果 3 は同時期に達成される見込みである。**指標 3-1**：研修ワーキンググループの協議を踏まえ、2014 年 2 月に社会統合に配慮した研修計画を立て、これは順次、実施されている。コートジボワール国内実施研修については C/P のみならず、パイロット事業地区の CCGPP や COGES メンバーが参加した。**指標 3-2**：CCGPP は対象地区のグループや組織の代表で構成されていることから、CCGPP は市役所と住民の間の協働を推進するうえで有効であることを認識している。プロジェクトとしての教訓取りまとめ活動は、終了時評価後に本格化する予定である。**指標 3-3**：指標 3-2 と関連して、今後、プロポーザル作成は活発化する予定である。なおプロジェクトでは、中間レビューを行い、そこで得られた教訓を反映したインフラ事業のプロポーザル 2 本を日本大使館の資金事業に提出した。

3.3 プロジェクト目標

[指標] 1. パイロット事業実施地区において住民間の活動が活発化する。

1-1. ミーティング開催回数が増加する。

1-2. グループ活動の回数と種類が増える。

1-3. 住民間の関係がよくなったと感じる住民が増加する。

2. パイロット事業を通じて、市役所に対する信頼が醸成される。

2-1. 住民と市役所の直接対話の機会が増加する。

2-2. 住民から市役所へ事業の要望が増える。

プロジェクト目標に設定されている指標 5 点のうち、1-1 と 2-1 が既に達成されている。残る指標 3 点もプロジェクト期間内に達成できると見込まれることから、プロジェクト目標の達成見込みは高い。**指標 1-1**：CCGPP は毎月 1 回、またパイロット事業モニタリングが毎週に、それぞれ開催されている。**指標 1-2**：CCGPP の後継組織が形成されつつあり、プロジェクト期間内にその活動の本格化することが待たれる。**指標 1-3**：CCGPP、ステークホルダー会議や地元労働者のパイロット事業への従事は、住民間の結びつきを深める有用な機会であると参加者に認識されている。CCGPP による活動は残るプロジェクト期間中も続くので、今後、住民間の関係がよくなったと感じる住民が増加することが見込まれる。**指標 2-1**：CCGPP 住民メンバーと市役所との間の直接対話の事例が複数、確認された。**指標 2-2**：今回の調査期間中、住民から市役所に

提出した事業要請書は確認できなかったものの、住民から口頭で市役所に基礎インフラ改善が要請されている。今後は、住民から具体的な要請が行われるようになると期待される。

3.4 上位目標

- [指標] 1. 対象コミュニティにおいて、「安心して生活できる」と感じる住民が増加する。
2. 対象コミュニティにおいて、住民間及びコミュニティ間の協働活動・交流の数及び種類が増加する。
3. 「市役所が情報を開示し、公平な開発を行っている」と感じる住民が増加する。

プロジェクト目標達成見込みや収集した情報を踏まえると、上位目標は長期的には達成が見込まれる。今回調査では、対象コミュニティにおける社会統合には、プロジェクト計画時に想定されていたよりも長い時間を要することが示されたが、社会統合は進みつつあることから、本プロジェクト終了後3年後と特定しがたいものの、上位目標は長期的には達成されると見込まれる。

3.5 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの実施過程の検証を通じて、プロジェクトの効果発現に貢献した要因が3点、反対に阻害した要因が1点、確認された。

(1) プロジェクトの効果の発現に貢献した要因

1) 市役所内の関連組織（部局）をC/Pに加え、既存のリソースを活用したこと

当初、C/Pは技術局のみであった。しかし、住民に直接、関わるサービスを担当していることから、住民と一定の関係を築いている社会部門、及び市役所からの情報を適する手段・方法で通知・連絡する経験が豊富な広報部もC/Pに加えられた。これらにより、(i)社会部門の住民とのコネクションがパイロット事業実施体制に活用できた。(ii)プロジェクト立ち上がり期に、本プロジェクトの狙いや活動が適切に住民につたえられた。立ち上がり期に活動趣旨が誤って理解されると、社会統合に逆方向に作用する可能性もあるが、本プロジェクトは広報部を参加させることでそれらリスクを防いだ。

2) 既存の住民組織（COGES）を含めてCCGPPを設立したこと（学校パイロット事業）

(i) 学校の運営を担当するCOGESと多様なバックグラウンドのCCGPP住民メンバーが協働することになり、COGESメンバー以外にも学校の様子を知るチャンネルができた。学校が住民集会の場所として利用されるようになるなど、地域に開かれた学校が住民の交流を促進している。(ii) COGESは教育行政のなかに学校管理組織として位置付けられている。学校パイロット事業のCCGPPにCOGESがメンバーとして参加していることは、CCGPPの活動がしやすくなるだけでなく、プロジェクト後の校舎の維持管理体制を確保しやすくしている。

3) 非雇用男性若年層をパイロット事業に参加させたこと

非雇用男性若年層は選挙後の危機の際、政治的に動員されて、紛争要因の一つとされた。本プロジェクトでは、平均年齢30歳の約320人の非雇用男性若年層が平均約30日、パイロット事業の工事に従事した。非雇用男性若年層が、文字通り建設的な活動に従事したことは、少な

くともその間、地域社会の治安を維持することに貢献した。

(2) プロジェクトの効果の発現を阻害した要因

1) パイロット事業の道路工事の遅れが、CCGPP メンバーの参加意欲と地元労働者の雇用機会を低下させたこと

地元建設業者に発注した道路パイロット事業では、水道管等地下埋設物の破損や施工内容のまずさから工事契約を数回、延長せざるを得ず、2 ヶ月以上、完工が遅れている。これにより意欲を喪失して CCGPP の活動へ参加しなくなる住民メンバーが出てきて、CCGPP を通じた社会統合の促進を阻害している。また工事進捗の遅れを挽回するため機械工事の割合をふやしたことから、地元労働者が対応できる単純作業の割合が減り、これに伴い雇用機会も減った。

3.6 評価 5 項目による評価結果要約

3.6.1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は極めて高い。**アプローチ**：パイロット事業を通じて市役所と住民、また住民同士が共通の関心事項について協力・協働する切っ掛けを作るというアプローチは社会統合の促進に貢献した。**支援セクター**：パイロット事業は社会統合を促進する効果がある学校とコミュニティ道路が対象であり、適切なセクターが支援対象であった。**開始時期**：本プロジェクトは、2010 年大統領選挙後危機による不信や不安が強く存在する時期に開始され、住民に CCGPP や地元労働者として協働する機会を提供し、社会統合の促進に繋がった。コートジボワール政府（GRCI）が「国家社会統合プログラム（2012 年 - 2015 年）」を開始するのと相前後してプロジェクトが始まっており、適切な開始時期であった。**支援対象地域と支援対象グループ**：紛争の影響を最も受けたアボボ・ヨブゴン両コミュニティは、支援ニーズが大アビジャン圏で最も大きい地域である。支援対象グループはそのコミュニティの住民と市役所職員である。彼らは社会統合実現の主要なアクターであるものの、その具体的な機会がなかったが、本プロジェクトがその機会を提供することができた。**コートジボワールと日本の政策**：「国家社会的調和促進プログラム（2012 年 - 2015 年）」が本プロジェクト開始前に開始されており、社会統合促進を支援する本プロジェクトはこの政策にそっている。また我が国の支援政策の重点分野の一つは「安全で安定した社会の回復」であり、本プロジェクトはこれに沿っている。

3.6.2 有効性

有効性は高い。プロジェクト目標は 2016 年 6 月までのプロジェクト期間中に達成できる見込みである。また 3 つの成果は、パイロット事業が選定され（成果 1）、地域住民と各市役所で構成する CCGPP によりパイロット事業が実施・管理され（成果 2）、パイロット事業を実施するなかで得られた教訓を取りまとめる（成果 3）。その結果、社会インフラ整備事業の実施を通じて紛争影響を受けた対象コミュニティにおける住民の関係が強化されるという構成で、成果の達成がプロジェクト目標の達成に繋がっている。

3.6.3 効率性

効率性は中程度である。日本側とコートジボワール側の投入は、質・量・時期とも適切であ

った。しかし、プロジェクト活動は概ね予定通りに実施されたものの、道路パイロット事業の現地再委託分が平均2ヵ月、完工が遅れた。

3.6.4 インパクト

インパクトは高い。社会統合には時間を要するものの、複数のポジティブなインパクトが既に発現していることが確認できた。代表的なものはヨーロッパ連合（EU）資金による「アボボとヨブゴンにおける住民の和解と社会統合支援事業」（PARCS）であり、社会統合を促進するため住民参加型で基礎インフラを整備するという本プロジェクトの手法を採用していることである。その他の事例は本文を参照されたい。

一方で、想定されなかったネガティブ・インパクトも発生していた。①道路パイロット事業で建設した排水溝で男児が流され行方不明になった事故を受け、排水溝にバリアを設置し、また CCGPP が再発防止に関する啓発を各戸訪問して行い、対応した。②上記と同じ道路で、パイロット事業で整備された区間と未整備区間の相違が大きく、未整備区間の住民が不公平感を抱き、かつて存在した地域分断が再燃しないか懸念されている。市役所が対応工事を行うため、世界銀行の資金に応募予定である。

3.6.5 持続性

持続性は中程度である。**政策面**：高い。「国家社会的調和促進プログラム（2012年 - 2015年）」の後継事業である「国家連帯と社会統合プログラム（2015年 - 2020年）」が始まっている。社会統合を促進することを目指す本プロジェクトは今後もコートジボワールの政策と合致していくといえる。**技術面**：高い。本プロジェクトは新しい機械や技術を導入するものではない。住民代表と CCGPP を運営しながら、社会統合を推進していく知識・技術は、既に C/P が理解・習得している。**社会・文化面**：高い。特に2010年選挙後の危機から一層、社会統合の必要性が認められており、本プロジェクトの手法は良く受容されていくとみられる。**組織・財政面**：相対的に低い。特に市役所においては、組織としてプロジェクトの成果をどう活用していくかの財政面・ロジ費用面を含む具体策が示されていない。

3.7 提言

3.7.1 プロジェクト期間中の提言

- 財政及びロジ面を含めて、CCGPP メンバーと維持管理体制の仕組みについて検討、合意する。（提言先：内務省、市役所）
- プロジェクトで得た教訓を取りまとめ、COSAY で構築したプロセス及び仕組みを、各コミュニティの状況に適応した形で活用する方法を検討する。（提言先：市役所、JICA 専門家）
- COSAY に関する教訓共有セミナーにおいて、COSAY 関係者だけでなく、社会統合の問題を抱える大アビジャン圏の他の市役所の召集も検討する。（提言先：内務省）
- 内務省では、社会インフラ事業実施に関して、行政が住民からの要望を汲み取るシステムを構築したい意向であり、JICA 専門家は適宜アドバイスを行う。（提言先：内務省、JICA 専門家）
- アボボ、ヨブゴンコミュニティを含む大アビジャン圏では、住民レベルの関係修復・社会統

合が引き続き主要課題であり、C/P 機関より協力支援への継続要請を受けていることから、両コミュニケーションにおける本プロジェクトのアプローチの定着や、大アビジャン圏の他のコミュニケーションへの普及支援について検討することが望ましい。(提言先：JICA)

3.7.2 プロジェクト終了後に関する提言

(コミュニケーションに対する提言)

- パイロット事業実施地区において継続的にモニタリングを行い、必要に応じて CCGPP の後継組織に支援を行う。

(内務省に対する提言)

- アボボ・ヨプゴン市役所において COSAY アプローチが実施されているかモニタリングを行う。また適宜支援を行う。
- COSAY で得た教訓をもとに社会統合を促進する社会インフラ事業を行う。

3.8 教訓

- ① 紛争後の移行期から開発期において、能力強化の対象を市役所・住民と設定することにより社会統合の効果を高めた。
- ② 多様なグループを巻き込んだ、住民の組織形成・事業展開により社会統合が促進された。
- ③ 事業選定基準を設定することにより、住民への透明性やアカウンタビリティを保つだけでなく、政治的関与を防ぐことが可能となり、社会統合に貢献した。
- ④ 共通の目標に向けた活動という観点から、社会統合を促進する手段として学校と道路を含めた公共インフラ事業は有効であったが、インフラ整備に必要とされる技術レベルについて確認が必要。工事の遅延は地域住民の社会統合に影響を与える可能性がある。さらに本プロジェクトの道路事業のように裨益を巡り不公平感を創出する場合、社会統合に影響を及ぼす可能性があることに留意する必要がある。
- ⑤ 社会統合を推進するためには、主要なアクターとなる行政とコミュニティの基礎能力が求められる。コートジボワールではその環境が整っていたため、プロジェクトの成果が発揮された。
- ⑥ 紛争終結直後の状況において紛争予防配慮・平和促進を行うためには、C/Ps と日本人専門家間のフォーマル・インフォーマルを含めた密なコミュニケーションが、紛争予防配慮および平和促進の実施に貢献した。
- ⑦ 技術系の日本人専門家の構成に加えて、多岐にわたる社会系の専門分野（平和構築、コミュニティ開発/住民雇用/モニタリング、社会調査/学校管理、環境社会配慮）を含めることで、社会統合に適したプロジェクト実施計画が可能となった。
- ⑧ 紛争終結直後はデータが未整備であるため、プロジェクト開始時の想定が必ずしも実施状況のコンテキストに合わないこともある。必要に応じて PDM の改定が望ましい。

以上

第1章 終了時評価調査の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

今回実施する終了時評価調査は、2016年6月末のプロジェクトの終了を控え、これまでのプロジェクト活動の実績、成果を確認、評価するとともに、今後のプロジェクト活動に対する提言及び今後の類似事業の実施にあたっての教訓を導くことを目的として実施するものである。

また、本終了時評価調査では下記の観点から評価を行った。

- (1) 技術協力の開始から終了（調査時点）までの実績（投入、活動）の確認、実施プロセスの検証
- (2) プロジェクト目標と成果の達成状況、貢献要因・阻害要因の分析
- (3) 上記を踏まえ、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト及び持続性）の観点からの総合的評価
- (4) プロジェクト終了時までに行うべきこと、及びプロジェクト終了後に行うべきことにつき提言
- (5) 類似プロジェクトのための教訓抽出

1-2 調査団の構成と調査日程

本調査の実施においては、カウンターパート側で結成した合同評価委員会と協働し、終了時評価調査を実施した。調査団の構成は下記に示すとおりである。

【日本人側調査団】

氏名	担当業務	所属	期間（渡航日含む）
土肥 優子	団長/平和構築	JICA 国際協力客員専門員	8月29日から9月12日
前川 貴恵	評価企画	JICA 社会基盤・平和構築部	8月29日から9月12日
一宮 尚美	評価分析	片平エンジニアリング・インターナショナル	8月24日から9月12日

【コートジボワール側調査団】

	氏名	担当業務	組織
1	M. Nemlin Abel José	副プロジェクト・コーディネーター	内務省
2	M. Koffi Ehoussou Françoise	副プロジェクト・コーディネーター補佐	内務省
3	M. Coulibaly Valy	技術局長	アボボ市役所
4	Mme Barro Mahoussa	社会・文化・人材局長	アボボ市役所
5	M. Wague Adama	プロジェクトオフィサー	アボボ市役所
6	M. Coulibaly Bengaly	人間開発局長	ヨブゴン市役所
7	M. Bamba Lancine	技術局長補佐	ヨブゴン市役所
8	M. Coulibaly Doulaye	広報局	ヨブゴン市役所

【調査団日程表】

日程		内容	
2015/8/24	月		日本発（一宮）
2015/8/25	火	AM	アビジャン着（一宮）
2015/8/26	水	AM	JICA 事務所表敬訪問 プロジェクト専門家へのインタビュー調査
		PM	プロジェクト専門家へのインタビュー調査 合同評価団との打合せ
2015/8/27	木	AM	インタビュー調査：EPEC (PKG2 Contractor) インタビュー調査：CCGPP @ EPP Plaque 1,2 (Abobo) and Local workers
		PM	インタビュー調査：COGES (Abobo) インタビュー調査：CCGPP @ GS Anonkoua Koute (Abobo)
2015/8/28	金	AM	インタビュー調査：CCGPP @ GS SOGEFIHA 6 (Yop)
		PM	インタビュー調査：COGES (Yop) インタビュー調査：CCGPP @ GS Parmilaie (Yop)
2015/8/29	土		日本発（土肥、前川）
2015/8/30	日		アビジャン着（土肥、前川）
2015/8/31	月	AM	JICA 事務所表敬訪問（土肥、前川） 内務省表敬訪問（土肥、前川） インタビュー調査：MODULUS (PKG3 Contractor) インタビュー調査：CCGPP @ Plaque Road (Abobo)
		PM	インタビュー調査：CCGPP @ Lycee Municipal (Abobo) and Local workers
2015/9/1	火	AM	インタビュー調査：CCGPP @ Andokoi (Yop)
		PM	インタビュー調査：CGQ インタビュー調査：CCGPP @ Banco 2 (Yop)
2015/9/2	水	AM	インタビュー調査：MENET (Education) (a JCC member) (@MEMIS) インタビュー調査：JICA Experts (@MEMIS)
		PM	インタビュー調査：National Social Cohesion Programme
2015/9/3	木	AM	インタビュー調査：Yopougou C/P
		PM	インタビュー調査：PARCS project (EU funded)
2015/9/4	金	AM	インタビュー調査：Abobo Commune C/P
		PM	インタビュー調査：MEMIS Project Coordinator
2015/9/5	土		評価報告書準備
2015/9/6	日		評価報告書準備、団内協議
2015/9/7	月	AM	評価報告書準備
		PM	団内協議 専門家チームとの協議
2015/9/8	火	AM	翻訳作業
		PM	評価報告書準備
2015/9/9	水	AM	評価報告書準備
		PM	合同評価団との協議
2015/9/10	木	AM	JCC、MM 署名取付
		PM	JICA 事務所報告資料作成
2015/9/11	金	AM	JICA 事務所報告
		PM	アビジャン発（土肥、前川、一宮）
2015/9/12	土		日本着（土肥、前川、一宮）

1-3 主要面談者

内務省地方分権化・地方開発局

Mr. Parfait Gohourou	Director General / DGDDL
Mr. Gbala Gnato Raphaël	Coordinator JICA-DGDDL projects
Mr. Nemlin Abel José	Deputy Coordinator JICA-DGDDL projects

アボボ市役所

Mr. Koné Siaka	Deputy Mayor
Mr. Coulibaly Valy	Technical Director, Director of the Social, Cultural and Human Department
Mme Barro Mahoussa	Communications Officer
Mr. Doumbia Adama	

ヨプゴン市役所

Mr. Coulibaly Issifou	1st Deputy Mayor
Mr. Yeo Adama	Technical Director
Mr. Ouattara Seydou	Assistant Director, Technical Department
M. r Coulibaly Bengaly	Director, Human Development Department
Mr. Coulibaly Doulaye	Communication Officer

CCGPP メンバー

Mr. Traoré Mamadou	EPP Plaque 1&2, Abobo
Ms. Koffi Agnès	Anonkoua Kouté 3&4, , Abobo
Mr. Koné Abdoulaye	Lycée Municipal, Abobo
Mr. Fofoana Sindou	Plaque/ Garrefour Jack, Abobo
Ms. Sidibé Awa epse Diane	SOGEFIHA6, Yopougon
Mr. Soumahoro Minignan	Palmerale, Yopougon
Mr. Manbo N'cho François	EPP Banco2, Yopougon
Mr. Desse Fabrice	Andokoi/ Lycee to la Clinique Nazareen, Yopougon

PARCS (EU 資金事業)

Mr. Kone Donikpo	Project Coordinator,
------------------	----------------------

連帯・家族・女性・児童省

Ms. Ouattara Yra Elise	Director, Solidarity and Social Cohesion Observatory
------------------------	---

JICA コートジボワール事務所

藤山 真由美	企画調整員
--------	-------

プロジェクト JICA 専門家

関口 正也	総括/コミュニティ開発/平和構築
浦田 あゆみ	社会調査/学校運営・住民活動強化

服部 圭介
小林 宏昭
乙黒 圭子

研修管理/事業モニタリング
調達監理 5
施設維持管理（建物）/調達監理 3

第2章 終了時評価の方法

2-1 評価手法

今回の終了時評価は、『JICA 事業評価ガイドライン第1版』（2010年）（以下「事業評価ガイドライン」と略す）、及び『紛争影響国・地域の事業評価の手引き』（2012年11月版、JICA 内部執務参考資料）（以下「紛争影響事業評価手引き」と略す）に基づき、また対象プロジェクトの協力趣旨を踏まえて実施した。評価方法は、現行の Project Design Matrix（以下、PDM）、及び Plan of Operation（以下、PO）に基づいて、プロジェクトの進捗状況と実施プロセス、プロジェクト目標と各成果との達成状況を検証し、その結果をもとに評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点から対象プロジェクトを評価した。

2-2 評価5項目

今回評価で用いた評価5項目の定義は下表に示すとおりである。

表 2-1 評価5項目の定義

評価5項目	JICA ガイドラインでの定義
妥当性 (Relevance)	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度ならびに政策・方針との整合性の度合い。
有効性 (Effectiveness)	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性 (Efficiency)	インプットに対するアウトプット（定性ならびに定量的）を計測する。開発援助が期待される結果を達成するために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。
インパクト (Impact)	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずを生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境ならびにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性 (Sustainability)	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

出所：JICA、2010『新 JICA 事業評価ガイドライン（第1版）』P.19

2-3 評価の枠組み

評価設問を設定するにあたり、まず討議議事録（Record of Discussion：R/D）、PDM 第1版、PO 第1版、詳細計画策定調査報告書、Progress Report（半年に1回作成・提出）、コートジボワール国の各種開発計画等の文献レビューを行った。文献レビュー結果、及び対象プロジェクトの現地活動が2016年4月末まで実施予定であることを踏まえて評価設問（評価グリッド）を設定し、これを中心に現地調査を実施した。

主な評価項目は次の通りである。詳細な評価項目は添付資料4 Annex10の評価グリッドを参照されたい。

表 2-2 主な評価項目

実績の検証	日本側投入：専門家派遣、機材供与、研修、現地業務費
	コートジボワール側投入：カウンターパート（以下、C/P）配置、施設・機材提供、C/P 活動経費、各種手配
	成果3点の達成状況
	プロジェクト目標の達成見込み
	上位目標の達成見込み
実施プロセスの検証	活動の進捗状況
	技術移転の状況
	プロジェクト関係者間のコミュニケーション
	コートジボワール側のオーナーシップ
妥当性	コートジボワール側の支援ニーズ、及び日本の援助政策との整合性があるか。
有効性	プロジェクトの実施により期待される効果が得られるか。
効率性	アウトプットは投入されたインプットに見合うものであるか。
インパクト	プロジェクトが実施されたことにより生じる波及効果のプラス・マイナスの効果はあるか。
持続性	協力終了後、プロジェクトによってもたらされた成果や開発効果が持続されるか、拡大されていく可能性があるか。

出所：終了時評価調査団作成

2-4 情報・データの収集方法

本調査にあたっては、関連する文献（R/D、PDM、PO、Project Progress Report 等）のレビュー、JICA 専門家（以下、JET）、C/P 及び合同パイロット事業管理委員会（以下、CGGPP）及び関連する事業の担当者等へのアンケート調査やインタビューを行い、必要な情報・データを収集した。また現地調査開始時点で C/P 及び JET を対象に、終了時評価調査の概要を説明した。

主な情報源は次の通りである。

- ① プロジェクト要請書、詳細計画策定調査報告書、協議議事録（Minutes of Meetings: M/M）、合意議事録（Record of Discussion: R/D、Progress Reports、Baseline Report 特に 2015 年 7 月作成の第 4 号、コートジボワール開発計画関連文書
- ② PDM 英文版（付属資料 4 の Annex 2）
- ③ PO 英文版（同 Annex 3）
- ④ 日本側及びコートジボワール側の投入に関する記録（同 Annex 4, 5, 6, 7, 8）
- ⑤ 日本人専門家及び C/P に対する質問票及びインタビューの結果
- ⑥ 以下の関係機関に対する聞き取り調査の結果：学校運営委員会（Comité de Gestion des Etablissements Scolaires: COGES）、ヨーロッパ連合（EU）資金による社会インフラ整備事業（Projet d'Appui à la Réconciliation et à la Cohésion Sociale des populations des communes: PARCS）、連帯・家族・女性・児童省（Ministry of Solidarity, Family, Women and Children: MSFWC）、道路パイロット事業請負業者
- ⑦ 地元労働者雇用状況、ベースライン調査報告書、エンドライン調査速報
 エンドライン調査：2015 年 8 月に実施された。そのデータ収集結果は終了時調査終了直前に参照できるようになったものの、詳細なデータ分析は本調査後に行われることから、本報告書ではエンドライン調査の速報値として扱っている。

またベースライン調査及びエンドライン調査の調査項目には、プロジェクト目標の指

標と上位目標の指標の全てが含まれているわけではなく、一部の指標は対象外となっていることから、両調査対象外の指標については終了時評価調査団が実施したインタビュー、質問票回答や観察結果に基づいている。

第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

3-1 投入実績

終章時評価調査時点での日本側及びコートジボワール側の投入の実績は以下に示すとおりである。

3-1-1 日本側の投入

日本側からは、専門家派遣、機材供与、研修、及び現地業務費がおおむね計画どおりに投入された。

項目	概要
専門家派遣	24名 84人月相当 総括/コミュニティ開発/平和構築
エンジニアリング分野	副総括/建築計画1、建築計画2 LBT 1 /土木計画、LBT2 調達監視1 /入札補助、調達監視2 /工事安全管理、調達監視5、同6 施設維持管理（道路・排水）、施設維持管理（建物）/調達監視3 医療機器 積算（土木）/調達監視4、積算（建築） 環境社会配慮
社会開発分野	ローカルガバナンス 社会調査/学校運営・住民活動強化1、学校運営・住民活動強化2、同3 研修管理/事業モニタリング 業務調整/コミュニティ開発補助1、同2、同3、同4
機材供与	日本円価 1.5百万円（CFA 価 7.1百万フラン相当）分の機材を供与 主な内容：デジタル・カメラ、パソコン
研修	①C/P 本邦研修：13名 「社会統合推進コース」 I 及び II ②国内研修：のべ 530名 「環境社会配慮」、「カイゼン」、「パイロット事業選定」等
現地業務費	日本円価 263百万円（CFA 価 1,271百万フラン相当） 主な内容：パイロット事業（道路、学校）経費、車両調達、プロジェクトスタッフ人件費

出所：PROGRESS REPORTS JULY 2015 に基づいて、終了時評価調査団作成。JPY1=C FCA0.207, JICA2015年8月公定レート

3-1-2 コートジボワール側の投入

コートジボワール側からは、C/P 配置、施設・機材の提供、各種手配、及び C/P 活動経費が投入された。

項目	概要
C/P 配置	MEMIS：プロジェクト・ダイレクター（MEMIS 地方分権化総局長）、プロジェクト・コーディネーター（同総局長顧問） アボボ市役所：プロジェクト・マネージャー（市長）、プロジェクト・リーダー（技

項目	概要															
	術局長)、プロジェクト・リーダー (社会・文化・人材局)、プロジェクト・リーダー (広報局長) ヨブゴン市役所：プロジェクト・マネージャー (市長)、プロジェクト・リーダー (技術局長)、プロジェクト・リーダー (人間開発局長)、プロジェクト・リーダー (広報主任)															
施設・機材	オフィス・スペース：MEMIS 内、アボボ市役所内、ヨブゴン市役所内 C/P 用車両															
各種手配	プロジェクト活動に必要な情報の入手等															
C/P 活動経費*	各市役所とも 2015 年から C/P 活動経費を投入している。 単位：C FCA															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2015 年</th> <th>2016 年</th> <th>計</th> <th>円価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アボボ市</td> <td>33,800,000</td> <td>9,800,000</td> <td>43,600,000</td> <td>¥9,025,200</td> </tr> <tr> <td>ヨブゴン市</td> <td>20,000,000</td> <td>n. a.</td> <td>20,000,000</td> <td>¥4,140,000</td> </tr> </tbody> </table>		2015 年	2016 年	計	円価	アボボ市	33,800,000	9,800,000	43,600,000	¥9,025,200	ヨブゴン市	20,000,000	n. a.	20,000,000	¥4,140,000
	2015 年	2016 年	計	円価												
アボボ市	33,800,000	9,800,000	43,600,000	¥9,025,200												
ヨブゴン市	20,000,000	n. a.	20,000,000	¥4,140,000												

出所：PROGRESS REPORTS JULY 2015 に基づいて、終了時評価調査団作成。

*C/P 活動経費は MEMIS 提供資料に基づく。JPY1=C FCA0.207, JICA2015 年 8 月公定レート

3-2 成果の達成度

成果の達成状況を PDM 第 1 版に記載された指標を用いて確認した。その際、指標達成状況を次のように三分類した。

分類	状況
A	既に達成されている。
B	プロジェクト期間内に達成される見込み
C	プロジェクト期間内に達成されるのは困難

3-2-1 成果 1

3 点設置されている指標の達成状況に基づくと、成果 1 は 2014 年 5 月までに達成していた。

成果 1 各コミュニケーションにおける社会インフラ整備事業の計画及び実施制度の確認結果を踏まえて、パイロット事業が選定される。

指標 1-1. 社会インフラ整備事業の計画及び実施制度がとりまとめられ、各市役所によって確認される。

1-2. パイロット事業選定基準が策定される。

1-3. 選定されたパイロット事業の内容と役割を住民が理解する。

指標	総合	指標 1-1	指標 1-2	指標 1-3
達成度	A	A	A	A

指標 1-1：社会インフラ整備事業の計画及び実施に関する制度は、2014 年 4 月までに市役所ごとに実務者レベルの C/P と JET によってとりまとめられ、2014 年 8 月の第 3 回合同

調整会議（JCC）で承認された。

指標 1-2：2013年8月に開催されたキックオフ・ミーティング上、MEMIS、両市役所のC/P、及びJETが、R/Dに記載されているパイロット事業選定基準のドラフトについて確認・合意した。アボボとヨプゴン両市の状況に大きな相違がないことから、同じ選定基準を用いることになった。

表 3-1 パイロット事業選定基準

選択基準	細目
パイロット事業の直接的効	<ul style="list-style-type: none"> - 緊急性と必要性 - 対象となる受益者のサイズ - (パイロット事業を含む) 他のプロジェクトとのシナジー効果
技術的实施可能性	<ul style="list-style-type: none"> - 建設が想定スケジュール期間で完了できる - 今後の開発計画との乖離がない - 補修時、維持管理が簡単である - 建設資機材輸送のための交通機関への容易なアクセス
雇用機会	<ul style="list-style-type: none"> - 地元住民の建設工事への参加が期待できる - 無職の若年層の建設工事への参加が期待できる - 労働者の次の雇用機会がパイロット事業付近に存在している
社会的統合への寄与	<ul style="list-style-type: none"> - 多様な地域住民がパイロット事業の成果を享受できる - 多様な民族がパイロット事業に参加できる
コミュン住民の取り組み状況・参加意思	<ul style="list-style-type: none"> - 地域住民からの同意 - パイロット事業に協力できるコミュニティ組織が存在 - コミュニティ組織の活動実績と経験
プロジェクトコスト	<ul style="list-style-type: none"> - 予算内である - 特殊工事が伴わない

出所：プロジェクト資料に基づいて終了時評価調査団作成

指標 1-3：パイロット事業は段階的に選定された。要請書では医療施設、道路（排水溝設置を伴う）、学校への支援が挙げられていたが、まず各市役所が、それぞれ10を超える学校・道路が含まれた第一次リストを準備した。次いで、C/PとJETで上掲の選定基準を使って対象を選定し、その結果を第二次リストとした。さらに第二次リストを第1回ステークホルダー会議の結果を踏まえて精査し、次のパイロット事業地が選定された。

表 3-2 選定されたパイロット事業地

分野	コミュン	アボボ	ヨプゴン
学校		Anonkoua Koute 3, 4 Plaque 1, 2	SOGEFIHA 6 Palmerale
道路		EPP Plaque & Carrefour Jack Lycee Municipal	Lycee to la Clinique Nazareen EPP Banco2

出所：プロジェクト資料に基づいて終了時評価調査団作成

パイロット事業の選定結果は、2013年11月に開催された第2回ステークホルダー会議上で、第二次リストに記載された地区（カルティエ）の住民代表に報告された。選定されたパイロット事業は同年12月の第2回JCCに報告された。また同時に、各市役所において、プロジェクト（C/PとJET）はパイロット事業の目的とスケジュールをパイロット事業地である地区の住民代表に説明した。また各地区の住民は、CCGPPの設立やパイロット事業の計画づくりを通じて、パイロット事業の目的や内容を理解した。一連のプロセスは2014年5月に終了した。

3-2-2 成果2

5点設置されている指標は2-1が達成されている。残る指標4点の達成はパイロット事業の完工を待つ必要がある。パイロット事業は2015年9月中に完工予定であることから、残る指標4点、また成果2は2015年9月末には達成すると見込まれる。

成果2 パイロット事業が計画に沿って実施され、適切に事業が監理される。

- 指標
- 2-1. 各パイロット事業サイトで、パイロット事業管理委員会（CCGPP）が各サイトで設立される。
 - 2-2. 調達方針に基づいて住民が雇用される。
 - 2-3. 契約書に沿って労働者に賃金支払いが行われる。
 - 2-4. 各市役所のC/Pがパイロット事業の現場視察を行っている（1回/1週間）。
 - 2-5. 合同モニタリングの結果が適宜、住民にフィードバックされている

指標	総合	指標 2-1	指標 2-2	指標 2-3	指標 2-4	指標 2-5
達成度	B	A	B	B	B	B

指標 2-1：2014年2月までに、各パイロット事業サイト（地区）でCCGPPが設立された。

- 次のプロセスでCCGPPは設立された。
 - C/PがCCGPPメンバーの構成原案をパイロット事業地区に提案した。原案は以下のメンバー構成である。(i)C/P：議長を担当する、(ii)宗教・民族からのリーダーを含めたステークホルダー、(iii)パイロット事業セクターに関連する組織、例えば学校の場合はCOGES。また女性団体、若年層団体。また存在すれば職工組合も想定。
 - 各パイロット事業地区では、ステークホルダーが中心となりCCGPPメンバー案をとりまとめた。C/PとJETが、パイロット事業の趣旨に照らして適切なメンバー構成となるよう提出されたメンバー案を確認した。場合によっては再検討してもらうため、各地区にメンバー案を差し戻した。
 - CCGPPメンバーは、第1回CCGPP会議でメンバー相互に承認しあい、発足した。ただし、CCGPPのメンバー構成は一律なものではなく、パイロット事業の内容と地区の状況に応じた構成である。
- CCGPPには3つの役割がある。
 - 各パイロット事業をスムーズに実施すること。各CCGPPとも、パイロット事業のPDM、PO及びサイト・プランなどの実施計画を2014年5月までに作成し終わった。

- ステークホルダーとともに社会統合への意識の強化・向上を通じて、地区既存の社会資本を再強化すること。
- パイロット事業後、パイロット事業に従事した元地元労働者の就業を支援すること。

指標 2-2：各パイロット事業地区では、プロジェクトで設けた調達方針に沿って地元労働者が雇用されている。

- パイロット事業開始に先立ち、各 CCGPP は道路や校舎建設の工事業者に提示する地元労働者調達基準を作成した。地元労働者として応募できる基準の一例は次の通りである。(i)17 歳から 61 歳の間、(ii)パイロット事業の行われる地区に在住していること、(iii)学生ではないこと、(iv)応募時、無職であること。
- 各施工業者には、地元労働者を道路パイロット事業では全労働者の 60%、学校パイロット事業では同 50%、雇用することが求められた。このパーセンテージは、道路と学校それぞれの工事の品質を確保しながら、人力作業あるいは非熟練工の作業を最大化できるよう、JET が協議を重ねて導きだしたものである。
- 必ずしも全ての施工業者がこの方針に速やかに同意したわけではなく、自社の方法で労働者を連れてこようとした業者もいた。そのため、CCGPP メンバーが、パイロット事業は単なる工事ではなく社会統合のための活動であり、地元労働者の雇用が重要であることを説明し、施工業者の合意を得た地区もあった。
- 終了時評価時、地元労働者の雇用率は学校事業では両コミュニティとも目標値を超えた。道路事業ではヨブゴン・コミュニティでは目標値を超えたが、アボボ・コミュニティの道路事業は目標値を下回った。道路事業は、工事の遅れを挽回するために効率のよい機械工事が途中から増え、その分人力作業が減ったため、地元労働者の調達も当初予測よりも減少した。しかし、全体としては、プロジェクトが作成した調達基準に基づいて、施工業者が地元労働者を採用していると見なせる。
- 1 日でもパイロット事業に従事した地元労働者は 393 名であり、この人数が他のグループの住民と同じ現場で働く機会を持った。
- CCGPP はパイロット事業完工まで、施工業者が調達方針を遵守しているかどうか、モニタリングを継続する予定である。

表 3-3 パイロット事業の地元労働者雇用概況

パイロット事業区分	地元労働者の累計従事日数	地元労働者の占める割合	平均従事日数	平均年齢	男性/女性比
アボボ 学校	1,719	59%	12.9	31.1	91%/9%
ヨブゴン学校	1,971	69%	15.4	30.7	77%/23%
アボボ 道路	1,202	46%	23.9	26.0	100%/0%
ヨブゴン道路	2,501	66%	79.5	29.0	86%/14%

出所：プロジェクト提供最新データをもとに終了時評価調査団作成

指標 2-3：CCGPP のモニタリング状況によれば、パイロット事業のうち完工したパッケージ 3 件（PP-PKG-1、PP-PKG-S1、及び PP-PKG-2）では、契約書に沿って労働者に賃金が

支払われた。現在、施行中のパイロット事業については、上述のとおり CCGPP がモニタリング中であり、賃金が適切に支払われ、本指標を達成できるよう注視している。

指標 2-4：C/P を含めた CCGPP は、各地区においてパイロット事業の工事を毎週（火曜日に道路工事、水曜日に学校工事）モニタリングしている。パイロット事業実施中は引き続き、実施される予定である。

指標 2-5：毎週のモニタリングの結果は、CCGPP メンバーから住民に求めに応じて共有されている。またパイロット事業の計画や設計を変更することが必要になった際は、その旨も CCGPP メンバーから地域住民に知らせている。このような情報共有は、残るプロジェクト期間中も継続される予定である。

3-2-3 成果 3

成果 3 は、指標 3 点のうち 3-1 が達成している。残る指標 2 点は、終了時評価後に本格化するプロジェクト活動を通じて 2016 年 4 月には達成することが見込まれることから、成果 3 も同時期に達成する見込みである。

成果 3 社会統合に配慮した社会インフラ整備事業を実施するための手法が整備される。

- 指標
- 3-1. 社会的統合に配慮して策定された研修計画に従って研修が実施される。
 - 3-2. パイロット事業実施から取りまとめられた教訓を各市役所の主要 C/P 全員が理解する。
 - 3-3. 教訓を反映した社会インフラ整備事業プロポーザルがドナーに提出される。

指標	総合	指標 3-1	指標 3-2	指標 3-3
達成度	B	A	B	B

指標 3-1：プロジェクトでは研修ニーズを把握し、また C/P と研修関係の JICA 専門家とで構成する研修ワーキンググループでの協議を踏まえ、2014 年 2 月に社会統合に配慮した研修計画を立てた。

これに基づいて各種研修が実施された。C/P 本邦研修は 2 回実施され、13 人が参加した。またコートジボワールでの研修は 21 コースあり、延べ 530 名が「環境社会配慮」、「カイゼン」、「パイロット事業選定」、「社会的統合とコミュニティ開発」等に参加した。詳細は付属資料 1. 「合同評価報告書」の Annex 6 を参照されたい。コートジボワール国内で実施した各種研修には、C/P のみならず、パイロット事業地区の CCGPP や COGES メンバーが参加した。

指標 3-2：パイロット事業の実施から得られた教訓を取りまとめるプロジェクト活動は、終了時評価後に本格化する予定である。一方、パイロット事業の実施を通じて下記の認識を有している C/P もいる。パイロット事業のモニタリングは継続されているので、

残るプロジェクト期間内には、パイロット事業実施からの教訓が取りまとめられると見込まれる。

- インフラ事業の初期から地区住民を巻き込むのは、インフラ事業をスムーズに実施するために、住民との合意を形成するうえで有効であった。
- CCGPP は対象地区のグループや組織の代表で構成されていることから、CCGPP は市役所と住民の間の協働を推進するうえで有効でありえた。
- 住民からのコンセンサスを得るうえで、選択基準に基づく事業選定は有益であった。これは特に、アボボ・コミュニティで認められた。

指標 3-3： 指標 3-2 と関連して、今後、プロポーザル作成は活発化する予定である。なおプロジェクトは、パイロット事業の実施を通じて得た教訓を他ドナーと共有するために、中間セミナーを開催した。そこで得られた教訓を反映したインフラ事業のプロポーザルが、既に 2 本提出された。これは日本大使館の資金事業への応募であるが、残念ながら採用されなかった。今後、パイロット事業の教訓取りまとめと合わせて、それらを反映したプロポーザルはさらに作成される予定である。

3-3 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標に設定されている指標 5 点のうち、1-1 と 2-1 の 2 点が既に達成されている。終了時評価時点での状況、プロジェクトの残り期間、及びプロジェクト活動の進捗状況を照らし合わせると、残る指標 3 点もプロジェクト期間内に達成できると見込まれる。これらのことから、プロジェクト目標はプロジェクト期間内にほぼ達成すると見込まれる。

プロジェクト目標 社会インフラ整備事業の実施を通じて紛争影響をうけた対象コミュニティにおける住民の関係が強化される。

- 指標
1. パイロット事業実施地区において住民間の活動が活発化する。
 - 1-1. ミーティング開催回数が増加する。
 - 1-2. グループ活動の回数と種類が増える。
 - 1-3. 住民間の関係がよくなったと感じる住民が増加する。
 2. パイロット事業を通じて、市役所に対する信頼が醸成される。
 - 2-1. 住民と市役所の直接対話の機会が増加する。
 - 2-2. 住民から市役所へ事業の要望が増える。

指標	総合	指標 1 1-1	指標 1 1-2	指標 1 1-3	指標 2 2-1	指標 2 2-2
達成度	B	A	B	B	A	B

「2-4 情報・データの収集方法」で述べたように、エンドライン調査ではプロジェクト目標の指標の全てが調査項目になっていないことから、以下に述べる指標達成状況は調査団が収集したデータ・情報に基づいている。またプロジェクト目標の指標のうち、プロジェクトが実施したエンドライン調査の調査項目に含まれているものについて、エンドライン調査の結果を併せて報告する。なお既述のように、エンドライン調査のデータ収集結果は終了時調査終了直前に

参照できるようになり、詳細な分析は終了時調査後に行われることから、本報告書では速報として扱っている。次の節の上位目標の指標の達成状況も同様である。

指標 1-1：本プロジェクト開始前には、宗教・民族や女性・若年層・COGES といった既存の組織内での交流はあっても、これらの枠を超えた交流の機会が官製の会合以外、極めて少なく、CCGPP はこれらの垣根を超えた住民の集まりとして最初のものである。CCGPP は設立以来、毎月 1 回、またパイロット事業モニタリングが毎週に、それぞれ定期的に行われていることから、この指標は達成されている。なお、CCGPP 住民メンバーは無償であることから、仕事が忙しいときは参加しないが、代理を送る等の対応をしている。

指標 1-2：CCGPP とパイロット事業モニタリングが開催されている。これは以外では、CCGPP の後継組織が今後、本格的に動き出そうとしている状況である。これが活動を開始すれば、CCGPP とパイロット事業モニタリング以外の住民活動の回数と種類が残るプロジェクト期間中に増加するので、この指標が達成できると考えられる。

指標 1-3：パイロット事業実施地区において CCGPP、ステークホルダー会議や地元労働者のパイロット事業への従事は、結びつきを深めることができる有用な機会であると参加者に認識されていることがインタビュー調査を通じて判明している。例えば、異なる民族グループに所属する CCGPP メンバー同士が道の向こうとこちらで挨拶しあうようになっている。このようなことは過去にあまり例がないようである。CCGPP の住民メンバー、特に民族グループ・リーダー同士については、すでにそれぞれの間柄が良くなったといえる状態である。残るプロジェクト期間では民族リーダー同士の関係が強化されるとともに、各民族グループに所属する人々にもリーダー同士の関係改善の影響が徐々に広まっていくことが期待される。

指標 2-1：CCGPP は、市役所メンバーと住民メンバーの間のコミュニケーションの場となり、また CCGPP 住民メンバーと市役所との直接対話には事例が複数、あることから、本指標は達成しているといえる。

- CCGPP で市役所メンバーと直接、また定期的パイロット事業について協議するようになった住民メンバーは、市役所メンバー個々を認識するようになるとともに、市役所が住民のために何をしているのかを知るようになった。
- そのため市役所への心理的距離が縮まり、行きやすくなったと感じている。CCGPP の活動の一つであるパイロット事業で雇用する地元労働者の登録は市役所で行うなど、全体として市役所と CCGPP メンバーの間に往来ややり取りが増えている。
- 住民メンバーが別の要件で市役所に行った際は、特段の用件がなくとも CCGPP の市役所メンバーのオフィスに挨拶に行くなどしている。
- 市役所メンバーが住民から伝統的な祝祭に招待された。

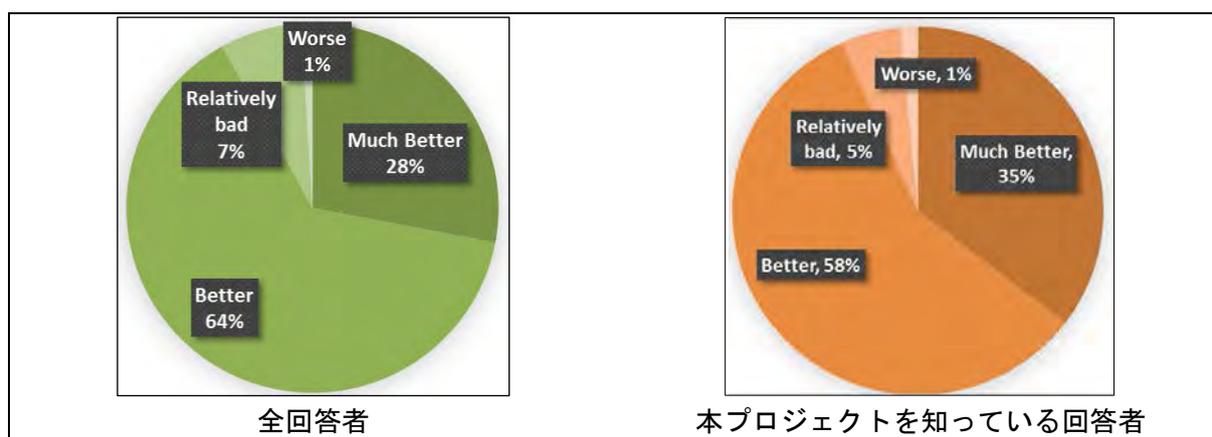
指標 2-2：今回の調査期間中、住民から市役所に具体的な事業要請が上がった事例、例えば要請書は確認できなかった。しかし、CCGPP やパイロット事業モニタリングの機会を

活用して、住民から市役所に基礎インフラ改善が口頭で要請されているそうである。これは上記の指標の住民と市役所の直接対話の機会が増加していることの証左ともいえる。プロジェクト終了時までには、具体的な要請が住民から申し入れが行われるようになると期待できる。

一方、エンドライン調査では次のような速報結果が出ている。なおエンドライン調査は全パイロット事業の対象である地区全体を対象にランダム・サンプリングで実施し、回答者 3,200 人中、本プロジェクトのことを知っている回答者は 13%、CGPP のことを知っている回答者は 5%であった。この割合を考慮し、回答者全体と本プロジェクトを知っている回答者に分けて、エンドライン調査結果速報を紹介する。

「指標 1-3：住民間の関係がよくなったと感じる住民が増加する」に関し、「2013 年に比べて、居住しているサブ・カルティエで住民間の関係をどう思うか」を尋ねた。「とても良くなっている」「良くなっている」と思う人は全回答者で 92%、本プロジェクトを知っている回答者が 93%に達しており、インタビュー等から得られた結果とエンドライン調査結果が一致している。

なお、全回答者のうち、「とても良くなっている」「良くなっている」と思う人はアボボ市で 93%、ヨブゴン市で 91%である。



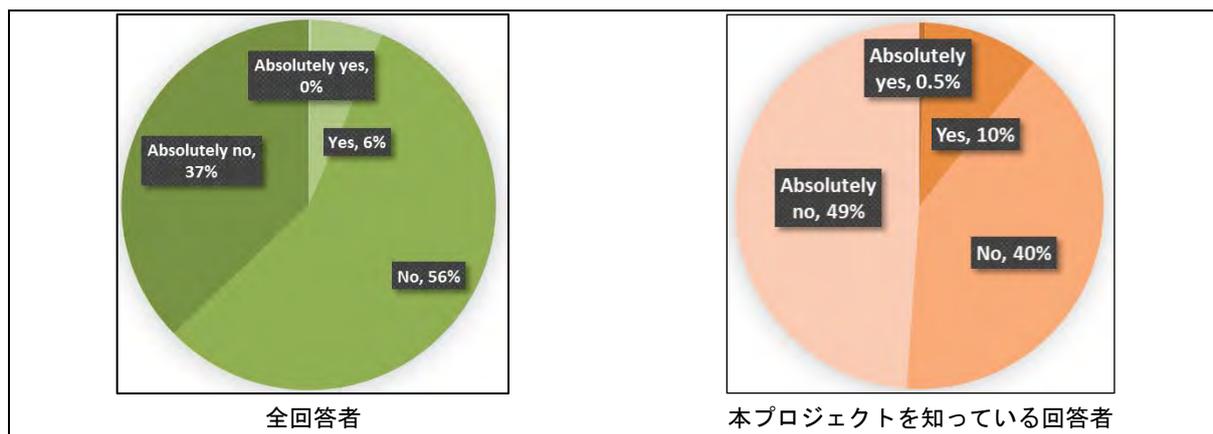
出所：プロジェクト提供データを基に終了時評価調査団でグラフを作成

図 3-1 「2013 年に比べて、居住しているサブ・カルティエで住民間の関係をどう思うか」

「指標 2-1. 住民と市役所の直接対話の機会が増加する」に関し、「2013 年に比べて、市役所があなたの声に耳を傾けるようになったと思うか」を尋ねた。全回答者では「とてもそう思う」「そう思う」と思う人々は 6%であり、「そう思わない」「全くそうは思わない」と答えた人々は 94%である。一方、本プロジェクトを知っている回答者では、「とてもそう思う」「そう思う」と思う人々は 11%であり、「そう思わない」「全くそうは思わない」と思う人々は 89%である。本プロジェクトを知っている回答者のほうが、全回答者よりも「2013 年に比べて、市役所があなたの声に耳を傾けるようになったと思う」の割合が多い。本プロジェクトを知っているということは、市役所と住民代表とが協働してプロジェクト活動を行っていることも知っている可能性が高く、従って市役所の姿勢の変化を認識していると考えられる。一方で、プロジェクト

を知っている人でも、市役所の姿勢を評価しているのは11%と1割強にとどまっている。これは、住民の声を反映した行政サービスあるいは市政に向けて、まだ課題があることを示している。

なお、全回答者のうち、「そう思わない」「全くそうは思わない」と答えた人はアボボ市とヨプゴン市とも94%である。参考までに、この速報値を聞いた市役所関係者には、住民とのコミュニケーションに対する努力に対する評価が、市役所側で考えるよりも低いことが少なからず驚きをもって受け止められた。



出所：プロジェクト提供データを基に終了時評価調査団でグラフを作成

図 3-2 「2013年に比べて、市役所があなたの声に耳を傾けるようになったと思うか」

3-4 上位目標の達成見込み

プロジェクト目標達成見込みや収集した情報を踏まえると、上位目標は長期的には達成が見込まれる。一方、現在の指標に定量的指標が少ないことから、事後評価調査時、上位目標の達成状況が客観的にも評価しやすくなるよう定量的な指標の追加が必要とみられる。

上位目標 紛争により影響を受けたコミュニティにおいて社会的統合が促進される。

- 指標
1. 対象コミュニティにおいて、「安心して生活できる」と感じる住民が増加する。
 2. 対象コミュニティにおいて、住民間及びコミュニティ間の協働活動・交流の数及び種類が増加する。
 3. 「市役所が情報を開示し、公平な開発を行っている」と感じる住民が増加する。

指標	総合	指標 1	指標 2	指標 3
達成度	B	B	B	B

終了時調査期間の情報・データの収集・分析から、調査団は次のような判断に至った。(i) 上位目標の目標年が明示されていないが、JICA 技術協力プロジェクトで一般的なプロジェクト終了後3年が目標年と推定される。(ii) 今回調査では、対象コミュニティにおける社会統合には、プロジェクト計画時に想定されていたよりも長い時間を要することが示された。(iii) 「3-3 プロジェクト目標の達成見込み」で述べたように社会統合は進みつつあることから、本プ

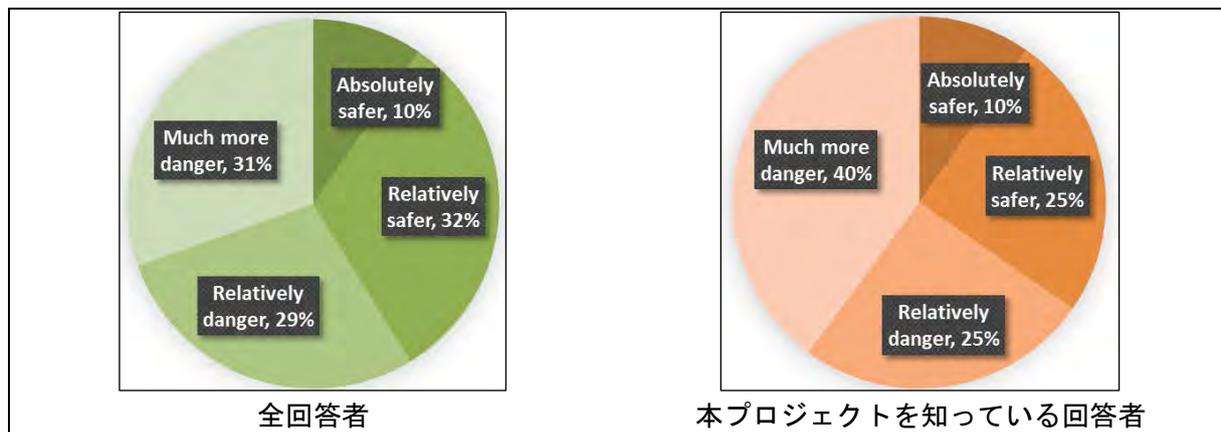
プロジェクト終了後 3 年後と特定しがたいものの、上位目標は長期的には達成されると見込まれる。

現在の指標 3 点については、指標 1. と 3. が「～と感じる」と住民の認識を問う定性的指標であり、社会経済状況に左右される可能性が高い。また指標 2 はベースライン調査及びエンドライン調査の調査項目に含まれていないことから、「住民間及びコミュニティ間の協働活動・交流の数及び種類」を定義するためのサンプル調査が必要になり、調査コストを要することが想定される。これら状況から、上位目標により定量的指標があると事後評価調査が効率的に実施でき、また上位目標の達成状況が客観的にも評価しやすくなるといえる。

一方、エンドライン調査では次のような速報結果が出ている。

「指標 1. 対象コミュニティにおいて、「安心して生活できる」と感じる住民が増加する」に関し、「2013 年に比べて、日常生活でセキュリティーが良くなっていると感じるか」を尋ねた。「とても安全になった」「安全になった」と思う人々は全回答者では 42%であり、「危険になった」「はるかに危険になった」と答えた人々は 59%である。一方、本プロジェクトを知っている回答者では、「とても安全になった」「安全になった」と思う人々は全回答者では 35%であり、「危険になった」「はるかに危険になった」と答えた人々は 65%である。本プロジェクトを知っている人のほうが、日常生活を送るうえでの安心度が 2013 年より下がったと感じている。調査団が有する情報・データでは、この理由を推測しがたい。

なお、全回答者のうち「危険になった」「はるかに危険になった」と答えた人々はアボボ市で多数を占め 71%、ヨブゴン市では逆に少数で 47%である。アボボ市では Plaque 地区（及び隣接する Abobo Depot Sotra 地区）が、プロジェクト開始前から大統領選挙後の騒乱とは関係なく治安が悪い傾向にあるので、それが影響していると考えられる。



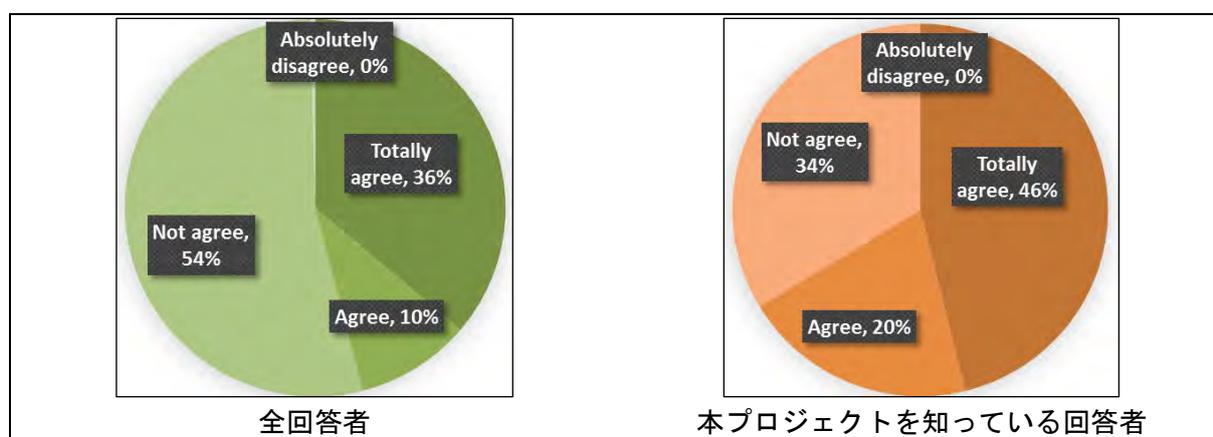
出所：プロジェクト提供データを基に終了時評価調査団でグラフを作成

図 3-3 「2013 年に比べて、日常生活でセキュリティーが良くなっていると感じるか」

「指標 3. 「市役所が情報を開示し、公平な開発を行っている」と感じる住民が増加する」に関し、「2013 年に比べて、市役所が住民により情報を開示し、公平な開発を行っているといえるか」を尋ねた。全回答者では「全く同意する」「同意する」と思う人々は 46%であり、「同意しない」「全く同意しない」と答えた人々は 54%である。一方、本プロジェクトを知ってい

る回答者では、「全く同意する」「同意する」と思う人々は66%であり、「同意しない」「全く同意しない」と答えた人々は34%である。市役所が情報開示し公平な開発を実施していると認識する人々は、全回答者では少数派であるが、本プロジェクトを知っている人では、そう認識しない人の約2倍と多数派となっている。プロジェクト目標の指標2-1と同様に、本プロジェクトを知っているということは、市役所と住民代表とが協働して取り組んでいるパイロット事業のことを知っている可能性が高く、従って市役所がどのようにパイロット事業を選んで実施しているかも認識していると考えられる。

なお全回答者のうち「同意しない」「全く同意しない」と答えた人々はアボボ市で89%、ヨブゴン市で91%と圧倒的多数が、市役所が情報開示しておらず、公平な開発を実施していないと考えている。



出所：プロジェクト提供データを基に終了時評価調査団でグラフを作成

図 3-4 「2013年に比べて、市役所が住民により情報を開示し、公平な開発を行っているといえるか」

3-5 プロジェクトの実施プロセス

プロジェクトの実施過程の検証を通じて、プロジェクトの効果発現に貢献した要因が3点、反対に阻害した要因が1点、確認された。

3-5-1 プロジェクトの効果の発現に貢献した要因

(1) 市役所内の関連組織（部局）をC/Pに加え、既存のリソースを活用したこと

本プロジェクトではR/D時、技術局のみがC/Pになっていたが、社会部門が住民に直接、接するサービスを担当していることから、プロジェクト開始時にアボボ市役所からは社会・文化・人材局、ヨブゴン市役所からは人間開発局がC/Pに加えられた。これにより市役所内ですでに一定度、蓄積されている住民とのコネクションが社会統合のためのインフラ事業、つまりパイロット事業に活用できるようになった。

またプロジェクトは、紛争後でまだ不安定な状況下で住民とのステークホルダー会議を開催する際、各市役所から広報部を招いて、会議の議事進行を任せた。広報部は市役所からの情報を適する手段・方法で通知・連絡する経験が豊富である。そのような広報部が、プロジェクトが住民と接触する最初のステークホルダー会議から加わっていたことにより、

プロジェクト立ち上がり期に、本プロジェクトの狙いや活動が誤解されることなく、適切に住民に伝えられることができた。立ち上がり期に活動趣旨が誤って理解されると、その誤解を解くのに時間を要し、また社会統合に逆方向に作用する可能性もあるが、本プロジェクトは広報部を参加させることでそれらリスクを防いだ。

(2) 既存の住民組織（COGES）を含めて CCGPP を設立したこと

学校パイロット事業において CCGPP に COGES を含めたことにより、次の 2 点の効果があつた。

(i) 学校の運営を担当する COGES は、当該校の父兄・教師・児童生徒であることがメンバーの要件である。また管理上、校門は常に閉められていて中の様子は外から見えない。そのため上記の立場にない地域住民は、学校が地域の公共財であるものの関わる場面がない。しかし、パイロット事業の CCGPP では多様なバックグラウンドの住民が、既存の COGES メンバーと協働することになり、学校の状況が COGES メンバー以外にも分かるようになった。また CCGPP メンバーを通じて、同様に学校に関わらない人々にもパイロット事業の進捗状況や学校の様子を知るチャンネルができた。COGES の協力で学校が住民集会の場所として良く利用されるようになってきているパイロット事業地もあり、地域に開かれた学校として住民の交流を促進している。

(ii) COGES は選挙で選ばれたメンバーが、父兄から徴収した資金を積み立てながら、校舎や教育環境(教科書や文具の調達)の管理を行う組織で、コートジボワールでは 1995 年、関連法律の制定以来、活動してきている。COGES 自体には資金の確保難等の課題があるものの、教育行政のなかに学校管理組織として位置づけられた公的存在である。そのため学校パイロット事業の CCGPP に COGES がメンバーとして参加していることは、CCGPP の活動がしやすくなるだけでなく、プロジェクト後の校舎の維持管理体制を確保しやすくしている。

(3) 非雇用男性若年層をパイロット事業に参加させたこと

非雇用男性若年層は選挙後の危機の際、政治的に動員されて、紛争要因の一つとされた。本プロジェクトでは、「3-2-2 成果 2」で述べたように、平均年齢 30 歳の地元労働者約 400 人が平均約 30 日、パイロット事業の工事に従事した。その 78%（平均）が男性であるので、約 320 の非雇用男性若年層がパイロット事業で他のグループからの地元労働者と共に働く機会を持ったことになる。紛争要因の一つである非雇用男性若年層が、文字通り建設的な活動に従事したことは、少なくともその間、地域社会の治安を維持することに貢献した。また、いくつかのインパクトが認められ、これらは「4-4（2） ポジティブ・インパクト」に報告している。

3-5-2 プロジェクトの効果の発現を阻害した要因

(1) パイロット事業の道路工事の遅れが、CCGPP メンバーの参加意欲と地元道労働者の雇用機会を低下させたこと

道路パイロット事業の 1 件では、工事中、水道管等の地下埋設物が壊れた。市役所は生活用水供給のため速やかに給水車を送ったものの、住民が水道水を使えない状態が 6 週間

続いた。さらに排水溝設置や路面整備作業の質が悪く、工事契約を数回、延長せざるを得ない道路パイロット事業もあった。また品質管理や安全管理の概念を理解していない施工業者もいた。これらにより、2 ヶ月以上、完工が遅れている道路パイロット事業も出てきており、CCGPP メンバーの意欲に影響を与えた。具体的には CCGPP の活動へ参加しなくなる住民メンバーが出てきており、CCGPP をきっかけにした社会統合の促進を阻害している。

また道路パイロット事業では工事進捗の遅れを挽回するため機械工事の割合を増やしたことから、非熟練工の割合が減った。地元労働者には非熟練工が大半を占めるので、地元労働者の雇用機会も減ることになった。JICA 専門家、C/P 及び JICA 事務所にも工事契約変更のためのコストが発生した。

第4章 評価結果

4-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は、次の観点から「非常に高い」。

(1) プロジェクトのアプローチの適切さ

本プロジェクトのアプローチは、社会統合を促進するため、パイロット事業である基礎インフラ整備事業の選定・実施・モニタリングは、住民参加型、つまり市役所と住民メンバーで構成する CCGPP が行うというものである。その具体的手法は次の通りある。

- ①社会統合に貢献する基礎インフラ整備事業としての選定基準を設ける。
- ②左記基準に照らして対象事業を選定する。
- ③事業開始に先立って住民説明会やステークホルダー会議を開催し、社会統合推進のための事業であるという事業の趣旨、及び住民と市役所が事業管理を行うという活動内容を説明し、住民側の理解・合意を取り付ける。
- ④事業管理のための CCGPP を設立し、市役所の技術部や社会部門のスタッフと住民メンバーがモニタリングを事業期間中継続実施する。

インフラ事業は、公的機関の判断で、規模の大小を問わず住民に事前の説明なく開始されることもあり、住民から行政・政府への不満を惹起しやすい事業である。しかし、本プロジェクトでは各段階で社会統合への配慮あるいは住民への情報開示がなされている。特に③と④では、共通の関心事項について住民が集まり意見を述べ合う場を設けて住民対応に時間をかけ、事業実施プロセスに住民メンバーが参画し、市役所事業が具体的にどう行われているのかを明らかにしている。

パイロット事業を通じて市役所と住民、また住民同士が共通の関心事項について協力・協働する切っ掛けを作るというプロジェクトの設計は、社会統合の促進に貢献するうえで適切であった。

(2) パイロット事業の対象セクターの適切さ

本プロジェクトのパイロット事業は学校とコミュニティ道路（排水溝を含む）が対象である。これらセクターは社会統合を促進する効果があることが、一般的に認められていることから、本プロジェクトは適切なセクターを支援対象に選んでいた。本プロジェクトにおいてパイロット事業は、日常生活に必要な基礎インフラを修復・整備することだけではなく、社会統合の促進に貢献するための手段でもあることが、コートジボワール側・日本側のプロジェクト関係者に正しく認識されており、適切なセクターを選定したといえる。

(3) 支援開始時期の適切さ

本プロジェクトは 2010 年大統領選挙後に発生した危機の 2 年後に開始された。当時は依然、不信や不安が強く存在していた。そのような状況下、本プロジェクトが住民に CCGPP や地元労働者としてともに働く機会を提供したことは、社会統合の促進に繋がり、適切であった。

また本プロジェクトの開始時期は、相手国政府の社会統合へのコミットメントの有無に照らしても適切であった。プロジェクトが開始される前に、コートジボワール政府（GRCI）が「国家社会統合プログラム（2012年 - 2015年）」を開始しており、社会統合が国家政策として推進されようとする時期でプロジェクトを開始したことは時宜にかなっていた。

なお PDM に記載されて外部条件は、終了時評価時点においてもプロジェクトを実施し目標を達成するうえで必要・不可欠な条件であること、またいずれの条件も発生していないことが確認された。

(4) プロジェクト対象の選定の適切さ

本プロジェクトは適切な支援対象地域及び支援対象グループを選んでいった。まず本プロジェクトは、大アビジャン圏内で選挙後の危機による最大の影響を受けたコミューン 2 地区をプロジェクト対象地域にしていることから、社会統合の促進支援を目指すうえで適切な支援地域が選定されていた。また本プロジェクトの対象グループは、そのコミューンの住民と市役所職員である。かれらは社会統合を実現するための主要なアクターである。社会統合に向けた具体的取り組みへの機運はあるものの、プロジェクト開始前には、具体的な社会統合推進の機会を持っていなかった人々であり、だからこそ、そのような機会へのニーズが高かった人々でもある。このように本プロジェクトは、社会統合の実現に寄与するうえで、最も適切な人々を支援対象グループにし、またそのニーズに応えるものであった。

(5) コートジボワール国の政策及び日本の支援政策との整合性

本プロジェクトは GRCI の政策及び我が国の対コートジボワール支援方針のいずれとも高い整合性を持っている。

GRCI は、大統領選後の危機が 2011 年 4 月に集結した後、「国家開発計画（PND）」を打ち出し、平和と治安、国民和解と社会の調和、及び危機後の経済復興に取り組んでいる。社会統合に関しては、「国家社会的調和促進プログラム（2012年-2015年）」が本プロジェクト開始前に開始されており、社会統合促進を支援する本プロジェクトはこの政策にそっており、整合性が高い。

コートジボワールは、西アフリカ地域の牽引役であり、同国の安定と発展は周辺国にとっても重要である。2014 年 4 月策定の「対コートジボワール共和国 国別援助方針」によれば、我が国は、内戦で不安定化した国内の平和と治安、行政・社会サービスを回復し、社会の安定を図るとともに、インフラ整備、成長産業の育成等への政府の取組を支援することにより、同国及び地域の安定と発展を支援していくことを支援の基本方針としている。本プロジェクトは、支援重点分野の一つである「安全で安定した社会の回復」の具体的取り組みであり、我が国の同国支援方針に合致している。

4-2 有効性

本プロジェクトの有効性は以下の観点から「高い」といえる。

(1) プロジェクト目標の達成見込み

既に述べたプロジェクト目標の指標の達成状況の検証結果（「3-4 プロジェクト目標の達成見込み」）、及び本調査期間中に収集した情報・データに基づけば、プロジェクト期間中に本プロジェクトの目標はほぼ達成すると見込まれる。しかしながら、本調査時のパフォーマンスのレベルを残る期間中も維持するためには、コートジボワール・日本それぞれが継続してプロジェクトに取り組んでいくことが不可欠である。

(2) 成果とプロジェクト目標の関連

3点ある成果はプロジェクト目標の達成に次のように連動しており、これら成果が達成されればプロジェクト目標が達成される構成になっている。まず既存の社会インフラ事業の計画・立案プロセスと乖離しないようにパイロット事業が選定され（成果1）、地域住民と各市役所で構成する CCGPP によりパイロット事業が実施・管理され（成果2）、パイロット事業を実施するなかで得られた教訓を取りまとめ、共有する（成果3）。その結果、プロジェクト目標である社会インフラ整備事業の実施を通じて紛争影響をうけた対象コミュニティにおける住民の関係が強化されるという構成である。成果の達成がプロジェクト目標の達成に繋がっている。

4-3 効率性

本プロジェクトの効率性は、以下に挙げる状況から「中程度」とみられる。

(1) 日本側・コートジボワール側からの投入

日本側・コートジボワール側からの投入は、PDM に記載されたとおりに行われた。JICA 専門家の構成は PDM から変化しているが、これはプロジェクトの趣旨に照らして、より適切に専門家を配置したためである。なおプロジェクト途中から始まった円安により、パイロット事業費予算は10%程度、目減りした。

(2) プロジェクト・マネジメント

プロジェクト活動は道路パイロット事業の JICA 事務所調達工事以外は、予定通りに実施された。しかし、この工事は雨期、想定されていなかった地下埋設物、及び施工業者の質の低さにより完工が遅れた。これら工事については契約更新を重ね、平均で2ヵ月遅れ、8月中旬から9月上旬に完工した。プロジェクト効果発現に対するこの遅れの影響は「3-5-2 プロジェクトの効果の発現を阻害した要因」に述べた通りである。

4-4 インパクト

本プロジェクトのインパクトは以下の理由から「高い」といえる。

なお、「3-4 上位目標の達成見込み」で述べたように、効率的・客観的に事後評価を行いやすいよう、上位目標の指標は改訂・追加されることが望ましい。

(1) 上位目標の達成

「3-4 上位目標の達成見込み」で述べたように、既に社会統合に繋がる動きが起きていることから、PDM 記載の外部条件が確保されれば、長期的には上位目標が達成される見

込みがある。一方で、現行の上位目標の指標は、指標入手に時間を要する指標、あるいは定性的指標が多い。また対象コミュニティにおいて社会統合の実現には詳細計画時に想定した以上に時間を要するとみられることから、プロジェクトの成果が上位目標の達成に貢献するにも時間を要する可能性がある。上述の現在の指標の特徴を踏まえ、これらを補完し、プロジェクトの成果がどのように上位目標の達成に貢献しているのかを端的に占めることができる指標の追加が望まれる。

(2) ポジティブ・インパクト

本終了時評価調査中、次のようなポジティブ・インパクトが観察された。

- ヨーロッパ連合（EU）資金による「アボボとヨプゴンにおける住民の和解と社会統合支援事業」（Projet d'Appui à la Réconciliation et à la Cohésion Sociale des populations des communes d'Abobo et de Yopougon: PARCS）は本プロジェクトのアプローチ、即ち、社会統合を促進するため住民参加型で基礎インフラ建設事業を進める、というアプローチを採用している。CCGPP を模した組織も設立される予定である。
- アボボ市役所技術部は、本プロジェクトの手法（「4-1 妥当性（1）プロジェクトのアプローチの適切さ」に記載）の有用さを認識し、他のインフラ事業についても本プロジェクトの手法を取り入れられるため、社会・文化・人材局の協力を仰ぐための協議を開始した。具体的には、技術部だけでインフラ整備を計画・実施するのではなく、事業地区が決まったら、まず社会・文化・人材局が住民説明等を行い合意・理解を取り付けたのちに、技術部が技術的な観点からの説明を行い、工事を始めるという方法である。
- インフラ事業の選定基準を設け、それに基づいて事業を実施するという方法は、市役所技術部にとって二つの方向に対して有用である。一つは選定から漏れた住民への説明の際で、選定基準、選定理由あるいは不選定理由を説明することで、少なくとも不選定になった地区の住民から納得してもらえるようになった。また、選定基準とそれに基づく選定という手法は、公共事業が政治的に利用される機会を抑制する効果もあった。
- CCGPP の住民メンバーは、CCGPP に参加するなかで、市役所の機能や業務内容を理解するようになった。以前は税金がどのように使われているか分からず、不安・疑問があったが、今〔注：終了時評価時点〕では税金の使い道が分かっているので、安心して税金を納めるようになった。
- アボボ市ではエブリエ族がその祝祭に他民族を招くようになった。これは過去に事例がないことである。
- ある CCGPP では、若年層組織の代表者 2 名は、選挙後の危機時、互いに戦ったグループ代表でもある。当初、互いに話をすることもなかったが、CCGPP の集まりに参加するなか、次第に話をするようになり、今では一緒に CCGPP の活動ができるようになった。また地元労働者も、以前、対立していたグループ所属者とパイロット事業の工事を共にすることを通じ、今では仲間意識を持つようになった。
- CCGPP は、本プロジェクトのパイロット事業管理のための組織で、いわば期成同盟で

ある。しかし、地区の一層の発展のため、住民メンバーが自主的にボラティア組織を形成しはじめている CCGPP が数例、ある。例えば、ヨプゴン市の Andokoi 地区では、MUDA (Mutual Fund for Development of:Andokoi) という組織を立ち上げつつある。またアボボ市 Lyce Municipal 地区では、CCGPP 住民メンバーがより幅広い住民グループを加えた CGQ (Comité de Gestion du Quartie: 地区管理委員会の意) を設立し、CCGPP が発展的に解散している状態である。

- パイロット事業に雇用された地元労働者に関するポジティブ・インパクトとしても、次の事例が確認された。(i) 賃金が子弟の学費や救急医療費の支払いに充てられ、生計の悪化を防ぐことに貢献した。(ii) 元地元労働者のなかには、パイロット事業に参加し熟練工の作業に興味を抱いたため、自分から職業訓練校に通うようになった男性若年層が出てきた。(iii) 生産的活動に従事していない男性若年層は、選挙後の危機の際、社会不安要因の一つと見られたように、社会のなかに包含されておらず、従って社会に対して複雑な感情を抱くことがある。しかし元地元労働者の男性若年層は、地域の共通の関心事項である基礎インフラの整備に従事したことで、地域の発展に貢献しているという喜びや誇りを感じている。パイロット事業の工事に従事した男性若年層は約 320 名程度であり、彼らがこのような気持ちを抱くようになったことは、今後、地域社会を安定させることにも間接的につながるとみられる。

(3) ネガティブ・インパクト

本プロジェクト実施によるネガティブなインパクトも発生していた。いずれも、終了時業時点は、CCGPP、JICA 専門家や C/P によって再発防止策・対策が講じられている。

- アボボ市 Lyce Municipal 地区では、パイロット事業で整備した排水溝（ところどころに通行のためのコンクリの蓋があるが、基本的には開渠）で水浴びをしようとした男児が流され、行方不明のままである。事故発生後、CCGPP は啓発活動を行い、沿道の全戸を回って状況と対応策の説明を行い、住民感情の悪化防止に努めた。またプロジェクトも再発防止策として施工業者に排水溝内にバリアを設置させた。
- 同地区では、対象道路全区間のうち中心に近い区間がパイロット事業で整備された。残る区間も排水溝は設置されたが、道路の状態は元のままであり、整備済み区間と未整備区間の環境の差が著しい。そのため、未整備区間の沿道住民の不満がきっかけとなり、かつて存在した地域分断が再燃しないかと懸念されている。社会統合促進のための道路整備がもたらした、この状態に対して、アボボ市役所は未整備区間を調査しており、その調査結果をもとに世界銀行の資金支援事業に応募する予定である。

4-5 持続性

本プロジェクトの持続性は、次の理由から「中程度」とみられる。持続性を検討する4つの観点のうち政策面、技術面、社会・文化面からみた持続性は高いものの、プロジェクトの成果をどう活用していくかの財政面・ロジ費用面を含む具体策が示されていないため、財務・組織面からの持続性がやや低い。

(1) 政策面

政策面から見た本プロジェクトの持続性は高い。本プロジェクト開始前に始まった「国家社会的調和促進プログラム（2012年-2015年）」は2015年までであるが、その後継事業である「国家連帯と社会統合プログラム（2015年-2020年）」が承認されたばかりである。最新の「コートジボワール国家開発計画（2015年-2020年）」では、2020年までに紛争影響からの復興を完了すると同時に中進国として社会経済開発のスタートラインに立つことが目指されている。同プログラムは、社会経済発展に不可欠である社会の統合と安定を進めるものであり、社会統合が依然、重視されている。社会統合を促進することを目指す本プロジェクトは今後もコートジボワールの政策と合致していくことから、本プロジェクトの政策面での持続性は高い。

(2) 技術面

技術面から見た本プロジェクトの持続性は高い。本プロジェクトは最新の技術や機器を導入するものではなく、住民説明会やステークホルダー会議の開催、さらに毎月の CCGPP 開催を通じて、徐々に市役所職員と住民の物事の見方を変えていき、市役所内の関連部署間の協力、市役所と住民の間のコミュニケーションと協調へと導くものである。そのために必要な技能や知識は各 C/P や CCGPP 住民メンバーによく理解・取得されている。特に技術部門の C/P は、本プロジェクトの手法が住民や政治勢力への対応にも効果があることから、また住民対応になれた部局がインフラ事業に関われば、技術部門はより本来業務に従事できるようになることから、積極的に取り入れたいという意向が強い。

(3) 社会と文化面

社会と文化の観点から見た本プロジェクトの持続性は高い。多民族・多様な文化を特徴とするコートジボワールでは、一般的に社会統合の重要性が強調されてきた。特に内戦を終結するために開催された大統領選挙で却って武力対立が発生した後は、社会統合を求める気運が、住民レベルでも中央・地方政府レベルでも高まっている。そのため社会統合促進を掲げる本プロジェクトは、政策面での整合性のみならず、社会・文化面での受容性が高い。

(4) 財務・組織面

財務・組織面に関する本プロジェクトの持続性は、終了時評価時点ではやや低いといえる。社会インフラ事業の事業費そのものは、市役所が毎年行うインフラ整備事業費のなかに計上することが可能である。一方で、本プロジェクトの手法は、高い資機材は不要であるものの、住民説明会やステークホルダー会議、CCGPP メンバーの選定と月例 CCGPP といった集会を開催することから、開催のための事前準備から開催当日まで、様々な費用が発生する。さらに開催を可能にするには、頻りに地区を訪問し、住民からの理解・合意を取り付けることが不可欠である。つまり、社会統合の促進に有用であることが示された本プロジェクトの手法でインフラ整備事業を実施することは、多様な準備作業、住民との通信連絡や地区までの移動手段と費用等、工事費や施工監理費以外の費用が必要となる。

「3-1-2 コートジボワール側の投入」で示したように、アボボとヨブゴン両市役所は、

C/P 活動経費を 2015 年から投入している。MEMIS から示された最新の市開発 3 年計画によれば、アボボ市役所はプロジェクト期間の 2016 年まで、C/P 活動経費を計上しているが、ヨブゴン市役所は 2015 年分のみである。また MEMIS によれば、MEMIS から本プロジェクトの C/P 活動経費を出すよう指示を受けてはじめて、両市とも C/P 活動経費を計上した状況である。

上述したように C/P 個人のレベルでは、本プロジェクトの手法をプロジェクト後も実践していく意欲は高い。一方でそれを具体的に可能にする財政面・ロジ費用面での具体策、あるいは組織としてのコミットメントである予算措置の有無が今回の終了時評価調査では確認できなかった。そのため、財務・組織面から見た本プロジェクトの持続性は相対的に低いとみなされた。

本プロジェクトは、紛争影響地で社会のあちらこちらに不安定要因が潜んでいるなか、一足飛びに結論に行くことなく、段階的で丁寧な手法でパイロット事業を展開している。C/P が既に社会統合のための基礎インフラ整備事業のノウハウを取得していることから、今後は本プロジェクトの持続性を高めるために、C/P の人的・財政的・組織的能力と事業地の文脈に照らして、本プロジェクトの手法が無理なく継続実施できるよう、本プロジェクトの手法について「集中と選択」することが望まれる。

(5) 環境社会配慮

本プロジェクトでは、道路パイロット事業で公道を違法に占拠している世帯の移転が必要となったことから、環境社会配慮分野の専門家を投入し、また研修も実施した。CGGPP メンバーを中心に、違法占拠者であっても移転が生計に与える影響を配慮することが社会統合を進める上で有意義であることが理解されている。一方で、「4-4(3) ネガティブ・インパクト」に記した事例もあり、またその対応策の工事を市役所が実施する予定である。そのため、プロジェクトは現在の持続性を維持できるよう、今後も、市役所の対応策工事の内容や実施状況を環境社会配慮面からもモニタリングを続けていく必要がある。

4-6 結論

5 項目評価の結果は次の通りである。

評価項目	妥当性	有効性	効率性	インパクト	持続性
評価結果	とても高い	高い	中程度	高い	中程度

妥当性は「とても高い」、有効性とインパクトは「高い」と評価された。インパクトについては、プロジェクト期間があと 8 ヶ月あるなかで、少なくないポジティブなインパクトが確認された。一方、効率性と持続性は「中程度」である。持続性については、政策面、技術面、社会と文化面では持続性が高いとみられるものの、これらに比べ財務・組織面での持続性がやや低いとみられた。

プロジェクトの実施プロセス及び成果の達成状況、さらに 5 項目評価結果から、本プロジェクトはプロジェクト期間中にプロジェクト目標を達成すると見込まれる。

第5章 PDMの改訂

「3-4 上位目標の達成見込み」や「4-4 インパクト」で述べたように、PDM 第1版の上位目標の指標3点は、定性的指標であったり、あるいはデータ入手に時間を要する可能性がある指標である。また「4-5 持続性」の箇所でも明らかになったように、本プロジェクトは政策面・技術面・社会と文化面に比べて、財務・組織面での持続性が相対的に低い。これら状況を踏まえて、プロジェクトの成果がプロジェクト終了後も発展的に活用されるように、指標を追加した。

表 5-1 上位目標の指標の比較

下線部分：追加指標

改訂前	改訂後
1. 対象コミュニティにおいて、「安心して生活できる」と感じる住民が増加する	1. 対象コミュニティにおいて、「安心して生活できる」と感じる住民が増加する
2. 対象コミュニティにおいて、住民間及びコミュニティ間の協働活動・交流の数及び種類が増加する	2. 対象コミュニティにおいて、住民間及びコミュニティ間の協働活動・交流の数及び種類が増加する
3. 「市役所が情報を開示し、公平な開発を行っている」と感じる住民が増加する	3. 「市役所が情報を開示し、公平な開発を行っている」と感じる住民が増加する
	4. <u>各市役所は本プロジェクトの経験から得た手法を使った社会インフラ整備事業を最低年に1案件実施する</u>

出所：終了時評価調査団作成

追加指標に記載されている「本プロジェクトの経験から得た手法」とは、本プロジェクトの手法のうち、両市役所が自力で実施できる部分を抽出したものである。つまり、現在の手法を全て実施するのではなく、市役所の実施能力と社会統合の進め方などを踏まえ、実施可能な、あるいは地域の状況により応える要素を選択して実施することである。そのため、残る期間で各コミュニティの状況に適応した形で活用する方法を検討することが必要になる。これについては「第6章 提言」に述べている。

また追加された指標を達成するには、持続性のなかで評価が低かった財務・組織面での対応が欠かせない。つまり、この指標が追加されたことで、プロジェクトの成果を活用していくことに対する両市役所やプロジェクト責任機関である MEMIS のコミットメントが示されたことになり、また指標達成のために具体的な予算措置を講じることが重要となる。

第6章 提言と教訓

6-1 提言

プロジェクト成果の発現を一層確実にし、また協力効果を持続していくために必要な事項を提言としてとりまとめた。

6-1-1 プロジェクト期間中の提言

財政及びロジ面を含めて、CCGPPメンバーと維持管理体制の仕組みについて検討、合意する。(提言先：内務省、市役所)

プロジェクトで得た教訓を取りまとめ、COSAYで構築したプロセス及び仕組みを、各コミュニケーションの状況に適応した形で活用する方法を検討する。(提言先：市役所、JICA 専門家)

COSAYに関する教訓共有セミナーにおいて、COSAY関係者だけでなく、社会統合の問題を抱える大アビジャン圏の他の市役所の召集も検討する。(提言先：内務省)

内務省では、社会インフラ事業実施に関して、行政が住民からの要望を汲み取るシステムを構築したい意向であり、JICA 専門家は適宜アドバイスを行う。(提言先：内務省、JICA 専門家)

アボボ、ヨブゴンコミュニケーションを含む大アビジャン圏では、住民レベルの関係修復・社会統合が引き続き主要課題であり、C/P 機関より協力支援への継続要請を受けていることから、両コミュニケーションにおける本プロジェクトのアプローチの定着や、大アビジャン圏の他のコミュニケーションへの普及支援について検討することが望ましい。(提言先：JICA)

6-1-2 プロジェクト終了後の提言

(コミュニケーションに対する提言)

パイロット事業実施地区において継続的にモニタリングを行い、必要に応じて CCGPP の後継組織に支援を行う。

(内務省に対する提言)

アボボ・ヨブゴン市役所において COSAY アプローチが実施されているかモニタリングを行う。また適宜支援を行う。

COSAY で得た教訓をもとに社会統合を促進する社会インフラ事業を行う。

6-2 教訓

本評価調査を通じて、以下の教訓が得られた。

- ① 紛争後の移行期から開発期において、能力強化の対象を市役所・住民と設定することにより社会統合の効果を高めた。

- ② 多様なグループを巻き込んだ、住民の組織形成・事業展開により社会統合が促進された。
- ③ 事業選定基準を設定することにより、住民への透明性やアカウンタビリティを保つだけでなく、政治的関与を防ぐことが可能となり、社会統合に貢献した。
- ④ 共通の目標に向けた活動という観点から、社会統合を促進する手段として学校と道路を含めた公共インフラ事業は有効であったが、インフラ整備に必要とされる技術レベルについて確認が必要。工事の遅延は地域住民の社会統合に影響を与える可能性がある。さらに本プロジェクトの道路事業のように裨益を巡り不公平感を創出する場合、社会統合に影響を及ぼす可能性があることに留意する必要がある。
- ⑤ 社会統合を推進するためには、主要なアクターとなる行政とコミュニティの基礎能力が求められる。コートジボワールではその環境が整っていたため、プロジェクトの成果が発揮された。
- ⑥ 紛争終結直後の状況において紛争予防配慮・平和促進を行う上で、C/Ps と日本人専門家間のフォーマル・インフォーマルを含めた密なコミュニケーションが、紛争予防配慮および平和促進の実施に貢献した。
- ⑦ 技術系の日本人専門家の構成に加えて、多岐にわたる社会系の専門分野（平和構築、コミュニティ開発/住民雇用/モニタリング、社会調査/学校管理、環境社会配慮）を含めることで、社会統合に適したプロジェクト実施計画が可能となった。
- ⑧ 紛争終結直後はデータが未整備であるため、プロジェクト開始時の想定が必ずしも実施状況のコンテキストに合わないこともある。必要に応じて PDM の改定が望ましい。

6-3 団長所感

本プロジェクトは、和平合意のマイルストーンであった選挙を巡る騒乱が収束してから約 2 年が経過し、人々の関心事項が「政治」から「生活」に移り始めている中、依然として現体制支持派と旧体制支持派の住民間に不信感や恐怖心が残っている状況下で開始された。またコートジボワール政府が「社会統合」を国家政策として打ち出した 1 年後のタイミングでのスタートでもあった。

プロジェクトは、現大統領派・前大統領派の夫々の拠点であり激戦区となった 2 つの市を対象に、社会統合に配慮した公共インフラ整備の計画・実施プロセスを通じて、住民間の関係修復・社会統合を目標としている。中でも、域内の公共インフラ整備という共通の目標に向けて、幅広いステークホルダーが協働で活動する機会を提供するものである。プロジェクトは、治安の安定と経済成長の 2 本柱を軸に国家再建が比較的順調に進む中で、国籍法の制定や政党間の対話、投獄された旧政権関係者の釈放等、遅々としてではあるが着実に国民和解に向けての政

治的プロセスが進行する中で実施されてきた。

プロジェクトの本質が住民の認識やマインドセットに関わることから、評価は実例や状況証拠を重ねた定性的なものとならざるを得ない。こうした視点から、プロジェクトによって生み出された主要な成果のうち、特筆すべき事項は以下のとおり。

1) 社会統合促進

開発援助を通じての社会統合促進のアプローチとして、共通の目標に向けた活動ないしは異なるグループが一同に集まる機会創出という観点では、公共インフラ整備、生計向上支援、文化・スポーツ、各種研修・技術訓練等があげられる。プロジェクトでは、対象地域が都市部貧困地域であることから、住民生活に身近な公共インフラが選定された。

プロジェクトの重要な成果の1つとして、発現効果の地理的範囲は限られているものの、住民間の関係強化へのポジティブな効果があげられる。これまで交流のなかった住民を含めての住民間の連絡・交流の増加、部族伝統的行事への他部族の招待、住民の間に芽生えた“共存できる”という意識の変化が確認された。更に、プロジェクト完了後のパイロット事業維持管理及び開発事業に向けて民族・宗教・政治的属性を超えた関係者が一同に参加する地元住民組織の結成に向けた動向も確認された（Andokoi 区, Lycee Municipality 区, Banco2 区等）。年輩者から若年層まで、民族、宗教の壁を超え、地域の開発のために共に活動しようという自発的イニシアチブの持つ意味は決して小さくはない。

社会統合促進に有効であったのが、第一に、従来部族のリーダーから同じ部族内に情報が伝達されてきた体制から、本プロジェクトのパイロット事業を通じて、民族・宗教の壁を越え青年、女性の其々のリーダーが共に考えて、共に意思決定を行うという新たな体制（コミッティー）が構築できたことである。第二に、多民族・宗教から構成されるコミッティーに対する紛争管理研修を実施したことで、インフラ整備に伴うコミュニティレベルの問題解決に貢献したこと。第三に、期間限定ではあったものの、それまで敵対関係にあった 300 名以上の元戦闘員や若年層を中心とした住民が共に働く機会を創出したこと、また若年層の間で社会に貢献したという自尊心が芽生えたことが観察されている。

これまで確認されている住民間の関係改善は、主にプロジェクト関係者間の変化である。今後は市役所がプロジェクトで習得したアプローチを活用して事業を実施するとともに、新たに結成される住民組織が核となって、社会統合が段階的に促進されることが期待される。

2) 市役所内の変化、市役所と住民の関係変化

行政に対する不信は選挙後の騒乱の直接の要因ではなかった。また 10 年弱の紛争及び危機が続いた期間も、アビジャン市内では行政が機能し続けていたため、選挙後の数ヶ月間の騒乱期を除いては紛争による影響は殆ど無いと言える。しかしながら B/L 等のデータを見ると市役所への不信感は根深い。

本プロジェクトのもう1つの成果として、実践を通じた市役所職員の意識変化があげられる。市役所職員が、敵対していた住民グループとのコンサルテーションを何度も重ね、コミュニティとの関係づくりにおいて自信を持つようになった。換言すれば、コミュニティの巻き込み、コミュニティとの合意形成の重要性を認識するようになった。従来トップダウンで公共事業を実施し住民との関係において様々な困難に直面してきた市役所関係者が、「社会統合が開発をも

たらず」、すなわちコミュニティのコンセンサスとコミュニティ内の調和は円滑に公共事業を進める上で欠かせないという認識を持つようになった。このような意識変化が、C/P の発案で他ドナーの事業に本プロジェクトのアプローチを採りこむというモチベーションに自ずと繋がったと言える。

しかしながら行政側のこうした意識変化が、各種サービスの改善という形で住民側に届くには今少し時間が必要であると考える。

3) 社会統合に関する課題

社会統合は少なくとも 2020 年までの期間、コートジボワール政府の主要政策課題として位置づけられている。中央政府主導により、既述のとおり制度・政策上の取り組みは進められてきたが、僅か 4 年前に市街戦となったアボボ、ヨプゴンコミュン市内の住民レベルの関係修復及び社会統合、紛争にレジリエントな地域社会を再構築していくには時間を要する。現行フェーズで社会統合が促進された地域もコミュンのごく一部にすぎない。住民レベルの社会統合を更に進めていく上では、市役所の持続的な役割が求められている。そうした観点から、まず残り 6 か月間で、パイロット事業で構築された民族、宗教、政治的属性を超えた住民間のプラットフォーム、住民と市役所のパイプ、社会統合に配慮したインフラ整備の計画・実施プロセスに関わる経験をレビューし、今後の戦略及び方法について関係者で検討することに注力する必要がある。加えて、市役所の社会統合に配慮したインフラ整備の重要性に関する意欲が高まっているうちに、本プロジェクトで試行してきたアプローチを定着させるための取組みが引き続き必要ではないかと思料される。市街戦を経験した地域において、紛争予防に配慮しない地域・コミュニティ開発は、将来の新たな紛争の火種となりかねない。

なお月日の経過とともに、住民間の関係強化に加えて、市役所と住民間の関係改善ないしは住民の市役所に対する信頼向上の重要性も増すものと思われる。

添付資料

添付資料 1 主要面談者リスト

添付資料 2 カウンターパート組織図

添付資料 3 協議議事録 (M/M) ・ 合同終了時評価報告書

添付資料 4 インタビュー記録

添付資料1 主要面談者リスト

内務省地方分権化・地方開発局

Mr. Parfait Gohourou Director General / DGDDL
Mr. Gbala Gnato Raphaël Coordinator JICA-DGDDL projects
Mr. Nemlin Abel José Deputy Coordinator JICA-DGDDL projects

アボボ市役所

Mr. Koné Siaka Deputy Mayor
Mr. Coulibaly Valy Technical Director,
Mme Barro Mahoussa Director of the Social, Cultural and Human
Department
Mr. Dombia Adama Communications Officer

ヨプゴン市役所

Mr. Coulibaly Issifou 1st Deputy Mayor
Mr. Yeo Adama Technical Director
Mr. Ouattara Seydou Assistant Director, Technical Department
M. r Coulibaly Bengaly Director, Human Development Department
Mr. Coulibaly Doulaye Communication Officer

CGPP メンバー

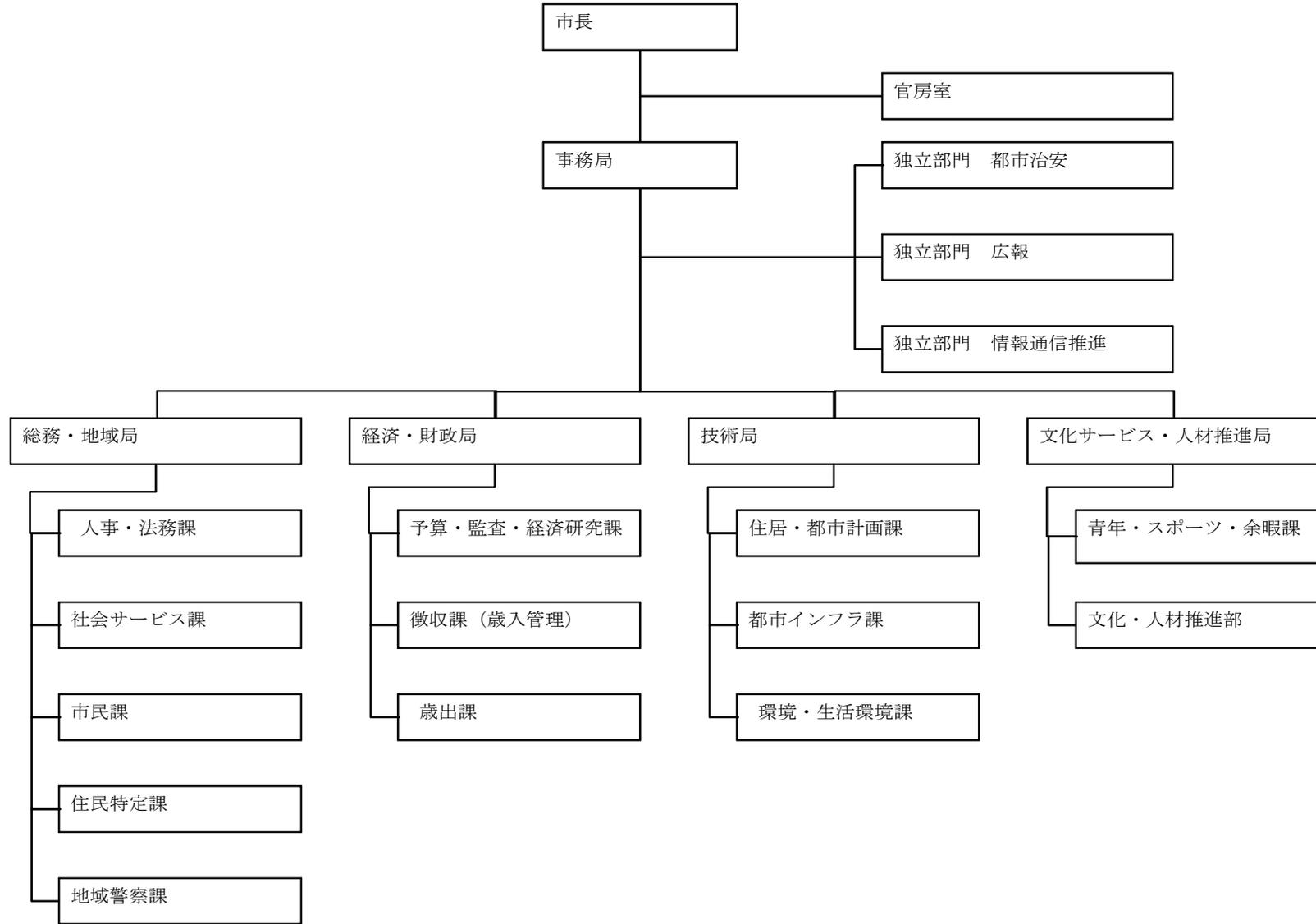
Mr. Traoré Mamadou EPP Plaque 1&2, Abobo
Ms. Koffi Agnès Anonkoua Kouté 3&4, Abobo
Mr. Koné Abdoulaye Lycée Municipal, Abobo
Mr. Fofoana Sindou Plaque/ Carrefour Jack, Abobo
Ms. Sidibé Awa epse Diane SOGEFIHA6, Yopougon
Mr. Soumahoro Minignan Palmerale, Yopougon
Mr. Manbo N'cho François EPP Banco2, Yopougon
Mr. Desse Fabrice Andokoi/ Lycee to la Clinique Nazareen, Yopougon

PARCS (EU 資金事業)

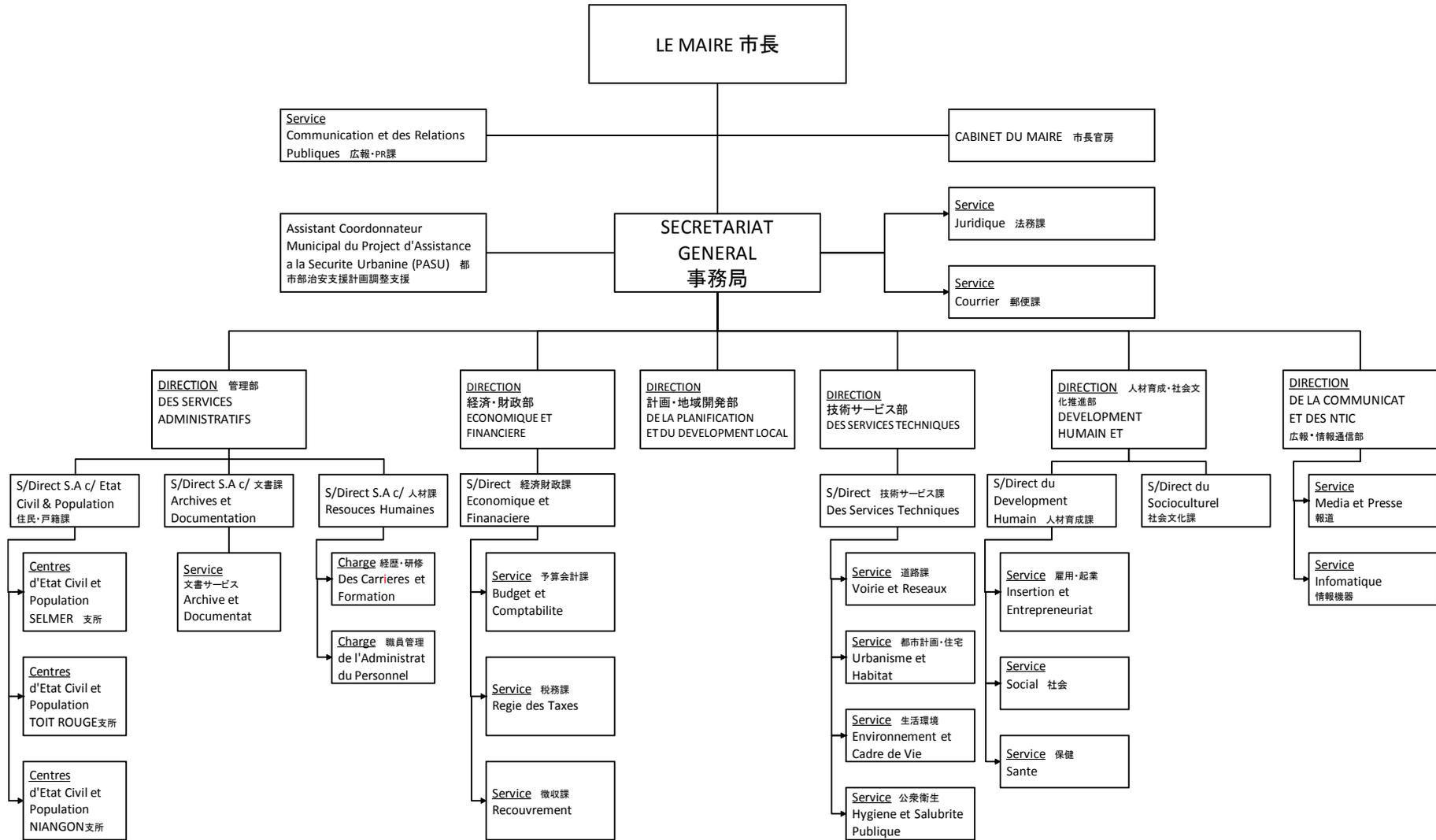
Mr. Kone Donikpo Project Coordinator,
連帯・家族・女性・児童省
Ms. Ouattara Yra Elise Director, Solidarity and Social Cohesion
Observatory

JICA コートジボワール事務所

藤山 真由美 企画調整員
プロジェクト JICA 専門家
関口 正也 総括/コミュニティ開発/平和構築
浦田 あゆみ 社会調査/学校運営・住民活動強化 1
服部 圭介 研修管理/プロジェクト・モニタリング
小林 宏昭 調達監理 5
乙黒 圭子 施設維持管理 (建物) / 調達監理 3



アボボ市役所



ヨポゴン市役所組織図

Compte Rendu des Réunions d'Evaluation Finale
du
Projet de Renforcement des Communes
pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan
Entre
L'Agence Japonaise de Coopération Internationale
Et
Le Direction de la Décentralisation et du Développement Local,
Ministère d'Etat, Ministère de l' Intérieur et de la Sécurité
de la République de Côte d'Ivoire

Le Gouvernement de la République de Côte d'Ivoire (ci-après dénommé "GRCI") et l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (ci-après dénommé "JICA") ont conjointement mis sur pied une Equipe Mixte d'Evaluation Finale (ci-après dénommée "Equipe") respectivement composée de représentants du Ministère d'Etat, Ministère de l' Intérieur et de la Sécurité (ci-après dénommé "MEMIS") et l'Equipe Japonaise dirigée par Madame Yuko DOHI, pour conduire le Projet Conjoint d'Evaluation Finale sur le Renforcement des Communes pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan (ci-après dénommé "le Projet") du 25 Août au 11 Septembre 2015.

Suite aux échanges, le MEMIS et la JICA ont convenu d'une Revue à mi-parcours dont il est fait référence dans le document ci-joint.

Abidjan, le 11 Septembre 2015



Monsieur Parfait GOHOUROU
Directeur Général,
Direction de la Décentralisation et du
Développement Local,
Ministère d'Etat, Ministère de
l'Intérieur et de la Sécurité

Madame Yuko DOHI
En Charge de
L'Equipe d'Evaluation Finale,
Agence Japonaise de Coopération
Internationale

Rapport Conjoint d'Evaluation Finale
Sur
le Projet de Renforcement des Communes
pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan
en Côte d'Ivoire

Septembre, 2015

Handwritten signature

Handwritten signature

Table des matières

1	Aperçu de l'Evaluation Finale.....	5
1-1	Contexte et Objectifs de l'Evaluation	5
1-2	Membres de l'Equipe d'Evaluation	5
1-3	Programme de l'Etude d'Evaluation.....	5
1-4	Aperçu du Projet	6
1-4-1	Contexte du Projet.....	6
1-4-2	Résumé du Projet	6
2	Méthode d'Evaluation.....	8
2-1	Procédure	8
2-2	Les Cinq Critères d'Evaluation	8
2-4	Méthodes de Collecte de Données.....	8
2-5	Limites et Contraintes de l'Evaluation.....エラー! ブックマークが定義されていません。	8
3	Réalisation du Projet.....	9
3-1	Contributions.....	9
3-1-1	Du côté de la Côte d'Ivoire	9
3-1-2	La Partie Japonaise.....	10
3-2	L'Atteinte des Résultats	10
3-2-1	Résultat 1	11
3-2-2	Résultat 2.....	13
3-2-2	Résultat 3.....	14
3-3	Réalisation de l'Objectif du Projet.....	15
3-4	Réalisation de l'Objectif Global.....	16
3-5	Questions liées au Processus de Mise en Oeuvre.....	16
3-5-1	Elements Contribuant à l'Achèvement du Projet	16
3-5-2	Difficultés qui Affectent la Réalisation du Projet	17
4	Evaluation des Résultats sur la base de Cinq Critères	18
4-1	Pertinence.....	18
4-2	Efficacité	19
4-3	Efficiene	20
4-4	Impact	20
4-5	Durabilité	22
5	Conclusion.....	23
6	Recommandations et enseignements tirés.....	23
6-1	Recommandations à prendre en considération au cours de la période du projet.....	23
6-2	Leçons apprises.....	25

VD

- ANNEXES -

1. Programme
2. PDM
 - 2-1 PDM 1 (Actuel)
 - 2-2 PDM 2 (Révisé)
3. Grille d'Evaluation
 - 3-1 Réalisation du Projet
 - 3-2 Processus de mise en œuvre du Project
 - 3-3 Evaluation par Cinq Critères
4. Liste des enquêtés
5. Liste des homologues en formation au Japon ainsi que dans des pays Tiers
6. Organigramme

Abréviations

CCGPP	Comité Conjoint de Gestion du Projet Pilote
CGQ	Comité de Gestion du Quartier
COGES	Comité de Gestion des Etablissements Scolaires
COSAY	Projet de Renforcement des Communes pour la Promotion de la Cohésion Sociale du Grand Abidjan
C/P	Homologues (Counterpart en anglais)
DASCPH	Direction d'Activités Socio-Culturelles et de Promotion Humaine
DDH	Direction de Développement Humain
DGDDL	Direction Général de la Décentralisation et du Développement Local
DT	Direction Technique
UE	Union Européenne
FCFA	Franc CFA
GRCI	Gouvernement de la République de Côte d'Ivoire
JCC	Comité Conjoint de Coordination
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale (Japan International Cooperation Agency en anglais)
JET	Equipe d'Experts japonais (JICA Expert Team en anglais)
DI	Déplacés Internes
CR	Compte Rendu des Réunions
MEMIS	Ministère d'État, Ministère de l'Intérieur et de la Sécurité
MENET	Ministère de l'Éducation Nationale et de l'Enseignement Technique
ONG	Organisation Non Gouvernementale
PARCS	Projet d'Appui à la Réconciliation et à la Cohésion Sociale des populations des communes
CL	Cadre Logique (PDM en anglais)
PO	Plan d'Opération
PP-PKG	Lot de Projet Pilote (Pilot Project Package en anglais)
P/V	Procès-Verbal des Discussions

1 Aperçu de l'Evaluation Finale

1-1 Contexte et Objectifs de l'Evaluation

Le Projet de Renforcement des Communautés pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan en Côte d'Ivoire a été lancé en Juillet 2013 et devrait prendre fin en Juillet 2016. Sur la base du procès-verbal des Echanges (P/V) signé entre le Ministre d'État, Ministre de l'Intérieur et de la Sécurité, la Commune d'Abobo, la Commune de Yopougon et l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA) en Février 2013, l'enquête d'évaluation finale a été menée du 25 Août au 10 Septembre 2015.

Les objectifs de l'enquête de l'évaluation finale se présentent comme suit ;

- (1) Pour revoir la performance, les réalisations ainsi que le processus de mise en œuvre du Projet en date d'aujourd'hui par rapport à la Matrice de Conception du Projet (ci-après dénommée "MCP") et au programme de travail ;
- (2) Pour conduire une évaluation du Projet selon les cinq critères d'évaluation décrits (voir 2. Méthodologie d'Evaluation) et;
- (3) Pour formuler des recommandations sur les mesures à prendre pour la réalisation de l'objectif du projet sur le reste du temps et en tirer des leçons.

1-2 Membres de l'Equipe d'Evaluation

(1) Partie japonaise

	Nom	Mission	Fonction	Durée de séjour
1	Mme. Yuko Dohi	Chef/ Consolidation de la Paix	Conseiller Principal, JICA	30.08.2015- 11.09.2015
2	Mme. Kie Maegawa	Planification de l'Evaluation	Conseiller Spécial, JICA	30.08.2015- 11.09.2015
3	Mme. Naomi Ichimiya	Analyse d'Evaluation	Directeur, Katahira and Engineers International	25.08.2015- 11.09.2015

(1) Partie ivoirienne

	Name	Job Title	Organisation
1	M. Nemlin Abel José	Coordonnateur Adjoint projets JICA-DGDDL	MEMIS/DGDDL
2	M. Koffi Ehoussou François	Coordonnateur Adjoint projets JICA-DGDDL	MEMIS/DGDDL
3	M. Coulibaly Valy	Directeur Technique	Commune d'Abobo
4	Mme Barro Mahoussa	Directrice du Développement Humain	Commune d'Abobo
5	M. Wague Adama	Chargé des projets	Commune d'Abobo
6	M. Coulibaly Bengaly	Directeur du Développement Humain	Commune de Yopougon
7	M. Bamba Lancine	Sous-Directeur Direction technique	Commune de Yopougon
8	M. Coulibaly Doulaye	Chargé de la Communication	Commune de Yopougon

EP ✓

1-3 Programme de l'Etude d'Evaluation

Voir Annexe 1.

1-4 Aperçu du Projet

1-4-1 Contexte du Projet

Le Grand Abidjan, notamment les communes de Yopougon et d'Abobo, ont été sévèrement affectées par les troubles résultant de la crise post-électorale de 2010. Dans ces zones, outre la pauvreté urbaine et les infrastructures de base insuffisantes, l'accroissement du chômage est devenu un facteur de déstabilisation sociale. En plus de ces situations, la méfiance entre les résidents dans une société fragmentée est considérée comme un facteur de récurrence du conflit à l'avenir.

Pour faire face à ces problèmes, le Gouvernement de la République Côte d'Ivoire (GRCI) a développé le Programme National de Cohésion Sociale (2012-2015). Après le rétablissement de la justice et de consolidation de la paix, l'amélioration des conditions sociales et de santé pour les personnes vulnérables comme troisième pilier est indiqué dans le programme.

Par conséquent, le GRCI a émis une requête de coopération technique, visant à la mise en œuvre d'une approche de promotion de la cohésion sociale à travers des projets d'infrastructures sociales de base dans les communes touchées par la crise. Sur cette base, l'Agence Japonaise pour la Coopération Internationale (JICA) a dépêché une mission de planification d'étude détaillée et en accord avec le GRCI sur le cadre du "Projet pour le Renforcement des Communautés et la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan" (ci-après dénommé «le Projet») dans le procès-verbal (P/V) qui a sanctionné les discussions en Février 2013.

1-4-2 Résumé du Projet

Un résumé du projet qui a été décidé lors de la 1ère rencontre du Comité Conjoint de Coordination (CCC) et l'Objectif Global attendu, le But du Projet, les Résultats et activités décrites dans la MCP (Version 1) se présentent comme suit ;

<Objectif Global>

La cohésion sociale dans les communes affectées par le conflit est promue et renforcée

<Objectif du Projet>

La relation entre les habitants des Communes cibles est renforcée par l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.

< Résultats >

Résultat 1: Les projets pilotes sont sélectionnés en accord avec le mécanisme confirmé pour la planification et l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.

Résultat 2: Les projets pilotes sont exécutés et gérés convenablement suivant les lignes de plans d'exécution.

Résultat 3: Les méthodologies pour la mise en œuvre des projets d'aménagement d'infrastructures de base en tenant compte la cohésion sociale pour le personnel de bureaux communaux sont développées.

< Activités >

Activités du Résultat 1

- 1-1 Finaliser les critères de sélection pour les projets pilotes convenus dans le PV des discussions
- 1-2 Sélectionner les projets pilotes
- 1-3 Socialiser avec les habitants des communes afin de favoriser leur participation aux projets pilotes

Activités du Résultat 2

- 2-1 Développer les plans d'exécution des projets pilotes avec une embauche de ressource humaines locales et renforcer les capacités d'organisation à base communautaire
- 2-2 Affecter les entrepreneurs pour des projets pilotes suivant les lignes de plans de l'exécution
- 2-3 Commencer les projets pilotes incluant les activités de composante soft et gérer l'état d'avancement
- 2-4 Effectuer le suivi conjoint des projets pilotes

Activités du Résultat 3

- 3-1 Elaborer le plan de la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base
- 3-2 Réaliser la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base
- 3-3 Compiler les leçons tirées des projets pilotes et de les partager entre les bureaux communaux
- 3-4 Elaborer des propositions des projets d'aménagement d'infrastructures de base

2 Méthode d'Evaluation

L'évaluation a été menée par l'Equipe Conjointe d'Evaluation (ci-après d'nommée "l'Equipe d'Evaluation") conjointement mise en place par le GRCI et la JICA.

L'évaluation a été menée sur la base des directives suivantes de la JICA:

- Nouvelles Directives JICA Evaluation de Projets, Première Edition, Juin 2010
- Directives JICA pour Evaluation de Projets dans un Pays affecté par des Conflits, Novembre 2014 (Version Japonaise uniquement)

2-1 Procédure

L'Equipe d'Evaluation a examiné le Projet sur la base de la MCP. La performance du Projet a été étudiée sur la base d'indicateurs vérifiables énoncés dans la MCP, ainsi que d'autres informations pertinentes recueillies avant et pendant la visite de l'Equipe d'Evaluation. L'Equipe a mené l'évaluation du Projet selon les cinq critères, à savoir la pertinence, l'efficacité, l'efficience, l'impact et la durabilité, tels que décrits dans la section suivante.

2-2 Les Cinq Critères d'Evaluation

Critères d'Evaluation	Descriptions
Pertinence	Critère permettant d'évaluer la validité du but du Projet ainsi que ces Objectifs Globaux conformément aux politiques de développement des pays concernés et des besoins des bénéficiaires
Efficacité	Critère permettant d'évaluer le niveau de réalisation de l'Objectif du Projet, afin de s'assurer que cette atteinte s'est faite grâce au Projet, et not par des facteurs externes
Efficience	Critère permettant d'évaluer la productivité du Projet, ou de vérifier si les Contributions du Projet ont pu déboucher sur les Résultats attendus
Impact	Critère permettant d'évaluer l'impact direct et indirect, positif et négatif généré par la mise en œuvre du Projet, comprenant l'ampleur à laquelle les Objectifs Globaux ont pu être atteints.
Viabilité	Critère permettant de vérifier si les résultats réalisés par le Projet peuvent être durables selon les conditions politiques, financières et organisationnelles, technologiques et socio-culturelles/environnementales actuelles de la Côte d'Ivoire.

*Compilé par l'Equipe de la JICA, 2010, New JICA Guidelines for Project Evaluation First Edition.

2-4 Méthodes de Collecte de Données

Les données et informations requises pour la révision ont été collectées selon les méthodes ci-après: Les données à la fois quantitatives et qualitatives ont été collectées de la façon suivante, et utilisées pour analyse.

Littérature/Documentation Révision	<ul style="list-style-type: none"> - Procès-Verbal de Discussions (P/V) - Matrice de Conception Projet (MCP) - Rapports d'Avancement Projet rédigés tous les 6 mois comprenant le procès-verbal du CCC, rapports de formations, contributions, programme de travail pour le prochain trimestre, et la réalisation du projet. - Documents sur les programmes de développement de la Côte d'Ivoire - Autres Documents Pertinents
Questionnaire et Enquêtes d'Information clés	<ul style="list-style-type: none"> - homologues du Projet (C/P) - le Comité Conjoint de Gestion du Projet Pilote (CCGPP) - les experts japonais - Institutions partenaires concernées
Observations Directes	Parties prenantes

3 Réalisation du Projet

3-1 Contributions

Les contributions au Projet depuis son lancement jusqu'à fin Juillet 2005 se présentent comme suit: la plupart des contributions du côté de la Côte d'Ivoire et du Japon ont été exécutés comme prévu.

3-1-1 Du côté de la Côte d'Ivoire

1. Responsabilité du personnel

La partie Ivoirienne a nommé les homologues pour la réalisation des activités du projet, y compris les projets pilotes. Initialement, les homologues étaient des employés des Départements Technique, social, culturel et des ressources humaines de la Commune d'Abobo, ainsi que des Départements Technique et Développement humain de de la Commune de Yopougon. Le nombre d'homologues a augmenté en raison du couplage des Départements de Communication des deux mairies au sein du CCC depuis la période du rapport de Janvier-Juin 2015. La liste des homologues se trouve en ANNEXE 4.

2. Mise à disposition installations et d'équipements

Un espace de bureau convenable avec équipements nécessaires et des services ont été fourni pour le projet au MEMIS, à la Mairie d'Abobo, et de Yopougon. Des véhicules pour faciliter les déplacements quotidiens des homologues vers les sites de projets pilotes ont été mis à disposition par le MEMIS.

TO 2

3. Mesures prises

Accès aux informations nécessaires, l'autorisation d'entreprendre les activités de projet, et la sécurité ont été assurés par le MEMIS et les Bureaux Communaux.

4. Allocation Budgétaire

Le budget nécessaire a été alloué pour les coûts d'exploitation et d'entretien de l'équipement et des installations fournis dans le cadre du projet et des activités des homologues.

3-1-2 Du côté du Japon

1. Envoi d'Experts Japonais

24 Experts de la JICA (ci-après dénommés Equipe d'Experts JICA: EEJ) ont été envoyés. (Voir Annexe 4) Le nombre total d'hommes-mois sera de 85 (H/M)

2. Fourniture d'équipement

Des équipements d'une valeur approximative de 1,5 millions de Yen (l'équivalent de 7,1 millions de F CFA) ont été fournis pour la mise en œuvre du Projet. Des équipements importants tels que les véhicules et outils d'entretien des projets pilotes. (Voir Annexe 5)

3. Formation des homologues

Un total de 13 homologues ivoiriens ont participé aux formations de la JICA sur « la société multiculturelle et le développement communautaire » au Japon en 2014 et 2015. Un total de 530 ivoiriens ont pris part des formations et ateliers organisés sur place dans le cadre du projet. (Voir Annexe 6).

4. Dépenses de fonctionnement au niveau local pris en charge par la partie japonaise

Un montant total de 263 millions Yen (équivalent à 1,271 millions FCFA) a été déboursé par la partie japonaise pour mener à bien les activités du projet. Les principales composantes des dépenses locales étaient liées aux coûts des projets pilotes, la mise à disposition de véhicules 4x4, et le recrutement de personnel national pour le projet dans le but de soutenir les Experts dans la réalisation de leurs activités. (Voir Annexe 7)

3-2 L'Atteinte des Résultats

L'Equipe d'Evaluation a mesuré la réalisation du projet sur la base d'Indicateurs Objectivement Vérifiables (IOV) dans la MCP Ver.1, et a classé le niveau de réalisation en trois catégories A, B, et C comme décrit ci-dessous:

☐ ✓

Catégorie	Description
A	A été réalisé.
B	Sera réalisé dans les délais impartis au Projet/pendant l'évaluation ex-post pour l'objectif global
C	Sera difficile à réaliser dans les délais du Projet/pendant l'évaluation ex-post pour l'objectif global

3-2-1 Résultat 1

Résultat 1 Les projets pilotes sont sélectionnés en conformité avec le mécanisme sélectionné pour la planification et la mise en œuvre de projets d'amélioration des infrastructures de base dans les communes.

Indicateurs 1-1. Le mécanisme de planification de projets d'aménagement d'infrastructures de base et la structure d'exécution est organisé et vérifié par chaque mairie et confirmé par les services communaux respectifs

1-2. Les critères de sélection des projets pilotes sont fixés

1-3. Les résidents comprennent le but et le contenu des projets sélectionnés

Description	Total	OVI 1-1	OVI 1-2	OVI 1-3
Notation des réalisations	A	A	A	A

Le Résultat 1 a été réalisé avec succès en Mai 2014 du fait que tous les trois indicateurs ont été atteints.

OVI 1-1: Le mécanisme de planification et de mise en œuvre des projets d'amélioration des infrastructures de base a été organisé par les homologues et l'EEJ au niveau de chaque bureau communal vers Avril 2014. Par la suite, ceci a été confirmé par le Comité Conjoint de Coordination (ci-après dénommé "CCC") réuni en Août 2014.

OVI 1-2: Les critères provisoires de sélection pour projets pilotes mentionnés dans le P/V ont été conjointement validés par le MEMIS, les homologues des deux Communes et l'EEJ (Equipe d'Experts JICA) lors de la réunion de lancement du projet organisée en Août 2013. Plus tard, le projet a été approuvé à la première réunion de l'EEJ tenue dans le même mois. Comme il n'y avait pas de différence significative entre les situations des deux communes, les mêmes critères de sélection a été adoptés pour les deux communes.

Critères	Détails
Effet direct du projet pilote	Urgence et nécessité - Nombre des bénéficiaires ciblés - Synergie avec d'autres projets (projets pilotes compris)

Faisabilité technique	- La construction peut-être achevée dans les délais prévus - Pas de contradiction avec le plan de développement futur - Entretien et gestion faciles après réparation - Facilité de transport pour matériaux de construction et équipements
Possibilité de création d'emploi	- Participation des résidents attendue dans les travaux de construction - Participation des jeunes sans emploi attendue dans les travaux de construction - Possibilité d'utilisation des techniques acquises lors des projets pilotes pour d'autres services par les personnes formées
Contribution à la cohésion sociale	- Population locale et différents groupes peuvent bénéficier des résultats du projet pilote. - Différent tribus peuvent participer au projet pilote
Implication et dynamisme des résidents de commune	- Consentement des résidents obtenu - Des organisations communautaires pouvant coopérer au projet pilote existent - Résultats et expériences des activités par les organisations communautaires
Aspects Financiers	- Selon le budget - Pas de construction spécial

Source: Le Projet

OVI 1-3: Des projets pilotes ont été sélectionnés, comme indiqué dans le tableau ci-dessous, étape par étape: d'abord la longue liste de projets pilotes a été étudiée ; ensuite chaque projet sur la liste restreinte a été examiné sur la base des critères de sélection.

Commune	Abobo	Yopougon
Secteur		
Ecole	Anonkoua Route 3,4 Plaque 1,2	SOGEPHA 6 Palmeraie
Route	EPP Plaque & Carrefour Jack Lycée Municipal	Du Lycée à la Clinique Nazareen EPP Banco2

Source: Le Projet

Les représentants des résidents ont été informés des résultats de la sélection de la longue liste de projet lors de la deuxième Réunion des Parties Prenantes en Novembre 2013. Les projets pilotes sélectionnés ont fait l'objet de rapport à la seconde réunion du CCC tenue en Décembre 2013. Dans le même mois, à chaque Bureau Communal, il y a eu la présentation de l'objectif et le calendrier des projets pilotes faites aux représentants des quartiers où les projets pilotes ont été sélectionnés. Les résidents de ces quartiers ont compris le but et le contenu des projets pilotes dans le processus de mise en place du Comité Conjoint de Gestion pour Projet Pilote (ci-après dénommé "CCGPP") ainsi que la planification des projets pilotes. Ces deux processus ont été achevés en Mai 2014.

3-2-2 Résultat 2

Résultat 2 Les projets pilotes sont exécutés et gérés convenablement suivant les lignes de plans d'exécution

Indicateurs 2-1. Le Comité Conjoint de gestion du Projet sera constitué pour chaque projet pilote

2-2. Les habitants communaux sont employés selon l'orientation

2-3. Le paiement des salaires des ouvriers suivant le contrat s'effectue

2-4. L'inspection des sites de projets pilotes par les homologues de la mairie s'effectue régulièrement (une fois par semaine)

2-5. Le résultat du comité conjoint de suivi rendu aux habitants

Description	Total	OVI 2-1	OVI 2-2	OVI 2-3	OVI 2-4	OVI 2-5
Notation des réalisations	B	A	B	B	B	B

L'Equipe d'Evaluation a conclu que le Résultat 2 serait atteint d'ici la fin de Septembre 2015, compte tenu du degré de mise en œuvre des cinq indicateurs.

OVI 2-1: Un Comité Conjoint de Gestion de Projet Pilote (ci-après dénommé "CCGPP" qui est un sigle Français de ce comité) a été mis en place sur l'ensemble des huit sites du projet vers Février 2014. Les homologues ont proposé la composition des membres du CCGPP pour chaque site du projet pilote. Cette composition proposée comportait les points suivants: (i) les homologues, (ii) les parties prenantes qui comprenait les chefs religieux et ethniques, et (iii) des organisations impliquées dans le contenu du projet pilote, telles que le Comité de Gestion des Ecoles (COGES), l'association des femmes, des jeunes et des travailleurs, si elles existent. La composition de chaque CCGPP varie selon la nature du projet pilote et le contexte local. Les objectifs de la CCGPP étaient de trois ordres, à savoir : entreprendre correctement le projet pilote sélectionné, afin de renforcer le capital social existant dans le quartier par la sensibilisation et le partage de la prise de conscience sur la cohésion sociale avec les parties prenantes, et de soutenir l'intégration professionnelle d'ex-employés locaux après que projet pilote ait été achevé. Les homologues et chaque CCGPP a préparé un plan de mise en œuvre pour le projet pilote comprenant la MCP, le Plan d'opération (PO) et le plan du site, vers Mai 2014.

OVI 2-2: Avant le début des projets pilotes, le projet a mis sur pied la politique de recrutement de travailleurs locaux comme entrepreneurs. Les principaux critères, faisant partie de la politique d'approvisionnement, sont les suivantes: (i) personnes âgées de plus de 17 ans et de moins de 61 ans, (ii) être du même quartier, (iii) pas d'étudiant, (iv) avoir le statut de chômeur en ce moment. Cette politique stipule que les entrepreneurs devraient embaucher des travailleurs locaux qui remplissent ces conditions pour 60% de l'effectif total d'un projet pilote de construction de route. La même chose s'applique à un projet pilote d'école pour 50% de l'effectif total. Les résidents, en particulier les jeunes, employé par les entrepreneurs représentent plus de

50% pour les projets pilotes d'école, mais moins de 60% pour les projets pilotes de route ; de ce fait, les travaux avec utilisation de machines ont été accrus pour rattraper le retard dans l'avancement des travaux routiers. Les CCGPP font le suivi de ces travaux pour déterminer si oui ou non les entrepreneurs à chaque site, sont en conformité avec à la politique d'approvisionnement. Le nombre total de travailleurs locaux (sur la base du travail quotidien) pour huit projets pilotes a atteint 7.440 personnes.

OVI 2-3: Sur la base du suivi entrepris par les CCGPP, les travailleurs communautaires employés sur des séries d'activités, ont été payés sur la base de leurs contrats, notamment PP-PKG-1, PP-PKG-S1, et PP-PKG-2. Les CCGPP vont continuer à gérer les paiements pour le reste des activités afin de s'assurer que les indicateurs ont été atteints.

OVI 2-4: les homologues et membres du CCGPP ont effectué un suivi conjoint du projet pilote dans chacun des quartiers sélectionnés chaque Mardi.

OVI 2-5: Les résultats de cette gestion conjointe hebdomadaire ont été partagés de temps en temps avec les résidents par les membres du CCGPP. Aussi, s'il y a des cas qui nécessitent des modifications dans le contrat, les membres du CCGPP partagent ces informations.

3-2-2 Résultat 3

Résultat 3 Les méthodologies pour la mise en œuvre des projets d'aménagement d'infrastructures de base en tenant compte la cohésion sociale pour le personnel de bureaux communaux sont développées.

Indicateurs 3-1. Les formations sont effectuées avec des plans qui tiennent compte de la cohésion sociale

3-2. Tous les principaux homologues de chaque mairie ont tiré des leçons de la mise en œuvre des projets pilotes

3-3. Les propositions des projets d'aménagement d'infrastructures de base reflétant les leçons apprises pendant la phase de mise en œuvre sont soumises aux bailleurs

Description	Total	OVI 3-1	OVI 3-2	OVI 3-3
Notation des résultats	B	A	B	B

L'Equipe d'Evaluation a conclu que le Résultat 3 serait atteint vers Avril 2015, sur la base du degré d'achèvement des trois indicateurs.

OVI 3-1: Un total de 21 dans le pays et deux au Japon, des formations ont été offertes au mois de Juillet 2015 suite au développement de plans de formation pour la réalisation de la cohésion sociale. (Voir Annexe 6) Le projet a développé un programme de formation en Février 2014 sur la base des résultats de l'évaluation des besoins en formation et des discussions du groupe de travail chargé de la formation qui comprenait les homologues et les experts japonais.

En plus des homologues, des membres du CCGPP et du COGES des quartiers du projet pilote ont participé à la formation sur place.

OVI 3-2: Les principaux homologues ont arrêté ce qui suit: (i) que l'implication des résidents du quartier au stade précoce du projet d'infrastructure a été efficace pour établir un consensus avec ceux-ci dans la réalisation parfaite de projets d'infrastructure, (ii) le CCGPP pourrait être efficace en faisant la promotion de la collaboration entre le Service Communal et les résidents, parce que le CCGPP composé de représentants de divers groupes/associations du quartier cible, et (iii) la sélection des projets basée sur des critères a été utile dans l'établissement du consensus parmi les résidents, comme cela a été le cas dans la commune d'Abobo. Le Projet effectuera par la suite un suivi et évaluation des projets pilotes sur le temps restant pour le projet.

OVI 3-3: Des propositions de projet d'amélioration des infrastructures reflétant les leçons tirées de la mise en œuvre des projets pilotes ont été soumises. Une proposition a été soumise au fonds de l'Ambassade du Japon, mais n'a pas été approuvée. Le projet a organisé un séminaire intermédiaire de partager les leçons tirées des projets pilotes avec les bailleurs.

3-3 Réalisation de l'Objectif du Projet

Projet *La relation entre les habitants des Communes cibles est renforcée par l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.*

Indicateurs *1. Dans les zones pilotes, les activités effectuées par les habitants sont dynamisées*

1-1. Le nombre de réunions organisées par/pour les habitants a augmenté

1-2. Le nombre et type de groupes d'habitant s'est accru

1-3. Le nombre d'habitants qui estiment que les relations entre habitants se sont renforcées a augmenté

2. La confiance dans les mairies s'est améliorée à travers les activités de projets pilotes

2-1. Les occasions de dialogue directe entre les habitants et les services de la mairie se sont accrues

2-2. Le nombre de requêtes de projets venant des habitants à la mairie a augmenté

Description	Total	OVI 1 1-1	OVI 1 1-2	OVI 1 1-3	OVI 2 2-1	OVI 2 2-2
Notation de la réalisation	B	A	B	B	A	B

L'Equipe d'Evaluation a conclu que l'objectif du projet pourrait être réalisé dans le délai de projet sur la base du degré de réalisation des trois indicateurs.

OVI 1 1-1 à 1-3, et OVI 2 2-1 à 2-2: Les points suivants montrent que les indicateurs seraient atteints:

- Le CCGPP, réunions des parties prenantes et création d'emplois pour les résidents

locaux sont utiles pour améliorer les rapports entre résidents dans le quartier de projet pilote.

- Le CCGPP est la première occasion pour les membres à travailler en étroite collaboration pour le bien-être du quartier, en faisant table-rase des considérations ethniques et religieuses.
- Comme le CCGPP offre une possibilité de communication entre les Services Communaux et d'autres membres, les membres résidents voient la distance psychologique qui les séparent des Services Communaux plus courte, ce qui les encourage à y aller.
- L'interaction entre les membres résidents et les services communaux s'est amélioré grâce à des réunions et formations à travers la création d'activités du CCGPP.
- Les membres du CCGPP de différents groupes ethniques se sont salués dans la rue. Ce genre de chose a rarement cours par le passé. Ce type d'interaction entre membres s'est multiplié

3-4 Réalisation de l'Objectif Global

- Objectif Global* 1. Dans les communes cibles, le nombre de résidents satisfaits a augmenté
 2. Dans les communes cibles, le nombre et type d'activités collectives effectuées par les résidents et entre les communautés se sont accrues
- Indicateurs* 3. Le nombre des habitants qui estiment que "la mairie est plus ouverte à fournir des informations au public et entreprendre des activités de développement équitable" a augmenté

Description	Total	OVI 1	OVI 2	OVI 3
Notation des réalisations	B	B	B	B

Après l'analyse des informations et données recueillies lors de l'étude, l'Equipe d'Evaluation a tiré les conclusions suit; (i) Bien que le temps alloué à l'Objectif Global n'ait pas été défini, on peut supposer trois ans après l'achèvement du projet; (ii) Réaliser la cohésion sociale exige plus de temps que les trois années initialement prévues dans la commune de cible, (iii) l'Objectif Global pourrait être atteint sur le long terme du fait que la cohésion sociale ait été renforcé dans les communes cibles comme décrit dans "3- 3 Réalisation de l'Objectif du Projet ".

3-5 Questions liées au Processus de Mise en Ouvre

3-5-1 Eléments Contribuant à l'Achèvement du Projet

- L'implication des homologues dans le Département de Communication pour une

meilleure utilisation des ressources existantes des Services Communaux.

Le projet a invité le personnel de la Direction de Communication à organiser une série de réunions des parties prenantes avec les résidents, ce qui a eu lieu lors des premières étapes du projet pendant la période post-conflit encore sensible. Le Département de la Communication a une bonne expérience en matière de diffusion d'information aux résidents de façon appropriée. Du fait que ce département assiste aux réunions des parties prenantes, ceci permet aux résidents de comprendre les objectifs et les activités du projet et de réduire ainsi les risques d'une mauvaise perception du projet.

- L'implication des organisations à base communautaire existantes, les COGES dans les CCGPP. L'implication des COGES dans les CCGPP était efficace à deux niveaux; (i) En créant le CCGPP, cela a offert une opportunité aux résidents de participer à l'entretien de l'école dans leur quartier. L'école est devenue un lieu de facilitation pour la cohésion sociale. Puisque les membres résidents viennent à l'école pour les réunions et activités du CCGPP et partagent des informations sur le projet pilote avec d'autres résidents, la perception de ces derniers envers les écoles a changé allant d'une entité fermée et isolée, exceptés les parents et les élèves, à un lieu de rencontre populaire dans le quartier. Ceci a facilité la cohésion sociale dans le quartier. (ii) Un système d'entretien d'école par le COGES a été créé en 1995 en Côte d'Ivoire. Les COGES assure la gestion des bâtiments scolaires et l'environnement des études, tels que l'achat de manuels et de fournitures. Bien qu'il existe des problèmes aux COGES tels que l'insuffisance des ressources financières, ils accomplissent leur rôle et responsabilité dans la mesure du possible et s'intègrent dans le système d'éducation publique. Avoir les COGES comme membres du CCGPP pour les projets pilotes d'école, a permis au CCGPP de travailler plus efficacement.

3-5-2 Difficultés qui Affectent la Réalisation du Projet

- Le nombre insuffisant d'entrepreneurs et de consultants locaux recrutés sur les projets pilotes de route
A titre d'exemple, au cours d'un projet pilote de route, une conduite d'eau a été endommagée, ce qui a provoqué une coupure d'eau de six semaines dans un quartier cible. Cela a été exacerbé par la mauvaise qualité des travaux de drainage et d'asphaltage des routes dans certains cas, ce qui a nécessité une prolongation des délais d contrat à plusieurs occasions. Certains entrepreneurs ne comprennent pas les méthodes contractuelles de base, telles que les contrats à prix forfaitaire. Il en est résulté des retards dans la réalisation de certains contrats de plus de deux mois. Ces retards ont

aussi découragé certains membres du CCGPP à continuer à participer au CCGPP, ce qui a affecté la promotion de la cohésion sociale. Les retards ont également réduit l'emploi de travailleurs locaux, du fait que les entrepreneurs devaient augmenter les machines pour rattraper le temps perdu. Ces retards ont causé des problèmes de gestion aux experts, homologues, ainsi qu'au bureau de la JICA dans les visites de sites et modification des contrats.

4 Evaluation des Résultats sur la base de Cinq Critères

4-1 Pertinence

La pertinence du projet est évaluée comme «Très Elevée» selon les perspectives suivantes:

1. Pertinence de l'approche Project

2. Le Projet est pour la réhabilitation/construction des infrastructures sociales avec une approche de mise en œuvre à base communautaire des projets pilotes. La conception du projet était appropriée pour contribuer à la promotion de la cohésion sociale, parce que les projets pilotes ont été sélectionnés, menés et contrôlés par une méthode collective à travers le CCGPP pour le bien commune des résidents.

3. Pertinence des facteurs sélectionnés pour les projets pilotes

Les projets pilotes s'occupent des routes communautaires et des écoles primaires. Les deux secteurs sont largement reconnus comme étant efficaces pour la promotion de la cohésion sociale, et qui s'applique au projet dans son ensemble.

JP ✓

4. Pertinence du calendrier

Le projet a démarré deux ans après la fin de la crise post-électorale, lorsque la méfiance et la peur étaient encore fortement présentes. Dans une telle situation, il était opportun d'offrir des possibilités aux personnes de travailler ensemble au sein du CCGPP ou comme travailleurs locaux, du fait qu'une telle opportunité pouvait promouvoir la cohésion sociale.

Le calendrier du démarrage du projet est approprié dans le cadre de l'engagement du gouvernement du pays hôte sur la nécessité de la cohésion sociale. Le GRCI avait élaboré le «Programme National pour la Cohésion Sociale (2012-2015)» avant le début du Projet.

Les Hypothèses Importantes décrites dans la MCP (Matrice de Conception du Projet) sont toujours valables pour la mise en œuvre le projet, et aucune ne s'est produite jusqu'ici.

5. Pertinence des cibles du projet

La zone cible du projet est également approprié, étant les communes les plus touchées par la crise post-électorale dans le Grand Abidjan. Les groupes cibles du projet étaient les résidents de communes et les services communaux. Ils sont les principaux acteurs pour la réalisation de la cohésion sociale, et n'en ont pas eu l'occasion avant le Projet. Ainsi, le projet a identifié le groupe le plus approprié en tant que groupe cible pour contribuer à la cohésion sociale.

6. Cohérence avec les politiques nationales de développement et les politiques d'assistance du Japon

Le projet est conforme à la politique de GRCI. Le GRCI vient d'approuver la 2^e phase du "Programme National pour la Cohésion Sociale" pour l'année 2015 à 2020, qui a été conçue à la suite du dernier plan de développement national pour la même période. Le projet est également conforme au Programme d'Aide Pays du Japon à la Côte d'Ivoire, qui vise à soutenir la reconstruction et le redressement du pays. La JICA fournit une assistance au pays pour contribuer à la stabilisation et au développement socio-économique du pays.

4-2 Efficacité

L'efficacité du Projet est évaluée comme "Elevée" selon les perspectives suivantes.

1. Perspective d'Achèvement de l'objectif du Projet

Au vu des indicateurs de performance mesurés (voir «3-3 réalisation de l'objectif du projet») et des informations recueillies lors de l'évaluation finale, l'objectif du projet pourrait être en grande partie atteint. Toutefois, afin de maintenir le niveau actuel des réalisations sur la période restante du projet, des efforts continus sont nécessaires à la fois de la partie Ivoirienne et Japonaise.

2. Contribution de Chaque Résultat

Les trois résultats contribuent à la réalisation de l'objectif du Projet de la manière suivante. Sélection des projets pilotes en conformité avec le mécanisme existant de planification et de mise en œuvre de projets d'infrastructure de base [Résultats 1]; Exécution et gestion des projets pilotes par un comité comprenant les résidents et les communes [Résultats 2]; Compilation et partage des leçons apprises sur les projets pilotes [Résultats 3].

4-3 Efficience

L'efficience du Projet est évaluée comme "Modérée" selon les perspectives qui suivent.

1. Contributions de la partie Ivoirienne et Japonaise

Les contributions de la Côte d'Ivoire et du Japon ont été exécutées comme décrit dans la MCP. La dévaluation rapide du Yen japonais a eu lieu après le début du projet, ce qui entraîne une réduction du budget du projet pilote de 20% environ. La partie japonaise a modifié la composition des experts pour une mise en conséquence des projets pilotes.

2. Gestion du Projet

Les activités du projet ont été menées comme prévu, sauf pour les projets pilotes de réhabilitation de route. L'achèvement des projets pilotes de route a été retardé en raison de fortes pluies, de conditions souterraines imprévues, et de mauvaises performances des entrepreneurs, et des procédures de passation des marchés. Les contrats de projets pilotes de route ont été prolongés de deux mois en moyenne, jusqu'en fin Août.

4-4 Impact

L'impact du projet est évalué comme "Elevé" selon les perspectives suivantes. L'indicateur de l'objectif global doit être révisé de manière à refléter les objectifs du projet de manière plus appropriée afin que l'évaluation ex-post puisse être menée efficacement.

1. Réalisation de l'Objectif Global

Comme indiqué ci-dessus dans "3-4 Réalisation de l'Objectif Global" plusieurs situations qui pourraient indiquer l'atteinte des indicateurs ont été observés pendant l'étude. Par conséquent, il est prévu que l'Objectif Global soit atteint avec les Hypothèses Importantes décrites dans la MCP. Il est cependant nécessaire de spécifier l'année cible de l'Objectif Global

2. Impacts Positifs

- Les impacts positifs observés sont les suivants:
 - "Projet d'Appui à la Réconciliation et à la Cohésion Sociale des populations des communes d'Abobo et de Yopougon" (PARCS) financé par l'Union Européenne et qui a

adopté l'approche de la "méthodologie COSAY" principalement la construction d'infrastructures sociales à base communautaire sociale pour promouvoir la cohésion sociale.

- Le Département Technique de la Commune d'Abobo a reconnu les avantages de la méthodologie COSAY et est en discussion avec le Département Socio-culturel afin d'introduire cette approche dans les projets d'infrastructure futurs.
- La compréhension des membres résidents du CCGPP sur la fonction et le travail des services communaux et de collecte des taxes a augmenté, de sorte qu'ils sont devenus plus aptes à payer les taxes sans un sentiment d'incertitude.
- Le groupe ethnique Ebrié a invité d'autres groupes ethniques à leur festival. De tels exemples étaient rares par le passé.
- Les représentants des groupes de jeunes au sein du même CCGPP et les ex-employés qui avait travaillé pour le même projet pilote créent un sentiment de d'entraide.
- Certains CCGPP ont intensifié leurs efforts pour transformer le CCGPP en organisme bénévole pour le développement continu de leur quartier, sous la forme de Fonds Mutuelle de Développement d'Andokoi: MUDA (Yopougon), et CGQ au Lycée Municipal (Abobo)

3. Impacts Négatifs

- Certains effets négatifs générés par le projet ont été observés comme suit:
 - Au Lycée Municipal dans la Commune d'Abobo, un enfant a été accidentellement emporté par les eaux dans un caniveau à ciel ouvert faisant l'objet de projet pilote, alors qu'il prenait un bain dans l'eau courante, il est toujours porté disparu. Après l'accident, le CCGPP a mené des visites de sensibilisation dans chaque ménage du quartier afin de planter des panneaux d'avertissement le long du bassin. En outre, le projet a amené l'entrepreneur à installer une grille de protection tout le long du caniveau pour empêcher de tels accidents.
 - Dans le même quartier, du projet pilote de route ne couvre pas entièrement la voie, la demi-longueur de la route est restée non bitumée bien que le drainage ait été installé. Certains membres du CCGPP sont inquiets des conséquences que pourraient avoir la division sur le quartier par rapport à l'état de la route. Le service communal de la mairie d'Abobo examine des contre-mesures afin d'élaborer une proposition pour le bitumage de la partie restante de la voie. Le Service Commune prévoit de soumettre cette proposition à la Banque Mondiale.

RP ✓

4-5 Durabilité

La Durabilité du Projet est évalué à "Modérée" selon les perspectives suivantes.

1. Aspect Politique

La viabilité du projet du point de vue politique est élevée. Comme décrit dans «4-1 Pertinence», l'objectif du projet est conforme avec le Programme National pour la Cohésion Sociale, dont la phase II débutera bientôt pour 2016 à 2020. La phase II a été développée pour réaliser le Plan National de Développement de la Côte d'Ivoire de 2016 à 2020 pour ce qui concerne la cohésion sociale.

2. Aspect Financier et Organisationnel

La viabilité du projet du point de vue financier et organisationnel est évaluée comme relativement faible au moment de l'évaluation finale. Les Services Communaux d'Abobo et Yopougon ont l'intention de reproduire la méthodologie COSAY. Concernant les questions financières, les services communaux peuvent inclure des projets à mettre en œuvre par la méthodologie COSAY dans leur plan de développement sur trois ans. D'autre part, les ressources humaines et coûts de fonctionnement, tels que le transport et la communication, doivent être renforcés pour permettre au personnel de la commune de visiter le quartier afin de recueillir les informations nécessaires et de coordonner avec le quartier, les questions liées à la planification et la mise en œuvre de projets par la méthodologie COSAY.

3. Aspect Technique

La viabilité du projet à partir du point de vue technique est élevée. La méthodologie COSAY ne nécessite aucune technique poussée, elle requiert plutôt un changement de mentalité des dirigeants et résidents de la commune, par la sensibilisation: collaboration plus étroite entre les concernés dans les services de la commune, la communication et la coordination entre les Services Communaux et les résidents. Les connaissances et compétences requises pour un tel changement ont été bien ancrées au niveau des homologues, et résidents membres des CCGPP.

4. Aspects Socio-Cultural

La viabilité du projet du point de vue socio-culturel est élevée. Comme pour la cohésion sociale, la tendance générale en Côte d'Ivoire souligne l'importance de la cohésion sociale en raison de la multiethnicité et multi-culturalité de la société. Après la crise post-électorale, l'aspiration à la cohésion sociale est devenue plus intense que jamais à la base ainsi qu'aux niveaux local et gouvernemental.

5. Considérations Socio-Environnementales

La compréhension des services communaux sur l'importance de la considération sociale s'accroît. Par exemple, le traitement de la relocalisation des vendeurs sur le tronçon de la route des projets pilotes. D'autre part, des préoccupations environnementales et sociales existent pour le projet pilote de la route du Lycée Municipal dans la Commune d'Abobo, et celle d'Andokoi dans la Commune de Yopougon, auxquelles les services communaux en charge examinent des contre-mesures. Il est prévu que le Projet fasse le suivi de la durabilité et de la mise en œuvre de solutions.

5 Conclusion

Description	Pertinence	Efficacité	Efficience	Impact	Viabilité
Notation	Très Elevée	Elevée	Modérée	Elevée	Modérée

Au niveau des cinq critères d'évaluation, la pertinence et l'efficacité du projet sont respectivement estimées être «Très élevée» et «Elevée». Le projet est jugé avoir atteint un niveau satisfaisant en terme d'impact avec divers impacts positifs, quand bien même il reste huit mois avant la date d'achèvement du projet. Dans le même temps, l'Efficacité et la Durabilité du projet sont estimées être «Moyennes» en raison de problèmes liés aux aspects organisationnels et financiers du projet.

Ainsi, l'équipe d'évaluation conclut que le Projet sera en mesure d'atteindre son objectif dans son délai.

6 Recommandations et enseignements tirés

6-1 Recommandations à prendre en considération au cours de la période du projet

1. S'accorder avec les CCGPP sur les systèmes d'entretien des routes, y compris les dispositions financières et logistiques [Services communaux / EEJ]

Les Bureaux des Communes s'attendent à obtenir des fonds nécessaires et les dispositions logistiques pour entretenir les routes construites dans le cadre des projets pilotes, et tout ce qui serait convenu devrait être documentée en plus de la discussion en cours entre le projet et le CCGPP, ou leurs organisations à venir.

2. Compiler les leçons apprises et de modifier la méthodologie COSAY pour capitaliser les expériences de COSAY [Bureaux Communaux / EEJ]

Puisque les deux bureaux communaux d'Abobo et de Yopougon ont l'intention de reproduire l'approche COSAY, il est recommandé de compiler la méthodologie de

COSAY, y compris les leçons apprises et le processus, sous forme de manuel. En outre, il est recommandé de compiler les leçons apprises, de modifier et d'identifier la stratégie pour capitaliser la méthodologie COSAY afin de renforcer la cohésion sociale après la fin du projet.

3. Faire des ateliers de synthèse pour partager les leçons apprises avec d'autres communes du Grand Abidjan [MEMIS]

Il est conseillé de partager l'expérience de COSAY et les leçons apprises avec non seulement avec les Homologues, les ministères concernés et les bailleurs de fonds qui ont été engagés dans la promotion de la cohésion sociale, mais aussi avec les bureaux communaux du Grand Abidjan qui exigent l'approche communautaire et basée sur la cohésion sociale faisant partie du séminaire de révision.

4. Donner des recommandations sur l'institutionnalisation de l'approche communautaire de développement des infrastructures [MEMIS / EEJ]

Conformément à l'intention de MEMIS, JET doit fournir les conseils nécessaires pour élaborer des procédures pour institutionnaliser la participation de la communauté par des services communaux en recensant les besoins de la collectivité à travers les services communaux et l'implication des différentes parties prenantes pour le développement de l'infrastructure dans le but de renforcer davantage la cohésion sociale.

5. Réviser objectivement les Indicateurs Vérifiables pour l'objectif global en MCP Ver.1 [Le projet]

Basé sur les discussions entre Homologues et EEJ, comme indiqué à «4-4 Impact », il est recommandé d'ajouter des indicateurs pour l'objectif global de manière à refléter les buts du projet de manière plus appropriée. Un indicateur possible serait un certain nombre de projets de développement qui prennent en compte la méthodologie de la cohésion communautaire ou sociale lors de l'étape de planification et de mise en œuvre avec la participation de multiples parties prenantes. Cela facilitera l'évaluation d'incidence à effectuer efficacement.

6-2 Recommandations à prendre en compte après la période du projet

1. Aux Services Communaux

Superviser les quartiers pilotes pour les suivre et fournir un appui technique pour réussir l'organisation du CCGPP

2. A MEMIS

Superviser les bureaux communaux d'Abobo et de Yopougon afin de vérifier si l'approche COSAY est mis en œuvre et fournir un soutien si nécessaire

Promouvoir les projets d'infrastructures sociales à base communautaire pour la promotion de la cohésion sociale en rapport aux enseignements tirés de COSAY

6-3 Leçons apprises

1. Viser à la fois les membres de la commune et de la communauté pour le renforcement des capacités.

Dans la promotion de la cohésion sociale au sein des communautés touchées par le conflit, il est efficace de cibler à la fois le gouvernement local (commune) et les membres de la communauté, en particulier afin de renforcer la résilience en période de transition de la période post-conflit au stade de développement.

2. Mise en place d'un comité ou d'un mécanisme composé de membres avec diverses formations

Pour un projet pour promouvoir une cohésion sociale dans les zones urbaines où la société se compose de personnes d'origines diverses, créer et gérer un comité composé de représentants de différents groupes sert de plate-forme afin de promouvoir la cohésion sociale.

3. Définition des critères de transparence et responsabilisation

Mettre en place des critères pour sélectionner des projets/investissements publics est utile pour garantir la transparence et la responsabilisation, vu que la hiérarchisation des priorités des services publics peut être politiquement motivée.

4. La cohésion sociale contre les aspects techniques des projets d'infrastructure

Construire/réhabiliter des infrastructures publiques peut être efficace pour créer un

intérêt commun entre les groupes qui étaient officiellement en conflit les uns avec les autres. Il a été confirmé que les écoles et les routes ont des répercussions importantes sur la cohésion sociale. Cependant, il est nécessaire de confirmer le niveau technique requis des travaux à l'avance. Si les travaux de construction/réhabilitation ont été retardés, cela peut démotiver les résidents impliqués et éventuellement affecter la promotion de la cohésion sociale. En outre, si les travaux de construction/réhabilitation semblent profiter qu'à une partie des communautés, cela pourrait avoir un impact négatif sur les relations des personnes, ce fut le cas de la construction d'une route dans un quartier.

5. Contexte de promotion de la cohésion sociale

Les situations de conflit exigent souvent la promotion de la cohésion sociale en tant que base pour la stabilisation ainsi que pour le développement. Provoquer des changements à un stade précoce de l'initiative de la cohésion sociale peut être un tremplin pour plus de renforcement de la cohésion sociale. Cela cependant, nécessite la capacité fondamentale à la fois dans l'administration publique et dans la communauté.

6. L'examen régulier de MCP

Dans un projet mis en œuvre dans une situation post-conflit, il est conseillé d'examiner PDM périodiquement à la lumière des aspects sociaux, économiques et politiques, et de le modifier en conséquence. Il est plus probable dans l'état post-conflit que les données qui ont été recueillies avant le début du projet ne représentent pas toute la situation et que les hypothèses formulées avant le début du projet peuvent ne pas correspondre nécessairement au contexte de la mise en œuvre du projet.

7. La communication entre la partie ivoirienne et les experts japonais

Dans l'environnement post-conflit où les tensions demeurent, et dans la promotion de la cohésion sociale dans un tel environnement, la communication à la fois formelle et informelle étroite entre les ivoiriens et leurs homologues japonais sont essentielles pour s'assurer que le projet ne fait aucun mal à la paix et a le maximum d'effets en faveur de la paix tout comme l'expérience de COSAY.

8. Composition de l'équipe d'experts de la JICA

Dans tous les projets de la JICA, la composition du groupe d'experts de la JICA doit être ajustée pour mieux répondre aux besoins du secteur cible du projet. En particulier, pour un projet JICA en situation post-conflit, la composition de l'équipe d'experts peut ne pas convenir avec le plan initial. De même, une révision régulière et l'alternance de la

composition de l'équipe régulière peuvent être nécessaires. Les experts suivants ont été envoyés pour la promotion de la cohésion sociale: "consolidation de la paix", "développement communautaire", "l'emploi des jeunes", "Surveillance", "Enquête / gestion de l'école sociale et accroissement de l'activité civile" et "considération environnementale et sociale" pour le cas du projet COSAY.

FIN

Date		JICA(Mme. Dohi, Maegawa)	Consultant (Mme. Ichimiya)
2015/8/24	Lundi		Départ de Tokyo
2015/8/25	Mardi		Arrivée à Abidjan
2015/8/26	Mer.	Matin	① 9h00 Visite de courtoisie à la JICA ② 10h00 Interview avec les Experts de la JICA (au MEMIS)
		Après midi	13h00 Interview avec JET (au MEMIS) 15h00 Réunion de lancement du CCE (au MEMIS)
2015/8/27	Jeudi	Matin	9h00 Interview avec EPEC (Entrepreneur du PKG2) 10h00 Interview avec le CCGPP à l'EPP Plaque 1,2 (Abobo) et les travailleurs locaux
		Après midi	13h20 Interview avec le COGES (Akeikoi Municipalité, Abobo) 15h00 Interview avec le CCGPP au GS Anonkoua Kouté (Abobo)
2015/8/28	Ven.	Matin	10h00 Interview avec le CCGPP au GS SOGEFIHA 6 (Yop)
		Après midi	13h30 Interview avec COGES (GS Lagune, Yop) 15h30 Interview avec le CCGPP au GS Parmilaie (Yop)
2015/8/29	Sam.		Départ de Tokyo
2015/8/30	Dim.		Arrivée à Abidjan
2015/8/31	Lundi	Matin	① 8h30 Visite de courtoisie à la JICA ② 9h00 Visite de courtoisie au MEMIS ③ Interview avec le CCGPP sur la Route de Plaque (Abobo)
		Après midi	① 9h00 Interview avec MODULUS (Entrepreneur du PKG3) ② 10h00 Interview avec le CCGPP sur le route de Plaque (Abobo)
2015/9/1	Mardi	Matin	15h00 Interview avec le CCGPP au Lycée Municipal (Abobo) et les travailleurs locaux
		Après midi	10h00 Interview avec le CCGPP à Andokoi (Yop)
2015/9/2	Mer.	Matin	13h00 Interview avec le CGQ (Niangon, Yop) 15h00 Interview avec le CCGPP à Banco 2 (Yop)
		Après midi	10h00 Interview avec le MENET (Education) (Un member du CCC) (auMEMIS) 15h00 Programme National de Cohésion Sociale
2015/9/3	Jeudi	Matin	9h00 Interview avec les Homologues de Yopougon (Adjoint au Maire, Direction Technique et Service Social/ de la Communication)
		Après midi	15h00 Interview avec le projet PARCS (Financé par l'Union Européenne)
2015/9/4	Ven.	Matin	9h00 Interview avec les Homologues de la Mairie d'Abobo (Adjoint au Maire, Direction Technique et Service Social/ de la Communication)
		Après midi	16h00 Interview avec le MEMIS
2015/9/5	Sam.		Préparation de Documents et du PV
2015/9/6	Dim.		Préparation de Documents et du PV
2015/9/7	Lundi	Matin	Préparation de Documents et du PV
		Après midi	15h00 Discussion Interne
2015/9/8	Mardi	Matin	Préparation de Documents et du PV
		Après midi	Préparation de Documents et du PV
2015/9/9	Mer.	Matin	Préparation de Documents et du PV
		Après midi	14h00 Discussion Interne
2015/9/10	Jeudi	Matin	9h30 CCC
		Après midi	Finalisation du PV (Signature du PV)
2015/9/11	Ven.	Matin	Signature du PV , compte rendu au bureau de la JICA
		Après midi	Départ d'Abidjan
2015/9/12	Sam.		Arrivée à Tokyo

Annexe 1 Cadre Logique du Projet (PDM)

Titre du Projet : Projet de renforcement des communes pour la promotion de la cohésion sociale du Grand Abidjan
 Bénéficiaires directs: Personnel des mairies, habitants des communes d'Abobo et de Yopougon participant aux projets pilotes
 Bénéficiaires indirects : Habitants des communes d'Abobo et de Yopougon

Durée : Juillet 2013 - Juin 2015(3 ans)
 Lieux cibles : Communes d'Abobo et de Yopougon du Grand Abidjan
 PDM : Ver.1

Date du 28 Août 2013

<p>La cohésion sociale dans les communes affectées par le conflit est promue et renforcée</p>	<p>1. Le nombre des habitants des communes cibles qui se sentent en sécurité augmente 2. Le nombre des activités de collaboration et d'échanges entre les habitants et entre les communautés des communes cibles augmente 3. Le nombre des habitants qui sentent que "la mairie ouvre des informations au public et pratique un développement équitable" augmente</p>	<p>1. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux habitants de la commune, et à la mairie 2. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux participants aux activités, aux organisations basées sur la communauté et à la mairie 3. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux habitants de la commune et à la mairie</p>	
<p>La relation entre les habitants des Communes cibles est renforcée par l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.</p>	<p>1. Les activités entre les habitants se dynamisent dans les quartiers de projets pilotes 1-1. Le nombre de réunions augmente 1-2. Le nombre et le type des activités augmente 1-3. Le nombre des habitants qui sentent que la relation entre les habitants est améliorée augmente 2. La confiance en mairie à travers les activités de projets pilotes augmente 2-1. Le dialogue avec les habitants augmente 2-2. Le nombre de requêtes de projets venant des habitants à la mairie augmente</p>	<p>1. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux organisations basées sur la communauté ; rapports d'avancement 2. Résultats d'interviews et d'enquêtes, aux chefs de la communauté, aux organisations basées sur la communauté ; rapports d'avancement, rapports du comité conjoint de suivi; rapports d'achèvement</p>	<p>Evènements qui affectent la cohésion sociale en Côte d'Ivoire ne se produisent pas.</p>
<p>1. Les projets pilotes sont sélectionnés en accord avec le mécanisme confirmé pour la planification et l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base 2. Les projets pilotes sont exécutés et gérés convenablement suivant les lignes de plans d'exécution 3. Les méthodologies pour la mise en œuvre des projets d'aménagement d'infrastructures de base en tenant compte la cohésion sociale pour le personnel de bureaux communaux sont développées.</p>	<p>1-1. La planification de projets d'aménagement d'infrastructures de base et la structure d'exécution arrangées et vérifiées par chaque mairie 1-2. Les critères de sélection fixés 1-3. Le contenu et le rôle de projets pilotes sélectionnés compris par les habitants 2-1. Le Comité Conjoint de gestion du Projet sera constitué pour chaque projet pilote 2-2. Les habitants communaux sont employés selon l'orientation 2-3. Le paiement des salaires des ouvriers suivant le contrat s'effectue 2-4. L'inspection des sites de projets pilotes par les homologues de la mairie s'effectue régulièrement (une fois par semaine) 2-5. Le résultat du comité conjoint de suivi rendu aux habitants 3-1. La formation en tenant compte de la cohésion sociale suivant la planification s'effectue 3-2. Tous les principaux homologues de chaque mairie comprennent les leçons compilées 3-3. La propositions des projets d'aménagement d'infrastructures de base reflètent les leçons remises aux partenaires</p>	<p>1-1. Rapport sur la planification des projets d'aménagement d'infrastructures de base et sur la structure d'exécution ; résultats d'interviews à la mairie 1-2. Critères de sélection de projets pilotes de chaque commune 1-3. Résultats d'interviews à la mairie, aux chefs de la communauté, et aux habitants de la commune 2-1. Listes des membres de Comités constitués, rapports d'avancement du Projet 2-2. Orientations d'approvisionnement de projets pilotes, contrats de projets pilotes, rapports d'avancement des travaux d'aménagement, rapports d'avancement du Projet 2-3. Contrats d'emploi des ouvriers, rapports d'avancement des travaux d'aménagement, rapports d'avancement du Projet, résultats d'interviews aux ouvriers 2-4. Rapports de suivi des sites, résultats d'interviews aux entrepreneurs 2-5. Rapports du comité conjoint de suivi, résultats d'interviews aux membres du comité conjoint de suivi et aux chefs de la communauté 3-1. Résultats d'analyse des besoins en formation et rapports d'exécution de formation 3-2. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux homologues de la mairie 3-3. Propositions élaborées pour des projets d'aménagement d'infrastructures de base</p>	<p>La situation socio-politique des communes cibles ne se détériore pas -La juridiction des communes n'est pas radicalement modifiée.</p>
<p>1-1. Finaliser les critères de sélection pour les projets pilotes convenus dans le PV des discussions 1-2. Sélectionner les projets pilotes 1-3. Socialiser avec les habitants des communes afin de favoriser leur participation aux projets pilotes 2-1. Développer les plans d'exécution des projets pilotes avec une embauche de ressource humaines locales et renforcer les capacités d'organisation à base communautaire 2-2. Affecter les entrepreneurs pour des projets pilotes suivant les lignes de plans de l'exécution 2-3. Commencer les projets pilotes incluant les activités de composante soft et gérer l'état d'avancement 2-4. Effectuer le suivi conjoint des projets pilotes 3-1. Elaborer le plan de la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base 3-2. Réaliser la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base 3-3. Compiler les leçons tirées des projets pilotes et de les partager entre les bureaux communaux 3-4. Elaborer des propositions des projets d'aménagement d'infrastructures de base</p>	<p><Côté Japonais> 1) Experts • Chef/Développement des communautés/ consolidation de la paix • Construction des bâtiments • HIMO/Travaux Génie civil • Assistance Marché de Travaux • Entretien d'infrastructures (voirie/drainage) • Entretien de superstructures (bâtiment) • Equipements médicaux • Estimation de coûts • Gouvernance locale • Gestion de sécurité et sureté • Coordinateur • Autres Experts quand nécessaire 2) Fourniture d'équipements et de machines • 4 véhicules • Equipements du bureau 3) Formation • Formation au Japon (6 personnes x 2 fois) 4) Autres • Dépenses pour les projets pilotes • Equipements et matériels de formation</p>	<p><Côté Ivoirien> 1) Affectation du personnel • Directeur du Projet • Coordinateur du Projet • Directeurs techniques du Projet • Chefs du Projet • Homologues 2) Fourniture d'équipement et bureaux • 1 véhicule • Espace bureau approprié avec équipements et commodités nécessaires (électricité, eau, internet, climatiseur etc.) au MEMIS, aux bureaux de la Mairie d'Abobo et de Yopougon 3) Dispositions • Accès aux informations nécessaires, permission d'entreprendre des activités de projets et garantie de sécurité • Information et soutien pour obtenir des services médicaux • Ordres de mission des experts japonais 4) Assignment de budget • Assignment du budget des homologues • Frais de fonctionnement et d'entretien d'équipements fournis et d'installations mises en place dans le Projet • Prise en charge financière des animateurs du Projet</p>	<p>-Les homologues qui sont formés dans le Projet travaillent continuellement pour le développement des zones -La sécurité dans les communes cibles n'entre pas les activités du Projet -La collaboration et la compréhension pour le Projet seront obtenues par la population locale</p>

1-1. La finalisation des critères de sélection y compris la collecte des informations et des données nécessaires, par exemple, le système social de consensus pour finaliser les critères de sélection.
 1-2. La sélection des projets pilotes la revue du plan de développement communal et de l'étude d'inventaire sont inclus
 2-1. Les plans d'exécution incluant le renforcement de capacités des organisations à base communautaires, levé topographique, plans, estimation de coûts, terme de référence, élaboration de dossiers d'appel d'offres et d'orientation approvisionnement et l'exécution de l'étude socio-économique des habitants participants dans les projets pilotes. Certaines données collectées seront utilisées comme données de base
 2-2. La préparation de l'appel d'offre : l'application d'exécution des projets pilotes par les mairies et la IICA et la procédure de contrat sont inclus

TD A

B

Annexe 1. Cadre Logique du Projet (PDM)

Titre du Projet : Projet de renforcement des communes pour la promotion de la cohésion sociale du Grand Abidjan
 Bénéficiaires directs : Personnel des mairies, habitants des communes d'Abobo et de Yopougon participant aux projets pilotes
 Bénéficiaires indirects : Habitants des communes d'Abobo et de Yopougon

Durée : Juillet 2013 - Juin 2015(3 ans)
 Lieux cibles : Communes d'Abobo et de Yopougon du Grand Abidjan
 PDM : Ver.2

Daté du 10 Septembre 2015

Objectif global	Indicateurs	Moyens de vérification	Hypothèses Importantes
La cohésion sociale dans les communes affectées par le conflit est promue et renforcée	1. Le nombre des habitants des communes cibles qui se sentent en sécurité augmente 2. Le nombre des activités de collaboration et d'échanges entre les habitants et entre les communautés des communes cibles augmente 3. Le nombre des habitants qui sentent que "la mairie ouvre des informations au public et pratique un développement équitable" augmente 4. Chaque Mairie met en oeuvre au moins un projet d'amélioration de l'infrastructure de base en utilisant les méthodologies apprises par le Projet	1. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux habitants de la commune, et à la mairie 2. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux participants aux activités, aux organisations basées sur la communauté et à la mairie 3. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux habitants de la commune et à la mairie 4. Résultats d'interviews et d'enquêtes par les Mairies, documents de projet préparés par les Mairies, et rapport d'achèvement du Projet	
Objectif du Projet	Indicateurs	Moyens de vérification	
La relation entre les habitants des Communes cibles est renforcée par l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.	1. Les activités par les habitants se dynamisent dans les quartiers de projets pilotes 1-1. Le nombre de réunions organisées par pour les habitants augmente 2. Le nombre et le type des activités augmente 1-3. Le nombre des habitants qui sentent que la relation entre les habitants est améliorée augmente 2. La confiance en mairie à travers les activités de projets pilotes augmente 2-1. L'opportunité de communication directe entre les habitants et les mairies augmente 2-2. Le nombre de requêtes de projets venant des habitants à la mairie augmente	1. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux chefs de la communauté, aux organisations basées sur la communauté ; rapports d'avancement 2. Résultats d'interviews et d'enquêtes, aux chefs de la communauté, aux organisations basées sur la communauté ; rapports d'avancement, rapports du comité conjoint de suivi, rapports d'achèvement	-Evènements qui affectent la cohésion sociale en Côte d'Ivoire ne se produisent pas.
Résultats	Indicateurs	Moyens de vérification	
1. Les projets pilotes sont sélectionnés en accord avec le mécanisme confirmé pour la planification et l'exécution des projets d'aménagement d'infrastructures de base.	1-1. La planification de projets d'aménagement d'infrastructures de base et la structure d'exécution arrangées et vérifiées par chaque mairie 1-2. Les critères de sélection fixés 1-3. Le contenu et le rôle de projets pilotes sélectionnés compris par les habitants	1-1. Rapport sur la planification des projets d'aménagement d'infrastructures de base et sur la structure d'exécution ; rapports d'interviews à la mairie 1-2. Critères de sélection de projets pilotes de chaque commune 1-3. Résultats d'interviews à la mairie, aux chefs de la communauté, et aux habitants de la commune	-La situation socio-politique des communes cibles ne se détériore pas -La juridiction des communes n'est pas radicalement modifiée
2. Les projets pilotes sont exécutés et gérés convenablement suivant les lignes de plans d'exécution	2-1. Le Comité Conjoint de gestion du Projet sera constitué pour chaque projet pilote 2-2. Les habitants communaux sont employés selon l'orientation de l'approvisionnement 2-3. Le paiement des salaires des ouvriers suivant le contrat s'effectue 2-4. L'inspection des sites de projets pilotes par les homologues de la mairie s'effectue régulièrement (une fois par semaine) 2-5. Le résultat du comité conjoint de suivi rendu aux habitants	2-1. Listes des membres de Comités constitués, rapports d'avancement du Projet 2-2. Orientations d'approvisionnement de projets pilotes, contrats de projets pilotes, rapports d'avancement des travaux d'aménagement, rapports d'avancement du Projet 2-3. Contrats d'emploi des ouvriers, rapports d'avancement des travaux d'aménagement, rapports d'avancement du Projet, résultats d'interviews aux ouvriers 2-4. Rapports de suivi des sites, résultats d'interviews aux entrepreneurs 2-5. Rapports du comité conjoint de suivi, résultats d'interviews aux membres du comité conjoint de suivi et aux chefs de la communauté	
3. Les méthodologies pour la mise en œuvre des projets d'aménagement d'infrastructures de base en tenant en compte la cohésion sociale pour le personnel de bureaux communaux sont développées.	3-1. La formation en tenant compte de la cohésion sociale suivant la planification s'effectue 3-2. Tous les principaux homologues de chaque mairie comprennent les leçons compilées 3-3. La(les) proposition(s) des projets d'aménagement d'infrastructures de base reflétant les leçons tirées de projets pilotes est(sont) remis(s) aux bailleurs de fonds	3-1. Résultats d'analyse des besoins en formation et rapports d'exécution de formation 3-2. Résultats d'interviews et d'enquêtes aux homologues de la mairie 3-3. Propositions élaborées pour des projets d'aménagement d'infrastructures de base	
Activités	Appuis	Appuis	
1-1. Finaliser les critères de sélection pour les projets pilotes convenus dans le PV des discussions 1-2. Sélectionner les projets pilotes 1-3. Socialiser avec les habitants des communes afin de favoriser leur participation aux projets pilotes 2-1. Développer les plans d'exécution des projets pilotes avec une embauche de ressource humaines locales et renforcer les capacités d'organisation à base communautaire 2-2. Affecter les entrepreneurs pour des projets pilotes suivant les lignes de plans de l'exécution 2-3. Commencer les projets pilotes incluant les activités de composante soit et gérer l'état d'avancement 2-4. Effectuer le suivi conjoint des projets pilotes 3-1. Elaborer le plan de la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base 3-2. Réaliser la formation nécessaire pour planification, exécution, contrôle et facilitation d'entretien des projets d'infrastructures de base 3-3. Compiler les leçons tirées des projets pilotes et de les partager entre les bureaux communaux 3-4. Elaborer des propositions des projets d'aménagement d'infrastructures de base	< Côté Japonais > 1) Experts - Chef/Développement des communautés/ consolidation de la paix - Construction des bâtiments - HIMO/Travaux Génie civil - Assistance Marché de Travaux - Entretien d'infrastructures (voirie/drainage) - Entretien de superstructures (bâtiment) - Equipements médicaux - Estimation de coûts - Gouvernance locale - Gestion de sécurité et sûreté - Coordinateur - Autres Experts quand nécessaire 2) Fourniture d'équipements et de machines - 4 véhicules - Equipements du bureau 3) Formation - Formation au Japon (6 personnes x 2 fois) 4) Autres - Dépenses pour les projets pilotes - Equipements et matériels de formation	< Côté Ivoirien > 1) Affectation du personnel - Directeur du Projet - Coordinateur du Projet - Directeurs techniques du Projet - Chefs du Projet - Homologues 2) Fourniture d'équipement et bureaux - 1 véhicule - Espace bureau approprié avec équipements et commodités nécessaires (électricité, eau, internet, climatiseur etc.) au MEMIS, aux bureaux de la Mairie d'Abobo et de Yopougon 3) Dispositions - Accès aux informations nécessaires, permission d'entreprendre des activités de projets et garantie de sécurité - Information et soutien pour obtenir des services médicaux - Ordres de mission des experts japonais 4) Assignment de budget - Assignment du budget des homologues - Frais de fonctionnement et d'entretien d'équipements fournis et d'installations mises en place dans le Projet - Prise en charge financière des personnels affectés au Projet	-Les homologues qui sont formés dans le Projet travaillent continuellement pour le développement des zones -La sécurité dans les communes cibles n'entrevo pas les activités du Projet -La collaboration pour la Projet seront obtenues par la population locale

1-1 La finalisation des critères de sélection y compris la collecte des informations et des données nécessaires, par exemple, le système social de consensus pour finaliser les critères de sélection.
 1-2 La sélection des projets pilotes: la revue du plan de développement communautaire et de l'étude d'inventaire sont incluses
 2-1 Les plans d'exécution incluant le renforcement de capacités des organisations à base communautaire, levé topographique, plans, estimation de coûts, terme de référence, élaboration de dossiers d'appel d'offres et d'orientation approvisionnement et l'exécution de l'étude socio-économique des habitants participants dans les projets pilotes. Certaines données collectées seront utilisées comme données de base
 2-2 La préparation de l'appel d'offre, l'application d'exécution des projets pilotes par les mairies et la JICA et la procédure de contrat sont inclus

Activity	Description	Responsible Party	Timeline												Notes		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
1.0	Establish the project team and assign roles and responsibilities.	Project Manager															1.0
2.0	Develop the project charter and obtain approval from the steering committee.	Project Manager															2.0
3.0	Identify the project stakeholders and analyze their interests and influence.	Project Manager															3.0
4.0	Develop the project management plan, including the schedule, budget, and risk management plan.	Project Manager															4.0
5.0	Obtain approval for the project management plan from the steering committee.	Project Manager															5.0
6.0	Initiate the project and assign resources to the project team.	Project Manager															6.0
7.0	Monitor and control the project progress, including the schedule, budget, and quality.	Project Manager															7.0
8.0	Close the project and conduct a final review of the project performance.	Project Manager															8.0

Annexe 4 Intrants des Experts de la JICA et des Homologues

Experts JICA			2013												2014												2015												2016											
Titre	Nom	Travail en CI	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
Titre	Nom	Travail en CI																																																
Chef de Equipe / Développement des Communautés / Consolidation de la Paix	M. Masaya Sekiguchi	10.13 / 13.60 MM																																																
Chef Adjoint / Construction des Bâtiments 1	M. Mitsuo Ochi	4.63 / 4.63 MM																																																
Construction des Bâtiments 2	M. Kazuomi Okamura	1.67 / 1.67 MM																																																
HIMO 1 / Travaux de génie civil	M. Kiminori Matsumoto	5.73 / 5.73 MM																																																
HIMO 2	Dr. Tatsumi Tokunaga	2.37 / 3.13 MM																																																
Supervision d'approvisionnement 1 / Assistance aux Appel d'Offres	Mme. Asuka Toda	6.73 / 6.73 MM																																																
Supervision d'approvisionnement 2 / Gestion de la Sécurité des Travaux	M. Arata Aikawa	8.50 / 10.63 MM																																																
Entretien d'Infrastructures (Voinie / Drainage)	M. Noboru Shimizu	4.80 / 6.47 MM																																																
Entretien de Superstructures (Bâtiment) / Supervision d'approvisionnement 3	Mme. Keiko Otaguro	5.57 / 10.00 MM																																																
Equipements Médicaux	M. Tamotsu Nozaki	1.00 / 1.00 MM																																																
Estimation des Coûts du Projet (Travaux Publics) / Supervision d'approvisionnement 4	M. Makoto Matsumi	2.73 / 2.73 MM																																																
Estimation des Coûts du Projet (Bâtiment)	M. Haruhisa Ishikawa	0.83 / 0.83 MM																																																
Supervision d'approvisionnement 5	M. Hiroaki Kobayashi	1.27 / 3.00 MM																																																
Supervision d'approvisionnement 6	M. Noor Akmar	1.57 / 1.57 MM																																																
Gouvernance Locale	Mme. Junko Okamoto	1.63 / 1.63 MM																																																
Enquête Sociale / Gestion Scolaire et Accroissement de l'Activité Civile	Mme. Ayumi Urata (Iguchi)	4.30 / 6.73 MM																																																
Gestion Scolaire et Accroissement de l'Activité Civile 2	Mme. Ayumi Koyama	1.00 / 1.00 MM																																																
Gestion Scolaire et Accroissement de l'Activité Civile 3	Mme. Yuko Suwa	2.43 / 2.43 MM																																																
Considérations Environnementales et Sociales	Dr. Jaymohan Somasundaram	1.00 / 1.00 MM																																																
Gestion des formations et suivi de projets pilotes	M. Keisuke Hattori	6.07 / 8.33 MM																																																
Coordonnatrice de Projet/ Assistance au Développement Communautaire 1	Mme. Asuka Toda	1.8 / 1.8 MM																																																
Coordonnatrice de Projet/ Assistance au Développement Communautaire 2	Mme. Mayu Imafuku	1.7 / 1.7 MM																																																
Coordonnateur de Projet/ Assistance au Développement Communautaire 3	M. Masamichi Sunada	1.5 / 1.5 MM																																																
Coordonnateur de Projet/ Assistance au Développement Communautaire 4	M. Keisuke Hattori	5.87 / 6.27 MM																																																

Supporté par les entreprises

Personnel Homologue			2013												2014												2015												2016											
Titre	Nom	Période	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
Titre	Nom	Période																																																
Directeur de projet (Directeur Général du DGDDL)	M. Parfait Gohourou	2013/8 -																																																
Coordonnateur de projet (Point focal de la JICA, DGDDL)	M. Gbala Gnato Raphael	2013/8 -																																																
Homologue (DGDDL)	M. Nermil Abel José	2013/8 -																																																
Homologue (DGDDL)	Mme. N'guessan Niche Didié	2013/8 -																																																
Homologue (DGDDL)	Mr. Koffi Ehoussou François	2015/2 -																																																
Gestionnaire de Projet (Maire-adjoint, Commune d'Abobo)	M. Koné Siaka	2013/8 -																																																
Chef de projet (Directeur des Services Techniques, Commune d'Abobo)	M. Coulibaly Vally	2013/8 -																																																
Homologue (DT, Commune d'Abobo)	M. Djankro Kouassi Amidou	2013/9 - 2013/12																																																
Homologue (DT, Commune d'Abobo)	M. Koné Moussa	2013/9 -																																																
Chef de projet (Directeur D'ASCPH, Commune d'Abobo)	Mme. Barro Mahoussa	2013/8 -																																																
Homologue (D'ASCPH, Commune d'Abobo)	M. Mélétié Loès	2013/9 -																																																
Homologue (D'ASCPH, Commune d'Abobo)	M. Kambou Kouadio Rémi	2013/9 -																																																
Homologue (D'ASCPH, Commune d'Abobo)	Mme. Djanhoré Lou Chantal	2013/9 - 2014/7																																																
Homologue (SG, Commune d'Abobo)	M. Ouattara Blidia Alain	2013/9 -																																																
Homologue (Projet, Commune d'Abobo)	M. Wagué Adama	2013/8 -																																																
Homologue (Communication, Commune d'Abobo)	M. Doumia Adama	2013/9 -																																																
Gestionnaire de Projet (Maire-adjoint, Commune de Yopougon)	M. Coulibaly Issifou	2013/8 -																																																
Chef de projet (Directeur des Services Techniques, Commune de Yopougon)	M. Adama Yéo	2013/8 -																																																
Homologue (Sous-Directeur des Services Techniques, Commune de Yopougon)	M. Ouattara Séydou	2013/9 -																																																
Homologue (DT, Commune de Yopougon)	M. Barnes Lantini	2013/9 -																																																
Chef de projet (Directeur DDH, Commune de Yopougon)	M. Coulibaly Bengaly	2013/8 -																																																
Homologue (Sous-Directeur de DDH, Commune de Yopougon)	M. Coulibaly Mamadou Déboto	2013/9 -																																																
Homologue (DDH, Commune de Yopougon)	Mme. Diomandé Nabala Ester	2013/9 -																																																
Homologue (DDH, Commune de Yopougon)	M. Kablan Sali	2013/9 -																																																
Homologue (SG, Commune de Yopougon)	M. Oulaye Firmin	2013/9 -																																																
Homologue (Communication, Commune de Yopougon)	M. Doulaye Koné	2013/9 -																																																

10

Annex 5 Liste d'Equipement

Article	Spécifications	Devise	Prix Achat	Région	Département Utilisateur de l'équipement	But de l'utilisation	Emplacement de l'équipement	Date d'achat
Camera Digital avec GPS (le premier)	STYLUS TG830, OLYMPUS	JPY	25,700	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	26/7/2013
Camera Digital avec GPS (le deuxième)	STYLUS TG830, OLYMPUS	JPY	25,700	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	26/7/2013
Camera Digital avec GPS (le troisième)	STYLUS TG830, OLYMPUS	JPY	25,700	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	26/7/2013
Ordinateur Bureau (le premier)	DELL VOSTRO V260MT	XOF	475,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	4/9/2013
Logiciel MS (le premier)	LOGICIEL LICENCE MICROSOFT OFFICE PRO 2013	XOF	250,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	5/9/2013
Anti-Virus (le premier)	ANTI VIRUS KASPERSKY INTERNET SECURITY 3 POSTES 2013	XOF	30,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	5/9/2013
Photocopieuse	CANON Image Runner 2420 20PPM	XOF	1,900,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	28/8/2013
Imprimante	HP Color Laserjet CP5225 DN A3/A4	XOF	1,245,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	33/8/2013
Video Projecteur (le premier)	EPSON EB-S11 2600 LUMENS	XOF	350,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	10/8/2013
Tableau de conférence (le premier)	Barracuda 70x100 A	XOF	88,600	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	18/8/2013
Tableau de conférence (le deuxième)	Barracuda 70x100 A	XOF	80,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	11/11/2013
Tableau de conférence (le troisième)	Barracuda 70x100 A	XOF	80,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	11/11/2013
Megaphone (le premier)	Titanic, HMP2502	XOF	30,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	12/11/2013
Megaphone (le deuxième)	Titanic, HMP2502	XOF	30,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	18/11/2013
Amplificateur (le premier)	PIASING Professionnel	XOF	184,925	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	20/11/2013
Pette étagère	Blanc, 3 compartiments	XOF	14,100	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	17/04/2014
Grande étagère	Marron/noir, 5 compartiments	XOF	128,820	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	26/05/2014
Casques de chantier	10 Casques Blancs Prix unitaire : CFA 8,000	XOF	168,200	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	25/08/2014
Jugulaires pour Casques	10 Jugulaires Prix unitaire : CFA 1,000	XOF	11,800	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	25/08/2014
Anti-Virus (le deuxième)	ANTI VIRUS KASPERSKY INTERNET SECURITY 3 POSTES 2014	XOF	25,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	03/09/2014
Ordinateur Portable	HP PROBOOK 4540s	XOF	425,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	04/09/2015
Ordinateur Portable	HP PROBOOK 4540s	XOF	425,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	18/09/2014
Ordinateur Portable	HP PROBOOK 4540s	XOF	425,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	13/10/2014
Anti-Virus (le troisième)	ANTI VIRUS KASPERSKY INTERNET SECURITY 3 POSTES 2015	XOF	25,000	Afrique	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	06/12/2014
Adobe Illustrator	CSE Window Anglais	JPY	75,000	Asie	Département d'Infrastructure Economique	Pour projet	Site de projet	13/02/2015

YD

B

Annexe 6 Registre de formation

Titre	Contenu	Cibles	DDDD	Abobo	Yopougon	ORC	Autres	Total	Chronogramme	Quand	Durée	Lieu	Formateurs
Atelier de coup d'envoi	Partager l'objectif et les attentes du Projet, discuter du CLP, de la structure de gestion du Projet et les critères de sélection pour les projets pilotes	Membres du CCC	5	3	3			9	Avant le début du Projet	13, 14, 22 Août 2013	2,5 jours	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Ayumi Urita, Asuka Tada)
Considérations environnementales et sociales	Acquiescer les connaissances et les compétences nécessaires pour la sélection des projets pilotes concernant les questions de l'impact environnemental et social	Membres du GT	3	10	8			21	Avant la sélection des projets pilotes	22 Novembre 2013 3 Décembre 2013	deux-journées	Bureau de COSAY Yopougon	JET (Masaya Sekiguchi, Ayumi Urita)
Sélection des projets pilotes	Acquiescer les connaissances et les compétences nécessaires pour la sélection des projets pilotes. Préparer les listes finales des projets pilotes par la mise en pratique des connaissances et des compétences acquises	Membres du GT	3	9	7			19	Avant la sélection des projets pilotes	22 Novembre 2013	deux-journées	Bureau de COSAY Yopougon	JET (Masaya Sekiguchi, Ayumi Urita)
KAIZEN - Amélioration continue de la qualité	Acquiescer les connaissances et les compétences nécessaires au sujet de gestion japonaise KAIZEN y compris le système de 5S et de Hoshin Kanri	Membres du GT	3	9	7			19	Au stade précoce du projet	3, 4 Décembre 2013	deux-journées	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Ayumi Urita)
Planification de Projet Pilote en Tenant compte de la cohésion sociale	Apprendre la compréhension des activités de composant soit. Finaliser les plans des projets pilotes	Membres du GT	4	9	9			22	Au stade avancé du projet	3,4 Mars 2014	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Dossou)
Méthode de planification Participative	Apprendre et comprendre sur les compétences en matière de planification participative en impliquant les résidents	Membres du GT et DCGPP	5	7	7	3		28	Au stade avancé du projet	11, Mars 2014	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Y. Urita)
Formation sur la Gestion du Cycle de Projet	Connaître et comprendre la théorie, l'approche et la méthodologie de cycle logique du projet (CLP), moyens de développer CLP, et la conception d'une étude de référence	Membres du GT et leur personnel	4	7	4			15	Au stade avancé du projet	17,18,19 Mars 2014	3 jours	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Y. Urita, Dossou, Dossou)
Generation d'Emplois: Expérience du site de l'Est du Grand Est du Japon	1) Pour connaître et comprendre les approches et les méthodologies de création d'emplois après le tremblement de terre et le tsunami de 2011 au Grand Est du Japon. 2) Identifier les approches et méthodologies utiles applicables à la ville d'Abobo (Abobo et Yopougon) sur la base des sites au Japonais.	Membres du GT et leur personnel	4	7	7			18	Au stade avancé du projet	08 Juillet 2014	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Keisuke Hatori, MEMIS, Abobo, Yopougon)
Passation de Marche Publiques	Comprendre et acquiescer les compétences en matière de passation de marches pour la mise en œuvre de projet	Membres du GT	3	4	6			13	En Phase d'exécution du projet	15,17 Juillet 2014	2 jours	NEMIS/DDDDL	JET (Didier Akaboum Toure, Mamadou Diop, DMP, Pierre Koua, B. S. S.)
Resultats de l'enquête de l'état des lieux le suivi et évaluation de projet	Confirmer les résultats de l'enquête de l'état des lieux et faire des observations sur le rapport final préliminaire. Comprendre la théorie de base de l'évaluation de projet. Comprendre l'utilisation des formulaires de suivi des projets pilotes	Membres du GT	2	2	4	1		9	En Phase d'exécution du projet	9 Août 2014	deux-journées	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Coumbouk El-Hamdi NGCoba)
Contrôle de Qualité	Pour connaître et comprendre les compétences de contrôle de la qualité pour la mise en œuvre de projet	Membres du GT	2	3	3			8	En Phase d'exécution du projet	19 Août 2014	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Akoua Arata, Akoua Didier, Gondo France)
Gestion de la Sécurité	Apprendre et comprendre au sujet du contrôle de qualité en vue de la mise en œuvre de projet	Membres du GT	3	1	1			5	En Phase d'exécution du projet	25 Août 2014	deux-journées	NEMIS/DDDDL	JET (Akoua Arata, Akoua Didier, Gondo France, Toure Mamadou)
Formation des formateurs pour l'entretien des bâtiments scolaires	Pour apprendre et de comprendre au sujet des compétences de l'entretien des installations de bâtiments scolaires. Pour comprendre la nécessité d'un plan d'action pour l'entretien et à apprendre comment faire un plan d'action	Membres du GT, leur personnel et DCGPP	2	2	1	28		33	En Phase d'exécution du projet	1,3 Octobre 2014	1 jour	Avenue Kouté 3et 4 et SOGEFHA B	JET (Akoua Arata, Akoua Didier, Gondo France)
Cohésion Sociale et Développement communautaire	Pour avoir des connaissances de base sur la cohésion sociale, l'importance de la communication et de la citoyenneté.	Membres du GT, leur personnel et DCGPP	4	8	8	85		103	En Phase d'exécution du projet	11,19 Octobre 2014 8,12,13 Novembre 2014	5 jours (1 jour 1 site)	Bureau de COSAY Yopougon, Foyer des jeunes d'Anonkou Houé, A. Al. Centre de formation	Search for Common Ground (Travailleur Aliou)
Gestion de la Construction et l'Évaluation des travaux	Comprendre les activités professionnelles de gestion et de surveillance de construction, y compris les travaux d'inspection périodique	Membres du GT, leur personnel et DCGPP	2	5	6	17		30	En Phase d'exécution du projet	30,31 Octobre 2014	2 jours	Bureau de COSAY Akobo et Yopougon	JET (Akoua Arata, Akoua Didier)
Évaluation de Projet	Apprendre et comprendre la théorie, l'approche et la méthodologie d'évaluation de projets	Membres du GT, leur personnel et DCGPP	4	8	10	15		37	En Phase d'exécution du projet	5,8,7 Novembre 2014	2,5 jours	NEMIS/DDDDL, Avenue Kouté 3 et 4 et SOGEFHA B	JET (Masaya Sekiguchi, Urita Ayumi, Dossou Akaboum)
Participation du Public	Pour connaître et comprendre la théorie, l'approche et la méthodologie de la participation du public dans les projets de développement des infrastructures	Membres du GT, leur personnel	3	5	7			15	En Phase d'exécution du projet	18 Décembre 2014	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Natori Kenji, Dossou Akaboum, Gondo France)
Diagnostic de routes	Apprendre méthodologie complète des travaux d'entretien routier et la méthode d'application de l'entretien routier	Membres du GT, leur personnel	2	5	2	3		12	En Phase d'exécution du projet	27,29 Janvier 2015	2 jours	NEMIS/DDDDL, Abobo et Yopougon	JET (Hiroki Kobayashi, Gondo France)
Relations Publiques	Apprendre et comprendre la théorie, la stratégie et la méthode d'approche des relations publiques	Membres du GT, leur personnel	3	7	8	1		19	En Phase d'exécution du projet	24, Février 2015	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi)
Diagnostic des bâtiments scolaires	Pour comprendre et avoir une notion en matière d'inventaire des bâtiments scolaires et les outils indispensables comme le carnet scolaire et la démarche Rhabilitation. Comprendre également l'importance d'avoir des données techniques mais aussi des données techniques et architecturales sur la qualité des bâtiments scolaires et la mise à jour des données de manière à ce que les bailleurs ou même l'état soit éclairé dans les choix à faire	Membres du GT, leur personnel	2	6	7	1		16	En Phase d'exécution du projet	12, Mars 2015	1 jour	NEMIS/DDDDL, Abobo et Yopougon	JET (Akoua Arata, Akoua Didier)
Formation de formateurs pour la maintenance des routes	Apprendre et comprendre comment détecter les dégradations de routes et fournir les justificatifs adéquats	Membres du GT, leur personnel	1	2	8	3		14	En Phase d'exécution du projet	27, Mai 2015	1 jour	Bureau de COSAY Yopougon	JET (Akoua Arata)
Préparation de plan de développement des infrastructures et préparation du programme triennal	Apprendre et comprendre la planification appropriée pour un Programme Triennal	Membres du GT, leur personnel	3	4	5	2		14	En Phase d'exécution du projet	18, Juin 2015	1 jour	NEMIS/DDDDL	JET (Masaya Sekiguchi, Akoua Arata, Dossou Akaboum)
Maintenance de bâtiments scolaires	Apprendre et comprendre sur la maintenance de bâtiments scolaires. Clarifier le rôle de chaque acteur pour la budgétisation et la maintenance	Membres du GT, leur personnel	1	4	6	43		54	En Phase d'exécution du projet	23 Juin 2015 8 Juillet 2015 18 Juillet 2015 28 Juillet 2015	1 jour/1 Site	Avenue Kouté 3et 4, SOGEFHA B, GG Palmiste et Page 1 et 2	JET (Akoua Arata, Akoua Didier, Horowitz (Coop. Koussa, Oustine Seydou)
Sub-total			66	127	132	208	0	533					
Sous-Total													
Japon													
Promotion de la cohésion Sociale I	Pour apprendre les rôles du gouvernement et la coopération avec la société civile concernant le développement des infrastructures de base tendant à la cohésion sociale	Homologues	2	2	2			6	Avant l'Évaluation de Projet Pilote	26 Mai - 6 Juin 2014	2 semaines	Hiroshima, Miyagi, Tokyo, Kanagawa	Plaqueurs formateurs de COSAV, université de Kanagawa, université de Miyagi, université de Hiroshima
Promotion de la cohésion Sociale II	Pour apprendre les rôles du gouvernement et la coopération avec la société civile concernant le développement des infrastructures de base tendant à la cohésion sociale	Homologues	1	3	3			7	Lors de l'Évaluation de Projet Pilote	26 Juin - 10 Juillet 2015	2 semaines	Tokyo, Kanagawa, Hiroshima	Plaqueurs formateurs de COSAV, université de Kanagawa, université de Miyagi, université de Hiroshima
Sub-total			3	5	5	0	0	13					
Sous-Total													
Total													

添付 3-35

70 2

Annexe 7 Dépenses locales

Entrant financier par la partie japonaise

	JPFY 2013		JPFY 2014				JPFY 2015		Montant cumulé
	3rd Q	4th Q	1st Q	2nd Q	3rd Q	4th Q	1st Q	2nd Q	
Coût opérationnel (*1)	29,869,642	19,517,625	123,675,275	32,998,815	27,642,250	26,559,500	26,133,500	33,395,625	319,792,232
Équipement (procuré par projet)	5,138,925	0	142,920	993,000	450,000	375,000	0	0	7,099,845
Équipement (procuré par la JICA Côte d'Ivoire)	92,530,000	0	0	0	0	0	0	0	92,530,000
Projet pilote	0	0	0	0	48,828,354	14,619,676	200,247,211	587,857,934	851,553,175
Sous-total (trimestriel)	127,538,567	19,517,625	123,818,195	33,991,815	76,920,604	41,554,176	226,380,711	621,253,559	1,270,975,252
Total (annuel)	147,056,192		276,284,790				847,634,270		1,270,975,252
Total (annuel, le yen japonais) JPY1=XOF0.207/Taux de la JICA août 2015	30,440,632		57,190,952				175,460,294		263,091,877
Équipement (procuré par la JICA Côte d'Ivoire)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sous-total (trimestriel)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Total (annuel)	0		0				0		0

*1: Coût opérationnel inclut les dépenses pour la formation, l'atelier, la visite d'étude, et le coût de fonctionnement du bureau de projet tels que les salaires du personnel local, le carburant l'entretien du véhicule du projet, et les frais de communication.

Annex 8 Liste de JCC

<Côté Ivoirien>

M. Parfait Gohourou	Directeur General / DGDDL	MEMIS
M. Yapi Fidèl	Directeur des Etudes, de la programmation, du suivi et évaluation	MEMIS
M. Gbala Gnato Raphaël	Coordonnateur projets JICA-DGDDL	MEMIS
M. Nemlin Abel José	Coordonnateur Adjoint projets JICA-DGDDL	MEMIS
Mme N'guessan Nichet Didièe	Assistante au Coordonnateur projets JICA-DGDDL	MEMIS
M. Koffi Ehoussou François	Direction Générale de la Décentralisation et du Développement Local	MEMIS
M. Dimba N'Gou Pierre	Coordonnateur du PRI-CI/PUJUR	Ministère des Infrastructures Economiques
M. Touré Kaffouba	Directeur des Affaires Financières	Ministère de l'Education Nationale et de l'Enseignement Technique
M. Kassi N'Gouan	Sous-Directeur des Etudes, de la Normalisation et de la Programmation des Investissements (Direction des infrastructures, de l'équipement et de la maintenance)	Ministère de la Santé et de la Lutte contre leSIDA
Pr. Kouadio Kouamé Georges	Directeur General de l'environnement	Ministère de l'Environnement, de la Salubrité et du Développement Durable
M. Adama Sall	Conseiller Spécial	Ministère auprès du Premier Ministre chargé de l'Economie et des Finances
M. Doh Dibahi Marcellin	Directeur Général de la Solidarité et de la Cohésion Sociale	Ministère de la Solidarité, de la Famille, de la Femme et de l'Enfant
M. Koné Siaka	Adjoint au Maire de la Commune d'Abobo	Commune d'Abobo
M. Coulibaly Vally	Directeur Technique de la Commune d'Abobo	Commune d'Abobo
Mme Barro Mahoussa	Directrice du Développement Humain d'Abobo	Commune d'Abobo
M. Doumbia Adama	Chargé de Communication de la Commune d'Abobo	Commune d'Abobo
M. Coulibaly Issifou	1er Adjoint au Maire de Yopougon	Commune de Yopougon
M. Yeo Adama	Directeur Technique de la Commune de Yopougon	Commune de Yopougon
M. Ouattara Seydou	Sous-Directeur Direction technique de la Commune de Yopougon	Commune de Yopougon
M. Coulibaly Bengaly	Directeur du Développement Humain de la Commune de Yopougon	Commune de Yopougon
M. Coulibaly Doulaye	Chargé de la Communication de la Commune de Yopougon	Commune de Yopougon

<Côté Japonais>
 Experts de la JICA
 JICA Côté d'Ivoire

FD Δ

Annexe 9 Intrants: CCGPP Youpougon

GS SOGEFIHA6	IDENTIFIANT	NOM & PRENOM
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie de Yopoug	Adama Yeo Coulibaly Bengaly Koné Doulaye
MEMBRES	COGES	Dago Yoro Alred Kouame Kan Dieudonné
	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Sidibé Awa epse Diane Guïro Marina Edwige
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Taho Keaonni Olivier N'djih Brou koffi Célestin
	CHEF DE QUARTIER OU COMIT2 DE GESTION DE PROXIMITE	Gnahoua Hypolithe Landry Legre Godet Louis
OBSERVATEURS	ONG	Diabate Ibrahim(Air sans frontière) Obouhonon Juliette(FIDICI)
	Communauté Ethnique	Attouemean Kouamé Jean Assie epse Badolo
	Communauté Religieuse	Ouattara Lagazan Pasteur Batoua Serge
GS Palmeraie	IDENTIFIANT	NOM & PRENOM
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie de Youpougon	Adama Yeo Coulibaly Bengaly Koné Doulaye
MEMBRES	COGES	Soumahoro Minignan Kone Dramane Baguy Lydie
	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Bohoussou Amenan Juliette Traore nee Touré Maminata
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Zahouli Bi Tra Raphael Diarra Ali
	CHEFFERIE DE COMMUNAUTE	Kouakou Kouakou Jacquelin Kone Inza
	CHEF DE QUARTIER OU COMITE DE GESTION DE PROXIMITE	Sylla Adama Dosso Souleymane
OBSERVATEURS	ONG	Konate Adama Beblo Kouamé
	Communauté Religieuse	Koné Daouda Zoundi Ouapoko Marie Delest Jean Christian

Annexe 9 Intrants: CCGPP Youpougon

Barco2	IDENTIFIANT	QUALIFICATION
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie de Yopougon	Adama Yeo Coulibaly Bengaly Koné Doulaye
MEMBRES	COGES	Gbagblo N'Goran Ferdiand Dayere Kodélazare
	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Aye Chia Sonia Rosette Kramoko Namama
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	N'Takpe Boka Hyppolite Manbo N'cho François
	CHEFFERIE VILLAGE	Attah Sika Raymond Achy Yapi Joseph
	CHEF DE QUARTIER OU COMITE DE GESTION DE PROXIMITE	Guei Oulaï Bernard Seka Yaté Philippe Gbanhan Eugène
OBSERVATEURS	ONG	Goh Casimir Gondo Denis
	Communauté Religieuse	Kouassi Konan Daniel Fode Sangare
	Communauté Ethnique	Takalea Benjamin Kouame Yao Lucien
Andokoi	IDENTIFIANT	QUALIFICATION
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie de Yopougon	Adama Yeo Coulibaly Bengaly Koné Doulaye
MEMBRES	COGES	Sanogo Yaya Desse Fabrice
	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Bou Irène Assiata Kone
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Ayekoue Augustin Valy Keita dit Binaté
	CHEFFERIE VILLAGE	Andoh Serga Kpangbo N'cho constant
	CHEF DE QUARTIER OU COMITE DE GESTION DE PROXIMITE	Kemin Atse Degbeu Aké Jaurès Soumahoro Doulaye
OBSERVATEURS	ONG	Diomande Ahmed Bile Honoré
	Communauté Religieuse	Diane Youssoufou Evariste Seha
	Communauté Ethnique	Loba Marcelin

Annexe 9 Intrants: CCGPP Abobo

Lycée Municipal	IDENTIFIANT	QUALIFICATION	NOM & PRENOM
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie d'Abobo	DT DSSCPH DCOM	Coulibaly Valy Barro Mahoussa Doumbia Adama
MEMBRE	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Vice Président Secrétaire Affaires extérieurs Secrétaire Générale Adjoint Coordinateur Secrétaire Générale Adjoint	Fofana Yacouba Kola N'dri Koffi Yao Modeste Ouattara Souleimane Konan Yobouet
	CHEF DE COMMUNAUTES	Chef des Koyaka Chef des bétés	Koné Abdoulaye Zadi Nadje Daniel
OBSERVATEURS	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Présidente des femmes Conseillère de l'association de	Ouattara née N'goran Martine N'Guessan Thérèse Yao epse Zadi Madeleine
	Organisation religieuses	Pasteur Imam	Koutouan Tchimon Cyriaque Dagnoko Ibrahim
	ONG locales	Président ASPROTENE Vice président Chargé de la salubrité	Tamini Gaoussou Ouattara Ibrahim Gokui Aleba
	Chambre des métiers	Couturier Technicien Batiment peintre	Tondossama Bafétigue Diarra Ibrahim
Plaque & Jock	IDENTIFIANT	QUALIFICATION	NOM & PRENOM
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie d'Abobo	DT DSSCPH DCOM	Coulibaly Valy Barro Mahoussa Doumbia Adama
MEMBRE	ASSOCIATIONS DES JEUNES		Norbert Dogou Guizot Bagré Basile Erick Koné Siaka Koné Bobby
	CHEF DE COMMUNAUTE	Chef Malinké	Barro Aboubacary Sadia Victor
OBSERVATEURS	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Présidente Loniya Association Bon voisinage Directrice de l'IFEF	Bakassa Aida Kouassi Lamtou Kra Véronique Epse Gouda
	Organisation religieuses	Pasteur Pasteur Imam	Djah Nicaise Kamagaté Lamine Bamba Abdoul Karim
	ONG locales	ONG AIECA ONG Femme battante	Kouadio Yao Alphonse Madame Yoboueo
	Chambre des métiers	Technicien Bitumage Maçon	Yéo Drissa N'banze Gueu Henri Michel

Annexe 9 Intrants: CCGPP Abobo

GS Anonkoua Kouté 3&4	IDENTIFIANT	QUALIFICATION	NOM & PRENOM	
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie d'Abobo	DT DSSCPH DCOM	Coulibaly Valy Barro Mahoussa Doumbia Adama	
MEMBRES	COGES	President Secrétaire Général Trésorier Général Directeur	Nandjui Assoumoi Sekoi Djoro Emmanuel Lopoua Bi Iridie Alfred Ouattara Ibrahim	
	ECOLE CIBLE	Directrice	Koffi Agnès	
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Responsable Vice	Koné Yao Benson Yaba Alexis	
	CHEF DE COMMUNAUTE	Chef du village Notable Représentant groupe des Manlinkés	Akéo Antoine Akéo Germain Barro Valy	
OBSERVATE URS	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Responsable	Osom Nathalie Yao Tamba Sylva Tignon Raymonde Kouakou Aya Anne	
	Organisation religieuses	Pasteur Méthodiste Pasteur Catholique Imam Imam	Koutouan Martin Dogoua Jean Baptiste Traore Dramane Koné Ibrahim	
	ONG locales	ONG Bayewa	Akré Jeremie Loba Martin	
	Chambre des métiers	Maçon Electricien	Koutouan Napoléon N'tokré Badjo Didace Kamagaté Boukadi Tanon Koutouan Nazaire	
EPP Plaque 1&2	IDENTIFIANT	QUALIFICATION	NOM & PRENOM	
PRESIDENT	Bureau de la commune :Mairie d'Abobo	DT DSSCPH DCOM	Coulibaly Valy Barro Mahoussa Doumbia Adama	
MEMBRES	COGES	President Secrétaire Général Trésorier Général	Bamba Souleymane Coulibaly Philippe Kouassi Abel	
	ECOLE CIBLE	Directeur Directrice	Traoré Mamadou Akpeni Joseph	
	ASSOCIATIONS DES JEUNES	Président Chargé des affaires sociales Chargé de la communication Vice président Chargé à l'organisation	Koné Moussa Bobby Tah Rodrigue Fofana Sindou Koné Kader Ouattara Moustapha	
	CHEF DE COMMUNAUTE	Chef des Malinkés		Touré Lacinia Kokoni Sylva
		Chef des bétés		
OBSERVATE URS	ASSOCIATIONS DES FEMMES	Présidente des femmes Guéré Association des femmes BINKAD	Madame Davilla Ouattara Matoulé	
	Organisation religieuses	Pasteur Pasteur Pasteur Imam Imam	Gbeu Maxime Claver Zagogno Wilfried Yonan Andrée Issiaka Soumahoro Sylla Sidiki	
	ONG locales	ONG Sabary	Bamba Amy	
	Chambre des métiers	Technicien Batiment et terras Technicien Batiment peintre	Kaloié Mahamadi Kouassi Claude	

Grille d'Evaluation : Evaluation Finale du Projet,
Projet de Renforcement des Communautés pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan (COSAY)

(Sur la base de PDM Ver.1)

Critères	Questions	Données/information Requises	Données/Source d'Information	Données/Méthode de Collecte d'Information
1. Pertinence: Le projet est-il nécessaire?				
Directives d'Evaluation de la JICA pour projets dans un contexte post-conflit				
Pertinence de l'Approche	L'approche projet, à savoir projet pilote d'infrastructure à base communautaire est-il approprié pour la promotion de la cohésion sociale? Were sectors of the PPs, rehabilitation of roads and schools, relevant for promoting social cohesion?	Politiques sur la cohésion sociale/restauration de la confiance envers l'administration (l'emploi jeunes), Perception des acteurs	Documents de Politiques, MEMIS	Revue documentaire, Interview
Calendrier	Est-ce que le moment de démarrage du projet est opportun pour la promotion de la cohésion sociale conformément au processus de reconstruction en Côte d'Ivoire?	Politiques sur la cohésion sociale/restauration de la confiance envers administration (emploi jeunes), et état de mise en œuvre	Documents de Politiques, MEMIS, JICA PNA	Revue documentaire, Interview
Sélection de zone cible/groupe du Projet	La sélection de la cible du projet est-elle pertinente pour la promotion de la cohésion sociale dans le Grand Abidjan? Est-t-il approprié que des groupes, principalement le personnel des services communaux ainsi que les résidents, soient pris comme cibles du projet en terme de cohésion sociale?	Conflit ethnique/groupe tribal, religion, génération Causes et contre-mesures	Documents de Politiques, MEMIS, JICA PNA, JE, CP, CCGPP	Revus documentaire, Interview
Projet GL d'Evaluation de la JICA				
Besoins	Le Projet est-t-il conforme aux besoins du groupe cible?	Défis/difficultés liés à la cohésion sociale	Rapports sur la requête du projet MEMIS, CP, JE	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
	Le projet est-il conforme aux besoins du groupe cible?	Besoins du groupe cible	Rapports sur la requête du projet, MEMIS, CP, JE	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
Priorité	Le projet répond-t-il à l'élaboration de politique en Côte d'Ivoire au dernier trimestre?	Rôle du Projet dans les politiques en CI	Rapports sur la requête du projet, MEMIS, CP, JE	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
	Le projet répond-t-il à la politique d'aide du gouvernement Japonais?	Rôle du projet dans la perception qu'ont les acteurs de la politique d'assistance dans le pays	Rôle du PJ dans la politique d'aide du pays et le plan d'aide de la JICA	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
Approche/stratégie	L'approche projet convient-elle à la promotion de la cohésion sociale?	Perception des parties prenantes	Requête Projet, rapports y afférents, MEMIS	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
	La sélection du groupe cible est-elle appropriée? (ethnique/groupe tribal, degré, ratio femme-	cf. "Sélection de groupe cible"	cf. "Sélection du groupe cible"	cf. "Sélection de groupe cible"
	Le projet-il avoir des répercussions autres que sur le groupe cible?	Situation de domaines similaires	NSCP/documents de poliques, MEMIS, documents sur les administrations locales en	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
	Le projet a-t-il un effet synergétique en impliquant d'autres bailleurs, ou assistances Japonaises?	Etat de mise en œuvre et effet de la coopération, Perception des acteurs	Projets ds bailleurs et de la JICA	Revue documentaire, Questionnaire/intervie
	Le Japon a-t-il des avantages comparatifs dans ce domaine technique? L'expérience japonaise est-elle	Expérience japonaise en matière de cohésion sociale ou restauration de la confiance envers	rapports de projets connexes japonaise, JE, autres parties prenantes	Revue documentaire, Questionnaire/intervie

添付 3-42

EP E

(Sur la base de PDM Ver.1)

Critères	Questions	Données/Information Requises	Données/Source d'Information	Données/Adresse de Collecte d'Information
Autres problèmes	Y a-t-il des changements dans l'environnement du projet (Politique, économique, sociétal), des pré-alables et hypothèses majeures ?	cf. "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Processus de mise en oeuvre", autres acteurs	cf. "Processus de mise en oeuvre", interview
2. Efficacité: L'efficacité du projet a-t-elle satisfait aux besoins d la zone/Groupe cible?				
Prévision sur la réalisation des objectifs du projet	Est-il possible que l'objectif du projet soit réalisé eu égard à la performance des résultats?	cf. "Réalisation du Projet", Perception des acteurs	cf. "Réalisation du Projet", CP,JE, autres acteurs	cf. "Réalisations du Projet", interview
	Y a-t-il une synergie de coopération entre le projet JICA et celui d'un autre bailleur?	cf. "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Processus de mise en oeuvre", CP, J, autres acteurs	cf. "Processus de mise en oeuvre", interview
Causalité	Les contributions sont-elles suffisantes pour produire des résultats?	cf. "Résultats du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Réalisations du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", CP, JE, autres acteurs	cf. "Réalisations du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", interview
	Les critères de sélection du Projet Pilote et les résultats contribuent-ils à la cohésion sociale? Ont-ils été conçus pour ne pas dégrader davantage les rapports entre les pro-Gbagbo et les pro-Ouattara?	cf. "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Processus de Mise en Oeuvre", CP, JE, autres parties prenantes	cf. "Processus de Mise en Oeuvre", interview
	Les hypothèses émanant des résultats d'activités sont-elles également vérifiées au jour d'aujourd'hui? Y a-t-il une influence provenant d'hypothèses importantes?	cf. "Réalisations du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", Perception des parties prenantes	cf. "Réalisation du Projet" & "Processus de Mise en Oeuvre", CP, JE, autres parties prenantes	cf. "Réalisations du Projet" & "Processus de Mise en Oeuvre", interview
	Y a-t-il des facteurs/situations qui annihilent la réalisation de Ops?	cf. "Processus de mise en oeuvre", Perception des parties prenantes	cf. "Processus de mise en oeuvre", CP,JE,	cf. "Processus de Mise en Oeuvre", interview
3. Efficience: Le Projet a-t-il été mis en oeuvre efficacement?				
Réalisation des Ops	Le niveau de réalisation de l'Op est-il raisonnable?	cf. "Réalisations du Projet",	cf. "Réalisations du Projet",	cf. "Réalisations du Projet", interview
	Y a-t-il des facteurs/situations qui annihilent la réalisation des Ops?	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Autres changements	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", CP,JE,	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", interview
Causalité	Les contributions Japonaises et alvoiriennes sont-elles suffisantes à produire des résultats?	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", JE,CP	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", interview
	Les activités du projet sont-elles suffisantes à produire des résultats?	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", JE,CP	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", interview

(Sur la base de PDM Ver.1)

Critères	Questions	Données/information Requises	Données/Source d'Information	Méthodes de Collecte d'Information
	Les hypothèses importantes émanant des résultats d'activités également vérifiées au jour d'aujourd'hui? Y a-t-il une influence provenant	cf."Pertinence", Perception des acteurs	cf."Pertinence", CP, JE, autres acteurs	cf."Pertinence", interview
Calendrier	Les contributions nécessaires sont-elles apportées en temps opportun dans la conduite des activités comme	cf."Réalisations du Projet", Perception des acteurs	cf."Réalisations du Projet", JE, CP	cf."Réalisations du Projet", interview
Directives d'Evaluation de la JICA pour projets dans un contexte post-conflit				
Autres difficultés	L'Efficacité est-elle affecté en donnant la priorité à la cohésion sociale?	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf."Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", JE, C/P	cf."Réalisations du Projet", interview
4. IMPACT: Y a-t-il des effets (positifs) dans la mise en oeuvre du projet, y compris les répercussions à long terme?				
Prévision de réalisation pour l'objectif global	L'objectif global sera-t-il atteint sur la base des contributions, résultats et avancées? (L'atteinte de l'objectif global est-il vérifiable par une évaluation ex-post?)	cf."Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf."Réalisations du Projet", JE,C/P, Autres acteurs	cf."Réalisations du Projet", interview
	Y a-t-il un schéma prévu pour la dissémination des résultats du projet? Y a-t-il un mécanisme pour étendre la mise en place du projet pilote?	cf."Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", Perception des acteurs	cf. "Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre", JE, CP, MEMIS	cf."Réalisations du Projet", & "Processus de mise en oeuvre" interview
	La réalisation de l'objectif global a-t-elle un impact positif sur le plan de développement de la CI?	Perception des acteurs	JE,CP,MEMIS	Literature review, Questionnaire/interview
	Y a-t-ils des facteurs qui entravent/facilitent l'atteinte de l'objectif global?	Perception des acteurs	JE,CP,MEMIS	Literature review, Questionnaire/interview
Causalité	Les objectifs globaux du projet sont-ils consistants? Le but du PJ sert-il de vecteur à la réalisation de l'objectif global?	Perception des acteurs	PDM, Rapports d'Avancement du Projet, JE, CP, MEMIS	Literature review, Questionnaire/interview
	Les hypothèses importantes de la PJ pour l'atteinte de l'objectif global dont-elles pertinentes au moment de la revue à mi-parcours? La probabilité de la survenance d'une hypothèse importante est-elle élevée?	cf."Pertinence", Perception des acteurs	cf."Pertinence", CP, JE, autres acteurs	cf."Pertinence", Questionnaire/interview
Impact positif	Pensez-vous que le projet a généré des impacts positifs tels que le renforcement des relations ou la cohésion sociale sur les groupes suivants: i) au sein du CCGPP, ii) résidents du PP (COGES, CGQ), iii) autres résidents des sites PP	cf. "Processus de mise en oeuvre", des changements, s'il y en a, par rapport aux tensions et perception entre pro-Ouattara et pro-Gbagbo, le vivre ensemble entre anciens résidents - nouveaux résidents-étrangers, perception des parties	cf." "Processus de mise en oeuvre", CP, JE, CCGPP, COGES, CGQ, autres acteurs	"Processus de mise en oeuvre", Questionnaire/interview
	Y a-t-il eu des changements dans l'évaluation des résidents envers les services communaux après le démarrage du Projet? Le Projet a-t-il produit des changements?	cf. "Processus de mise en oeuvre", perception des acteurs	cf." "Processus de mise en oeuvre", CP, JE, CCGPP, COGES, CGQ, autres parties prenantes	"Processus de mise en oeuvre", Questionnaire/interview

(Sur la base de PDM Ver.1)

Critères	Questions	Données/Information Requises	Données/Source d'Information	Données/Méthode de Collecte d'Information
	Le Projet peut-il avoir suffisamment d'influence sur la réduction du taux de chômage chez les jeunes dans la zone cible? Y a-t-il des impacts positifs autres que ceux énumérés ci-dessus?	cf. "Réalizations du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", Changement de moyens de subsistance d'anciens agents communaux recrutés	cf. "Réalizations du Projet" & "Processus de mise en oeuvre", JE, CP, CCGPP, anciens agents communaux recrutés pour le PP.	"Processus de mise en oeuvre", Questionnaire/interview
Impact négatif	Y a-t-il des impacts négatifs imprévus liés au Projet? Quelles mesures préventives ont été prises dans le cadre du Projet lorsque celui-ci s'est trouvé confronté à de tels risques?	cf. "Processus de mise en oeuvre", des changements, s'il en existe, par rapport aux tensions et perception entre pro-Ouattara et pro-Gbagbo, le vivre ensemble entre anciens résidents - nouveaux résidents-étrangers, perception des	cf. "Processus de mise en oeuvre", CP, JE, CCGPP, COGES, CGQ, autres parties prenantes	"Processus de mise en oeuvre", Questionnaire/interview
Répercussions	Les répercussions/impacts ont-ils fait l'objet d'anticipation au delà de l'objectif global? Y a-t-il un plan d'atténuation des impacts négatifs prévu?	-Politique et lois - Genre, droits de l'homme, pauvreté, socio/culture -Environnement -Technologie, -Impacts Economiques sur les parties prenantes	PDM, Rapports d'Avancement Projet, Rapports rédigés par JE, CP, MEMIS, parties prenantes	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Y a-t-il eu des impacts positifs/négatifs au niveau du genre, des groupes ethniques, et du statut social? Y a-t-il d'autres impacts négatifs imprévus survenus? Si oui, Quelles sont les mesures prises en vue de les éliminer?	Apparition d'impacts positifs/négatifs liés à la question du genre, de l'ethnicité et du statut social Perception des acteurs	PDM, Rapports d'Avancement du Projet, Rapports rédigés par JE, CP, MEMIS, parties prenantes PDM, Rapports d'Avancement du Projet, JE, CP, MEMIS, autres parties prenantes	Revue documentaire, Questionnaire/interview Revue documentaire, Questionnaire/interview
5. DURABILITE : Les avantages /effets générés par le projet sont-ils durables après la fin de celui-ci?				
Politique et aspects du système	La politique de développement du gouvernement de l'Uganda va-t-elle continuer après la fin de la coopération?	Politiques sur la cohésion sociale/restauration de la confiance envers l'administration (emploi des jeunes)	documents de politique, MEMIS, Bureau de la JICA, CP	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Les règlements et systèmes juridiques pertinents sont-ils préparés? Y a-t-il des plans pour leur préparation?	Stratégies de cohésion sociale/restauration de la confiance envers l'administration (emploi des jeunes)	documents de politique, MEMIS, JICA	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	(Pour le projet pilote entrepris) y a-t-il un schéma permettant d'étendre les réalisations du PJ à d'autres zones?	Mécanisme d'Extension, problèmes et raisons	MEMIS, Services Communaux, Bureau de la JICA, JE	Revue documentaire, Questionnaire/interview
Aspects organisationnels et financiers	Le C/P possède-t-il une capacité organisationnelle suffisante pour une mise en œuvre des activités en vue de produire également des effets après la fin de la coopération?	cf. "Réalizations du Projet", processus de mise à disposition de ressources humaines et de prise de décision pour la cohésion sociale /restauration de la confiance envers l'administration (emploi des jeunes)	documents de politique/MEMIS, Bureau de la JICA, JE, CP	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Existe-t-il une coordination/collaboration entre les départements d'ingénierie et les départements sociaux des services de la commune?	cf. "Processus de mise en oeuvre", perception des acteurs	CP (départements d'ingénierie et départements sociaux), JE, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Le C/P s'est-t-il solidement approprié le PJ?	cf. "Réalizations du Projet", compréhension et appropriation du projet par le CP	MEMIS, Bureau de la JICA, JE, CP, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview

(Sur la base de PDM Ver.1)

Critères	Questions	Données/information Requises	Données/SOURCE d'Information	Données/Méthode de Collecte d'Information
	L'allocation budgétaire est-elle suffisante pour l'entretien des services du C/P?	Système administratif et financier du service Communal pour les écoles et les routes de la	documents de politique/MEMIS, Bureau de la JICA, JE, CP	Revue documentaire, Questionnaire/interview
Aspects techniques	Les méthodes de transfert de technologies utilisées dans le projet sont-elles acceptées? (Niveau de technologie, facteurs socio-conventionnels, etc.)	cf. "Réalizations du Projet", l'acceptation et la pratique de l'approche COSAY, perception des acteurs dans la pratique, les tendances politiques	MEMIS, JE, CP, CCGPP, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	L'équipement est-il correctement géré et entretenu?	Budget d'entretien pour l'équipement fourni. Entretien des installations sous le PP	MEMIS, JE, CP, CCGPP, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	L'extension du PP a-t-elle permis le transfert des techniques mises en oeuvre?	cf. "Réalizations du Projet", l'acceptation et la pratique de l'approche COSAY, perception des acteurs dans la pratique, les tendances politiques	MEMIS, JE, CP, CCGPP, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
Aspects socio-culturels et environnementaux	Est-il possible que le manque de considération à l'égard des femmes, des pauvres et des personnes socialement vulnérables puisse compromettre la durabilité du Projet?	perception des acteurs	CP, CCGPP, JE, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Est-il possible que les effets durables du projet soient entravés par la non prise en compte de l'aspect environnemental?	perception des acteurs	CP, CCGPP, JE, autres acteurs	Revue documentaire, Questionnaire/interview
Autres aspects	Y a-t-il un mécanisme d'entretien des écoles/routes sous le PP ?	Un système d'entretien des écoles et voies de la commune en général, Entretien du PP: présentement et à l'avenir	CP (Service Communal: Dept. d'Ingénierie Dept. Social), CCGPP, COGES, CGQ, MENET et d'autres ministères concernés,	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Y a-t-il d'autres facteurs qui pourraient annihiler la soutenabilité?	perception des acteurs	documents de politique/MEMIS, Bureau de la JICA, JE, CP	Revue documentaire, Questionnaire/interview
	Avec la prise en compte des aspects sus-indiqués, le niveau de durabilité est-il élevé ou pas?	perception des acteurs	documents de politique/MEMIS, Bureau de la JICA, JE, CP	Revue documentaire, Questionnaire/interview

Grille d'Evaluation : Evaluation Finale du Projet,
Projet de Renforcement des Communautés pour la Promotion de la Cohésion Sociale dans le Grand Abidjan (COSAY)

Vérification des Réalisations				(Sur la base de PDM Ver.1)
Critères d'Evaluation	Questions	Données/Informations requises	Données/Source d'Informations	Données/Méthode de Collecte d'Information
les contributions	Les contributions de la partie japonaise ont-elles été fournies comme prévu?	Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et échéance ou experts JICA (JE)	PDM, PO, Réel/Etat d'avancement Projet, CP	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, échéance des équipements fournis	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet CP	
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et échéance de la formation C/P	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet	
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et calendrier des autres contributions	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet	
	Les contributions de la partie ivoirienne ont-elles été fournies comme prévu?	Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et calendrier du CP	PDM, PO, Réel/Etat d'avancement Projet, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et échéance des équipements/installations	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet	
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et calendrier des aménagements	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet	
		Programmées & Effectives: Qualité, quantité, et échéance de l'allocation budgétaire	PDM, PO, Réel/Déroulement Projet	
Résultats	OP1 Les projets pilotes sont sélectionnés en rapport avec le mécanisme établi pour la planification et la mise en oeuvre des projets de réhabilitation des infrastructures de base dans les communes.	1-1 Le mécanisme de planification et de mise en oeuvre des projets de réhabilitation des infrastructures de base est conçu par l'équipe projet au niveau de chaque commune et validé par les services communaux respectifs.	1. Rapports sur le mécanisme de planification et de mise en oeuvre de la commune, 2. Résultats d'Interview des services communaux	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		1-2 Les critères de sélection des projets pilotes sont établis.	1. Les critères de sélection des projet pilotes : Yopougon 2. The pilot project selection criteria: Abobo	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		1-3 Les résidents ont une bonne compréhension des objectifs et purpose contenus des projets pilotes sélectionnés.	Résultats d'Interview: 1. les services communaux 2. community leaders	Revue de documentation, Questionnaire/interview
	OP2 Les projets pilotes sont correctement exécutés et gérés conformément au plan de mise en oeuvre.	2-1 Un Comité Conjoint de gestion du projet pilote est mis en place sur chaque site de projet.	1. Liste des Membres des comités mis sur pied 2. Rapports d'Avancement du Projet	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		2-2 Les résidents des communes sont recrutés conformément à la politique d'approvisionnement.	1. Politique d'achat des projet pilotes 2. Contrats des activités du projet pilote 3. Etat des lieux des travaux de réhabilitation 4. Project Progress Reports	Revue de documentation, Questionnaire/interview

添付 3-47

Critères d'Evaluation	Questions	Données/Informations requises	Données/Source d'Informations	Données/Méthode de Collecte d'Information
		2-3 Les travailleurs communaux sont payés en tant que contractuels	1. Contrat de travail pour les employés communautaires 2. état des lieux des travaux de réhabilitation 3. Résultats d'Interview des employés communautaires	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		2-4 Les homologues des services communaux effectuent des investigations régulières sur les sites des projets (une fois par semaine)	1. Résultats de suivi 2. Interview results from the contractors	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		2-5 Les résultats du suivi conjoint sont partagés avec les résidents en temps opportun.	1. Rapports conjoints de suivi 2. Résultats d'Interview des membres en charge du suivi	Revue de documentation, Questionnaire/interview
	OP3 Les méthodologies de mise en œuvre des projets de réhabilitation des infrastructures de base pour la cohésion sociale à l'endroit du personnel des communes sont développées.	3-1 Les formations sont faites conformément aux programmes conçus sur la cohésion sociale.	1. Evaluation des besoins de formation 2. Rapports de fin de formation	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		3-2 Tous les homologues clés des services communaux assimilent les leçons apprises lors de la mise en œuvre des phases pilotes.	Avec les C/P clés des services communaux ; 1. Questionnaire 2. Interview	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		3-3 Les propositions sur les projets d'amélioration des infrastructures de base émanant des leçons apprises lors de la mise en œuvre des projets pilotes sont soumis aux bailleurs.	1. Propositions conçues sur le projet d'amélioration des infrastructures de base	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		Réalisation de l'objectif du projet	Les rapports entre les résidents dans les communes cibles ont été renforcés par la mise en œuvre de projets d'amélioration des infrastructures de base.	1. Dans les zones où se déroulent les projets pilotes, l'action des résidents est renforcée. 1-1. Le nombre de réunion organisées par/pour les résidents a augmenté. 1-2. Le nombre et le type de groupes de résidents ont augmenté. 1-3. Le nombre de résidents qui estiment que les relations entre voisins se sont élargies et renforcé 2. La confiance dans les services communaux est renforcée par la mise en œuvre des projets pilotes. 2-1. Les occasions de dialogue direct entre résidents et les services communaux se sont multipliées. 2-2. Le nombre de requête de projet de la part des
		Résultats de questionnaire et interview : 1. leaders communautaires, 2. organisation à base communautaire 3. Rapports d'avancement Projet 4. Rapports du comité conjoint de suivi 5. rapports final du projet pilote	Revue de documentation, Questionnaire/interview	

Critères d'Evaluation	Questions	Données/Informations requises	Données/Source d'Informations	Données/Méthode de Collecte d'Information
Réalisation de l'objectif global (Perspective)	La cohésion sociale dans les communes cibles affectées par la crise est élargie et renforcée.	1. Dans les communes cibles, le nombre de résidents en sécurité a augmenté.	Résultats de questionnaire et interview : 1. leaders communautaires, 2. résidents communautaires, 3. les services communaux	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		2. Dans les communes cibles, le nombre et le type d'activités collectives entre résidents et entre communautés a augmenté.	Résultats de questionnaire et interview: 1. leaders communautaires, 2. résidents communautaires	Revue de documentation, Questionnaire/interview
		3. Le nombre de résidents qui pensent que les services communaux fournissent des informations permettant d'entreprendre des activités de développement a augmenté.	Résultats de questionnaire et interview : 1. leaders communautaires, 2. résidents communautaires, 3. les services communaux	Revue de documentation, Questionnaire/interview
B. Vérification du Processus de mise en œuvre				
Critère d'Evaluation	Questions	Données/Information Requises	Données/Source d'Information	Données/Méthode de Collecte d'Information
Evolution des Activités	Y a-t-il un retard et/ou interruption dans les activités du Projet? Si oui, quelles en sont les causes? Quelles solutions pour surmonter ces obstacles?	1. Avancement des activités du projet 2. Raison de changement, et mesures	PO, Rapports d'Avancement du Projet, procès verbal JCC, CP, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview
	Y a-t-il un retard et/ou interruption dans le Projet Pilote? Si oui, quelles en sont les causes? Quelles solutions pour surmonter ces obstacles?	1. Avancement du projet pilote 2. Raison de changement, et mesures	PO, Rapport d'Avancement Projet, CCGPP 活動, CP, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview
Transfert Technique	Y a-t-il des difficultés/problèmes dans le processus de transfert de technologie? If any, what are the issues/problems? What are the causes? What are solutions overcoming those obstacles?	1. Avancement du transfert technique 2. Niveau de compréhension et d'apprentissage du CP 3. Difficultés, raisons et mesures	PO, Rapport d'Avancement Projet, procès verbal JCC, CP, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview
Processus de prise de décision	Quel est le processus de prise de décision du PO, allocation de C/P, changement du site du projet pilote?	1. Processus de prise de décision 2. Difficultés, raisons et mesures	Rapport d'Avancement Projet, procès verbal JCC, CP, JE, MEMIS	Revue de documentation, Questionnaire/interview
Gestion Projet	Est-ce que la structure de mise en œuvre du projet fonctionne correctement?	1. Structure de mise en œuvre 2. Difficultés, raisons et mesures	Rapport d'Avancement Projet, procès verbal JCC, CP, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview
	Est-ce que les réalisations et avancées du projet font l'objet de suivi? Les résultats du suivi sont-ils insérés dans la gestion du projet	Système de suivi, formes de suivi et fréquence	Rapports d'Avancement Projet, procès verbal JCC, CP, JE	Revue de documentation, Questionnaire/interview

Critères d'Evaluation	Questions	Données/Informations requises.	Données/Source d'Informations	Données/Méthode de Collecte d'Information
	Est-ce que la communication entre le JE et C/P, et entre les JE sont correctement mené	Type, moyens, et contenus de réunion	Procès verbal de réunions, Rapports d'Avancement Projet, JE, CP	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	Est-ce que la communication et la coopération avec le siège de la JICA - le bureau de la JICA se font de manière harmonieuse?	1. Etat de la communication et de la coopération 2. Difficultés, raisons et mesures	Rapports d'Avancement Projet, CP, JE, procès verbal JCC, Siège et Bureau JICA	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	La communication et la coopération avec les services Communaux et le MEMIS, et au sein des services communaux sont-elles correctement menées?	Etat de la communication et de la coopération 2. Difficultés, raisons et mesures	Rapports d'Avancement Projet, Procès verbal JCC, CP, JE, MEMIS, autres acteurs	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	La communication et la coopération avec d'autres projets sont-elles correctement mené	Etat de la communication et de la coopération 2. Difficultés, raisons et mesures	Rapport d'Avancement Projet, CP, JE, Personnel d'autres projets	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
Appropriation du projet par la C/P	Est-ce que le C/P de chaque administration local entreprend ds activités du projet avec un niveau d'appropriation élevé?	1. Contributions de la partie ivoirienne 2. Mise en œuvre des activités 3. Perception des agents au niveau de chaque	Rapports d'Avancement Projet, CP, JE, MEMIS, autres acteurs	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	Le COSAY est-il facile à mettre en oeuvre?	1. Etat de l'implication du C/P dans le projet 2. Perception d'agent au niveau de chaque commune 3. Perception des membres du CCGPP	Rapport d'Avancement Projet, CP, JE, membre du CCGPP,	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
Motivation/attitude des résidents communautaires envers le projet	Comment les résidents communautaires impliqués dans le suivi du PP perçoivent les activités du projet?	1. Etat des activités du CCGPP par secteur et par commune 2. Formation du membre et sa perception du CCGPP	Rapports d'Avancement Projet, CP, JE, membre CCGPP,	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	Comment les employés de commune recrutés pour le PP perçoivent les activités du projet?	1. Nombre et pourcentage d'agents communaux par PP 2. Salaire payé à l'agent communal	Rapports d'Avancement Projet, CP, JE, membre CCGPP, Entrepreneur, agents communaux	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
	Comment les écoles et les routes sous le PP sont-elles utilisées par les populations?	1. Utilisation décoles/routes avant et après le PP 2. Changements dans les environs avant et après le PP	Rapports d'Avancement Projet, CP, JE, membre CCGPP, résidents communaux	Revue de documentation, Questionnaire/Interview
Autres	Y a-t-il des difficultés pendant la mise en oeuvre?	1. Difficultés, raisons, et mesures 2. Impact des difficultés sur l'OP, et mesure	Rapports d'Avancement Projet, procès verbal JCC, CP, JE, autres acteurs	Revue de documentation, Questionnaire/Interview

添付資料4 インタビュー記録

インタビュー記録 1

実施日	2015年8月27日 9:20 - 10:00	
議題	EPEC : PKG2 コントラクター	
氏名 (敬称略)	役職	
面談先	Mme. KAKOU BONZO Henriette	EPEC 社長
COSAY	M. Koffi Ehoussou François、 Mme. Barro Mahoussa 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 アボボ市役所社会・文化・人材局長 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	EPP Plaque 1, 2, Abobo	
議事	<p>1. 学校工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COSAY のパイロット事業である学校建設を請け負った。工事内容について、発注側と認識の相違があったが、プロジェクトが追加費用を認めなかったため、コントラクター側が対応した。特に、学校近くの道路で、別のパイロット事業（道路修復）の工事業者が水道管を壊したことで一帯の水道が止められ、学校にも水がこない時期があった。市役所に陳情したが、なにも動いてくれず、遠方まで、自費で水を取りにいった。 <p>[補足：市役所が住民から苦情が来ていることをプロジェクトに連絡。プロジェクトから CCGPP 住民メンバーにそれを知らせたところ、啓発を実施。またプロジェクトからのアドバイスで、副市長と技術部長が水道公社を訪問し、速やかな復旧を要請するなど、MEMIS と連携し、水道会社 (SODECI) による復旧のための諸アレンジをし、水道管修復費用は市役所が対応した。水道公社が現状復帰ではなく、老朽化した水道管を新しいものに交換する費用まで請求してきたので、水道管更新については断る等のやり取りが発生した。最終的に水道管の新規敷設を含む費用は、ONEP が予算措置をとった。]</p> <p>2. 地元労働者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校周辺に在住する若者を建設工事に雇った。スキルがない人がほとんどで、スキルが必要な部分については自前の熟練工を投入した。 <p>[補足：コントラクターの契約書には、熟練・非熟練併せて全体労働者の 50% を地元から採用することが盛り込まれている。]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単純動労者としては非熟練であっても問題ないが、石工等になるには訓練が必要。 ・ 地元の労働者は週替わりで工事に従事した。これはなるべく多くの人々に機会を与えるため。10~15 人が常時働き、これは全労働者の 60~65% に相当する。女性も 2% ほどいたが、体格がよく力持ちな女性である。 ・ 現在、4 人の地元住民が、ここから 40km 離れたグランバッサムの工事現場で引き続き働いている。工事終了時、多くが引き続き雇用してくれと申しでた。その中から働きぶりが良かった 4 人を別の工事に連れて行った。4 人なのは、たまたま労働者の不足が 4 人分だったから。もっと不足していれば、それにあった人数を連れて行ったと思う。 ・ 4 人のうち、1 人は石工、3 人は非熟練工。今後も彼らを自前の労働者として雇用し続ける予定。 <p>[補足：この 4 人のうち 1 人は、プロジェクトが学校工事前に独自に実施した仮設校舎工事の従事者。この工事では、ブロック積、天井張り、石工等の訓練を実施した。]</p>	

- ・ 地元労働者を多く抱えるメリットは、現場近くに住んでいるので遅刻しないこと。また争いの後、融和が必要なときに、宗教や民族が異なる人が一緒に働くのは良い。出自の違いが切っ掛けで地元労働者間、あるいは労働者間でいざこざが発生したことはない。
- ・ 若者を雇用せよというなら、まず JICA が訓練を実施すべきだと思う。ドイツの KFW が若者への職業訓練を実施しており、その若者を雇用するようコントラクターに働きかけがあり、自分も見てきた。JICA も若者に対しこのような訓練をすればよいのではないか。

3. 工事実施方法等について

- ・ 品質管理：日本人専門家は少なくとも週 2 回は現場に来て、また毎週、現場ミーティングを行い、品質管理を重視していた。
- ・ 安全管理：自分たちは EU 等資金の工事も行っており、その基準に沿って労働者には手袋・ヘルメット・安全靴を着用させている。暑いので、ヘルメットや安全靴を使わない労働者も多いので、現場に来るたび、社長自ら着用するよう指導して回っている。
- ・ その他：設計図は事前調査を踏まえて注意深く作ってほしいし、コントラクターに相談してほしい。断水時、市役所は何もしてくれなかった。現場ミーティングには市役所からの参加者もいたが。現在、別の校舎を市役所事業として実施中だが、自分たちは何も関わっていない。いつどのように入札されたのかさえ、知らない。

以上

インタビュー記録 2

実施日	2015 年 8 月 27 日 10:00 – 12:10	
議題	CCGPP（学校）の活動状況：EPP Plaque 1,2、アボボ市	
氏名（敬称略）		役職
面談先	Mr. Traoré Mamadou 他	EPP Plaque 1,2 CCGPP メンバー一同
COSAY	M. Koffi Ehoussou François、Mme. Barro Mahoussa 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 アボボ市役所社会・文化・人材局長 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山 真由美	COSAY 担当
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	EPP Plaque 1,2, アボボ市役所	
議事	<p>1. 活動進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水道管破損で 3 か月、断水したことを除けば、CCGPP が立ち上がってから活動は順調に進んでいる。〔補足：実際の断水期間は 2 ヶ月程度〕 ・ 日本人専門家とは学校のメンテナンス体制についての協議を重ねている。 ・ 市役所スタッフは現場ミーティングにいつも出席しており、今では顔なじみになった。社会局は啓発活動を担当している。住民からも水道が使えないことへの苦情が市役所に寄せられたので、CCGPP 住民メンバーが周辺住民に状況説明等の啓発を行った。 <p>2. CCGPP について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーは 16 人：COGES5 人、住民代表 11 人。11 人の内訳：神父（キリスト教）、イマーム（イスラム教）、女性、商工会、若者の代表各 1、民族代表各 1。 <p>〔補足：調査団が CCGPP の宗教・民族別等のメンバー構成を質問した際、その時の回答者（COGES</p>	

メンバーでもある学校長)は民族については触れたくないと回答。同席している市役所社会部の Mme. Barro が、このプロジェクトは色々な人たちが社会統合されることを支援するものなので、民族の別も述べるようアドバイスした。]

- ・ ボランティアなので、仕事が忙しい場合は出席しない。地域のアソシエーションごとに代表者を出すことになり、メンバーとして選出された。
- ・ CCGPP で話し合ったことは、所属するグループのメンバーに伝えている。皆、プロジェクトに興味を持っている。なぜなら、プロジェクトが共生に関わるものだから。
- ・ CCGPP の活動にはメンバーいずれも満足している。地域の色々な人たちがメンバーになり、これまで見知っていても、話したことがない人たちと話す切っ掛けができた。今では、それぞれの衣服を貸し借りする以外は何でも共有する兄弟のような関係である。
- ・ 市役所と職員についても同様である。以前は、納税するのが嫌だった。しかし現在は市役所の仕組みが分かり、また税金がどう使われるか知っているので、安心して納税できる。市役所に行くと、自分も市役所スタッフの一員のように感じる。また今日、参加している社会文化局の Mme. Barro は今では母親のような存在で、市役所に行くたび、特段の要件がなくとも一言、挨拶しにいくし、電話がかかってくるたら、番号で彼女からの電話だとわかる。彼女をからかうこともできるようになった。

3. 社会統合への貢献

- ・ 自分はベテ族(前大統領の民族)のリーダーとして参加している。隣に座っているマリケ族(現大統領の民族)のリーダーに、今日の集まりを電話で知らせた。マリケ族のリーダーに電話をかける間柄、こんなことは CCGPP 前は考えられなかった。
- ・ 地域の誰もが含まれている。それがよい。他の人々について知ることは、自分自身を知ることでもある。CCGPP のメンバー構成はどれも同じではないが、地域の各グループが含まれていることが大事。
- ・ 他の CCGPP の状況は詳しく知らないが、ここでは CCGPP は社会統合に効果的である。CCGPP が多数、あれば、一層、社会統合ができるのではないか。
- ・ ヨブゴンの CCGPP と一度、合同トレーニングを受けた。他の CCGPP と交流する機会があれば、よい。
- ・ 地域の他のグループとの近しさについて、CCGPP 前を 1 とし、1 から 10 のレート表現すると、現状は次のとおり。レート 9 が 2 名、10 が 5 名、10 超が 1 名。レート 9 の理由は、人間は完璧なものではないので 10 にしない。
- ・ 同様に、市役所との心理的近しさ - 物理的距離は変わらないので - は、同様に CCGPP 前を 1 とすると、レート 9 が 2 名、10 が 5 名。

4. 地元労働者

- ・ 1 週間という短いサイクルではあるが、技術を身に着けることはできる。また興味があれば、再度、再再度、労働者として戻ってくる人もいる。パイロット事業工事に従事して得た技能を使っていくことが必要。
- ・ ある 30 代の若者は、独身で家族と一緒に住んでいるが、今まで特に働くでもなく、一人であることが多かった。建設工事に従事して以降、道端で他人と話をするようになるなど、社会と交わるようになった。

5. プロジェクト後

- ・ 校舎維持管理の機材はある。どのように維持管理していくか、COGES を中心として、現在、日本人専門家も含めて検討中である。

以上

インタビュー記録 3

実施日	2015年8月27日 12:10 - 12:25	
議題	パイロット事業の地元労働者：EPP Plaque 1, 2	
氏名（敬称略）		役職
面談先	元 EPP Plaque 1, 2 パイロット事業の地元労働者	
COSAY	M. Koffi Ehoussou François、 Mme. Barro Mahoussa 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 アボボ市役所社会・文化・人材局長 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山 真由美	COSAY 担当
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	EPP Plaque 1, 2, Abobo	
議事	<p>・ 3日間働いたが、その後は他の用事もあるので働かなかった。</p> <p>・ 地元労働者は、1週間交代で働いた。働いている間、他の民族出身者（クランゴ、バウレ、ベテ、ブルキナファソ人（ECOWAS）等）もいたが、特に問題なかった。その時の同僚とのコンタクトは取り合っていない。</p> <p>・ 配管工であるが、石工の技術を身に着けた。今後は、この技術で支援が必要な人を支援したい。</p> <p>・ 賃金は2,500FCA/日で、適切な額。悪くない。これで衣類を買った。</p> <p>・ 他の地元労働者は、妻が急に産気づき、緊急手術が必要になった。パイロット事業の賃金で手術を受けられた。死産であったが、妻は手術のお蔭で助かった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

インタビュー記録 4

実施日	2015年8月27日 13:30 - 14:30	
議題	COSAY 事業外の COGES : Akeikoi Municipalite, アボボ市	
氏名（敬称略）		役職
面談先	Mm. Togba pi Tomini Constant 他	COGES メンバー
COSAY	M. Koffi Ehoussou François、Mme. Barro Mahoussa 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 アボボ市役所社会・文化・人材局長 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	Akeikoi Municipalite, Abobo	
議事	<p>1. COGES メンバーの選ばれ方と構成</p> <p>・ 11人の規定。任期2年間。構成はプレジデント、副プレジデント、財務、セクレタリーと一般メンバー。11人とは別枠で、監査人が設けられている。</p> <p>・ COGES メンバーになる資格とメンバーを選ぶ投票権を持つのは、教師と父兄。メンバーはボランティア。そのため、本日は仕事の都合で出席できないメンバーもいる。</p>	

- ・ 任期終了2週間前に、次のメンバー希望者の応募書類を受付し、応募者は自らの適格性についてキャンペーンできる。その後、総会を開き、投票する。上位1位がCOGES プレジデント、同2位が副プレジデント、同3位が財務担当となる。
- ・ 総会は年に2回開催。
- ・ COGES の集まりを UNAPECI といい、その長は市長である。

2. メンテナンスについて

- ・ 校長が維持管理が必要な事項をとりまとめて総会に提出し、承認を受ける。その後、インスペクターに提出。
- ・ 机・椅子については市役所社会部はスクール・マッピングを作成し、必要な机・椅子の数を把握している。これを市長に提出し、市の3カ年計画に含める。そして、適宜、机・椅子を学校に供給している。〔補足：机・椅子の調達と供給は技術局の業務〕
- ・ 父兄からは児童一人当たり3000FCAを徴収し、維持管理費用の財源としている。集まった金は財務が管理している。

3. メンテナンスの課題

- ・ 本校では658人児童中364人しか3000FCAを出しておらず、慢性的な資金不足である。そのため、必要な維持管理事項は集まった金額でできない場合は、先送りしている。そのため教室の天井板の穴は徐々に大きくなっている。
- ・ 公立学校については、父兄は完全な無償教育と思っており、維持管理費用を出したがる。父兄は、学校が父兄をだまそうとしていると思っている。
- ・ 児童はチョークを持参することになっているが、持ってこない児童も少なくない。理由を聞くと、父親からチョークは学校にあるから持って行かなくてよいと言われたそうである。
- ・ 父兄が維持管理費を払わない場合、その児童を放校することもCOGESで検討したが、教育上、不適切なので、その案は実施されていない。

4. 校舎

- ・ 6教室あるが、現在、極めて手狭。定員以上の児童で授業をし、さらに午前と午後に分けて授業を行う等の工夫をしている。JICAから支援してもらいたい。

5. 他のCOGESとの交流

- ・ DAPS-COGESあるいはIEPという会合で会う。そこではCOGESが抱える課題についての研修、セミナーやワークショップが開催される。テーマは維持管理費を払わない父兄への対策など。
- ・ COSAYプロジェクト下のCOGESと具体的交流はない。

6. 学校周辺の住民の特徴

- ・ 色々な民族がいるが、それによる課題は発生していない。児童の間でも民族の違いによるいさかい等はない。

〔補足：この小学校はパイロット事業対象としてショートリストされたが、選択基準に沿って検討された結果、パイロット事業対象外となった。〕

以上

インタビュー記録 5

実施日	2015年8月27日 15:15 - 17:00	
議題	CCGPP（学校）の活動状況：GS Anonkoua Koute、アボボ市	
氏名（敬称略）		役職
面談先	Mr. XX 他 名	CCGPP メンバー
COSAY	M. Koffi Ehoussou François、Mme. Barro Mahoussa 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 アボボ市役所社会・文化・人材局長 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	GS Anonkoua Koute (Abobo)	
議事	<p>1. CCGPP の活動進捗について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2014年1月に開始して以降、課題はあるが、活動は順調に進んでいる。 ・ 課題は、次の通り。①校舎改修の質が不十分であり、フェンスに一部、瑕疵があったこと。②木を切る際、フェンス上に倒れてしまい、その部分を修復したこと、③地元労働者である若者がなかなか集まらなかったこと。④メンバーが集まりにくいこと。危機後、仕事・家庭・社会に様々な変化が発生。仕事を優先させざるをえない。 ・ CCGPP で実施してきたことは次の通り。①住民対象に、パイロット事業についての啓発、②パイロット事業のデザイン、③社会統合に関する目標設定、④各種トレーニング、⑤児童対象に、校舎を綺麗に使うよう啓発、⑥トレーニング、⑦COSAY 終了後の維持管理についての検討 ・ パイロット事業の進捗をモニターするミーティングを開催しており、今後も続ける。 <p>2. CCGPP について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日出席している住民側メンバーは、伝統的首長グループと女性の代表各1、キリスト教2、COGES 関係者3、民族リーダー2。 ・ 20~25名のメンバー〔補足：実際はもっと少ない。CCGPP には住民メンバー以外にオブザーバーもいる〕がいるが、出席しているのは5~6名程度。仕事で忙しいので、CCGPP の開催日時がきちんと知らされべきだと思う。 ・ CCGPP は異なるバックグラウンドの人たちの代表が集まる場所である。 ・ パイロット事業が進むよう、CCGPP がモニタリングしている。パイロット事業はスケジュール通りに行っていると思う。 ・ 日本人専門家からはトレーニングを受けたり、校舎改修中にミーティングしている。 <p>3. 社会統合について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所とは、双方向のコミュニケーションができています。パイロット事業のデザインや選定、スケジュールについて話し合った。 ・ 市役所が身近になった。市役所は重要である。 ・ CCGPP には異なる実績があるが、その中で社会統合が最も重要なもの。皆が互いを聞き合うようになった。CCGPP も知られるようになった。 ・ 社会統合は民族に基づいていないもの。 ・ 住民間の関係を1を最小10を最大とするレートとし、プロジェクト前を1とすると、現在はレート6が1人、同8が5人、同9が4人。 ・ 同じく市役所との関係では、プロジェクト前はレート4が1人、同5が2人、7が3人、8 	

が1人。現在は、7が1人、8が2人、9が1人、10が2人。要確認

4. 持管理委員会について

- ・学校のマネジメントを行う。子どもたちが適切な環境で学ぶことができることが重要であるため。
- ・衛生観念も変えていく必要がある。父兄にも学校美化について合意してもらい、我々のインプットと市役所のインプットで、校舎や敷地を綺麗に使うこと、汚さないことを児童対象に啓発活動を実施した。
- ・プロジェクト後は COSAY からの支援がなくなる。地域社会が学校を維持していく必要がある。父兄を学校に招いて、学校を維持していく重要性を伝える。
- ・児童たちは問題を起こさない。

5. 若年層/地元労働者

- ・パイロット事業の目的が社会統合である。若年層は、パイロット事業を協力して行うことで友達になり、今でも友達である。社会統合に良い貢献をしている。
- ・若年労働者の選定は、まず選定することと必要なスキルを CCGPP が通知し、市役所で登録した。採用選考も市役所で CCGPP と市役所が行った。
- ・日額 2,500CFA で、賃金支払いに問題はなかった。
- ・2週間という期間は短いですが、生計支援することはできた。実際に働く前にトレーニングがあるとよい。

6. マリンケ族代表の発言

- ・自分には CCGPP の開催について案内が来なかった。今日は市役所から開催を知らされてきたら、評価調査団を紹介された。当初は毎回、出席していたが、パイロット事業の進捗に合わせて連絡が来なくなった。地元社会は重要な情報を受け取ることがなかった。維持管理委員会ができたことも知らなかった。
- ・市役所で開かれた地元労働者の雇用に関する集まりも知らず、若者を集められなかった。地元労働者リストのなかにマリンケ族の若者は誰もいない。マリンケ族の若者は選定に行くのを嫌がった。
- ・自分が引退した人間だから知らされなかったのかもしれないが、これでは CCGPP により社会統合が進んでいるとはいえない。

[補足：訪問先はエブリエ族の村。この発言者はアボボ市役所社会局長の叔父で現政権派。村長は前政権派で、長年、エブリエ族の伝統に従って村を指導してきている。上記の発言内容からは、CCGPP の集まりに関し、あえて上記発言者には知らせていなかった可能性、及び今回は市役所から各人に直接、開催が通知されて上記発言者が久しぶりに出席した可能性がある。一方で、この発言者は市役所の社会局長を通じて、CCGPP の開催を把握することもできるので、本人の CCGPP への興味・あるいは CCGPP に出席しやすいかどうかと言った他の要素も作用していた可能性もある。]

7. EU の PARCS プロジェクトについて

[ヒアリング中、市役所がこの村が PARCS の事業対象地になったことを知らせた。]

- ・COSAY 事業のほうが、ミーティングを重ねるなどして慎重である。双方向のやりとりができる。
- ・PARCS 事業を実施する基礎はできており、その下でインフラ整備をすれば、[社会統合について] 一層、堅固な状態に達することができるだろう。

以上

インタビュー記録 6

実施日	2015年8月28日 10:45 - 12:10	
議題	CCGP (学校) P の活動 : GS SOGEFIHA 6、ヨブゴン市	
氏名 (敬称略)	役職	
面談先	Ms. Sidibé Awa epse Diane 他	CCGPP メンバー、地元労働者 (塗装工) と所属先 NGO 代表
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山 真由美	COSAY 担当
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	GS SOGEFIHA 6 (Yopougon)	
議事	<p>1. 地域状況</p> <ul style="list-style-type: none"> この地域での紛争の影響は限定的。過去 30~40 年、一緒に生活してきたので。確かに紛争はあったが、社会統合は維持されてきている。 2010 年、他のグループに働きかけて被弾した学校の片づけをした。最初は多様なグループに前に出てきて一緒に活動してもらうのは簡単ではなく、自分のスタッフだけだった。しかし、子どもの将来を考えて、話しかけ続けた結果、2012 年には概ね、皆で活動できるようになった。その後、COSAY 事業がやってきて、この学校がパイロット事業に選ばれた。 <p>2. CCGPP 活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014 年 2 月から CCGPP の活動開始。宗教、市役所、若者、女性、民族 (バウレ、ジュラ等)、NGO の各グループから 2 名ずつの代表。また COGES から教師や父兄が参加している。メンバー数は 14 名~19 名の間だが、17 名程度が集まる。 伝統的リーダーはセレモニーを取り仕切るのに忙しいので、代行を立てる。また宗教関係者も忙しく出られない時もある。 JICA とのミーティングは住民と、また市役所と関連していた。 活動は、校舎の修復で、修復に従事する若年層の選定は市役所で実施した。 修復に伴う校舎瓦礫の撤去や清掃は、朝 7 時から夜 6 時まで異なるグループも参加して行った。ADDR [DDR 国家プログラム。プロジェクトの仲介があり、同じグループ校の別の校舎を UNDP の日本基金 (2013 年度補正予算) で改修した] にブーツ等の用具を支援してもらった。 瓦礫撤去は、市役所とのパートナーシップで行った。市役所から廃棄物処理のトラックを出してもらうよう手配し、そのトラックが数回、往復するくらいの瓦礫を片づけた。 植栽活動にも参加している。ガーデナーがいるが、自分たちも子供たちのため参加している。 自分のスタッフには、石工などのスキルがある人がいなかった。 修復時、水や食料が足りなかったので、CCGPP のメンバーそれぞれが水を汲んで来たり、食事を準備したりした。 女性であることを理由に CCGPP で活動しにくいということはない。ただ CCGPP に限ったことではないが、伝統的リーダー層に対しては、女性グループのなかでも年長者を前面に出している。年長の女性のほうが、伝統的リーダー層への対応が上手で慣れているので。 若年層は市役所を通じて、動員した。自分の場合には、若年層が CCGPP のメンバーとして地域を良くするために活動することに抵抗等はない。若者が地域活動に参加する際には、若者の個性を理解し、励ますようにした。 日本人専門家とは修復方法を相談したり、一緒にパブリックビューイングを開催した。 <p>[補足 : 同じ敷地内に 4 つの小学校と幼稚園があるグループ学校。うち COSAY 支援対象の学校は 2 校。その一つは 2010 年大統領選結果を巡る紛争の際、校舎の一部が被弾した。]</p>	

3. 社会統合について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所は我々の“guardian”であり、地域を運営してくれる存在。紛争前から市役所の役割を信頼しているし、市役所には何が起きているかを知らせている。 ・ 政権が変わっても市役所には継続性がある。 ・ 新しい人が市役所から来れば、一緒に座って話しあう。 ・ 市役所のなかでは社会部とやり取りしている。技術部の人もミーティングに来る。 ・ CCGPP については市役所との協力が続いている。 ・ CCGPP は異なるアソシエーション〔若年層や女性等の組織〕や、宗教や民族のグループ、教師や生徒のニーズが集まるプラットフォームである。 ・ 住民間の関係について1を最小10を最大とするレートで表現すると、プロジェクト前はレート5が1人、同8が1人。現在は8と10が各1。10にしないのは、人間は全て上手くできるものではないので。 ・ 市役所との関係は、同じく、プロジェクト前のレート5が1人、同6が1人。現在は8と10が各1。10にしないのは、同じく人間なので全てが上手くいくものではないから。
4. 若年層/地元労働者について
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA から配られたデータシートに若者の情報とコントラクターの情報を書いて、JICA に提出した。 ・ そのときの地元労働者には配線工4人、配管工1人、ティブリ〔職種の一つ〕1人が今でも働いている。 ・ 異なる民族の若者が一緒に働くのは良い方法だと思う。コミュニケーションが促進され、争いが減る。 ・ 塗装工は女性も入れて8人のグループで2ヶ月700,000FCFA*という契約。女性塗装工は、得た賃金で子どもの学費を出した。 〔補足：賃金：塗装工の場合、塗装する面積で賃金が決まっており、また全員が同じように働くわけではないので、あくまでも目安である。〕
5. プロジェクト後
<ul style="list-style-type: none"> ・ CCGPP の経験を踏まえて、COGES が学校の管理を担当する。 ・ CCGPP の経験とは、既存の価値に付加をつけていくこと。他のカルティエにも拡大していくことができると思う。CCGPP の構成、つまり宗教、伝統、COGES、若者、女性、市役所、NGO からリーダーが集まり、協力しながら活動していくこと。
以上

インタビュー記録 7

実施日	2015年8月28日 13:45 - 14:40	
議題	COSAY プロジェクト外の COGES の活動：GS Lagune、ヨプゴン市	
氏名（敬称略）	役職	
面談先	Ms. Kapcourie K. N. B 他	COGES メンバー一行
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー一同
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山 真由美	担当所員
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	GS Lagune (Yopougon)	
議事		

1. 組織・体制

- ・ 2003-2004年に学校の開設に合わせて発足。
- ・ メンバーは11人。現在は3人が教師、6人が父兄、2人が生徒。男性3人、女性8人。
- ・ 任期2年間で、再選可能。父兄の場合、ボランティア。
- ・ 定期総会のほか、必要に応じて会議を招集する。直近では、アビジャン各地で発生した子どもの誘拐への対応を協議し、1週間休学とした。
- ・ 2年に1回、メンバーの選挙をする。参加資格は子弟がこの学校に通っている父兄であること、教師であればこの学校の教師であること。
- ・ COGESメンバー応募者のうち、最多得票者がプレジデント、次点が副プレジデント。
- ・ 別途、財務担当に関する選挙も行い、最多得票者が財務主任、次点が財務副主任となる。
- ・ また会合の議事録をつくる事務局、監査人がいる。

2. 維持管理

- ・ 年間維持管理計画を作成し、その総額を児童数で割って、児童一人当たりの供出額を決めるが、国所定の上限である3,000CFA以下とする必要がある。
- ・ 予定通り徴収することは難しい。まず親がいない児童には割り当てられない。またこの地区の父兄には引退した人も多く収入が限られているため、出せない人も多い。小学校と保育園合せて1,000人在籍しているが、親がいない等の非対象者を除くと徴収対象は800人。そのうち400-500人から徴収している。
- ・ 父兄に供出金を出すよう働きかけるのがCOGESの仕事。成績表を学校に取りに来るときなどに声を掛けているが、貧困家庭が多く、なかなか集まらない。
- ・ 市役所は2005年に塀を設置した。ドナーに支援を働きかけ、EUは2回、視察に来たが、具体的支援はもらっていない。
- ・ 対策として、運動着としてTシャツを作った。子どもにPRするよう作り、親に買ってくれるよう泣いてねだる子どももいるほど。3,000CFAの供出金は出せなくても、2,000CFAのTシャツを買う父兄は大勢いる。

3. 学校周囲の地区

- ・ 学校周辺にはコートジボワール中の民族とECOWAS出身者が住んでいる。しかし、民族等の違いによる対立はなく、また子どもたちもそれに由来する争いはない。ケンカはあるが、それは単に子どもたちによくあるケンカである。

4. 他のCOGES等とのつながり

- ・ COGESの総裁は市長で、連合体はDAPS-COGES。市役所ではDAPS-COGESが連絡先となる。
- ・ 他のCOGESとはDAPS-COGESの集まりで会うことはあるが、学校管轄地域が異なるのでCOSAY事業のことは知らない。
- ・ 最近では、供出金収集と関係してCOGESの役割や意義を父兄に理解してもらうことが求められるようになってきている。効果的に理解してもらうに仕組みがDAPS-COGESである。
- ・ 学校の外での活動としては、動物園や競技場への遠足活動を行っている。

[補足：この小学校はパイロット事業対象としてショートリストされたが、選択基準に沿って検討された結果、パイロット事業対象外となった。]

以上

実施日	2015年8月28日 15:55 - 17:10	
議題	CCGPP（学校）の活動：GS Parmilaie、ヨブゴン市	
氏名（敬称略）		役職
面談先	Mr. Soumahoro Minignan 他	COGES メンバー行
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー同
	関口 正也	COSAY チームリーダー（別会合のため途中退出）
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ（別会合のため途中退出）
JICA 事務所	藤山 真由美	担当所員（別会合のため途中退出）
調査団	一宮	評価分析団員
実施場所	GS Parmilaie (Yopougon)	
議事	<p>1. 組織・沿革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2014年1月に発足。 ・ メンバーは現在、15人。COGE3人、宗教現在2人（キリスト教とイスラム教各1、当初3人）。女性、若者、NGO、民族、市役所から各2名。 ・ COSAY事業開始時、多くの住民を呼び集会を実施。その際、CCGPPにはどういう人が含まれているのがよいか、アンケートを実施。その結果が上記のグループ/アソシエーションとなった。 ・ 民族に関しては、マリンケ40%、バウレ30%、ゲレ20%、アチェ2%、アデラ5%という割合。民族グループで構成する連合体があるので、民族グループ連合体から代表2名を選出することを依頼。NGOの連合体にも、同じように連合体として代表2名を選出するよう依頼した。 <p>2. CCGPPの活動と進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施した活動は次の通りで、活動に関するメンバーの意見は常に反映された。①啓発活動、②住民へのお知らせ、③校舎修復に関するトレーニング、④地元労働者への賃金支払いも含めたモニタリング、⑤地元労働者のリクルート、⑥プロポーザルへのコメント、⑦資機材選定に関する監理。 ・ 啓発活動では、校庭全面に生えていた雑草を除去した。 ・ 一連のミーティングを通じて、紛争後の状況から前に出て、互いに近づけるようになった。 ・ 簡単ではなかったが、ミーティングを重ねるうちに壁が壊れた。ミーティングを開いたのは次のことに関して：パイロット事業の選定やパイロット事業の説明、自分たちのグループ連合体から代表を選出すること、NGOや民族グループ等ではなく自分たちのグループ連合体を代表すること。 ・ 市役所は受け取ったパイロット事業のロングリストを一度、住民に差し戻した。その際は、市役所がパイロット事業を選定するのに必要な情報の項目を知らせた。あらためて提出されたリストから小学校と道路を各8件ずつ選び、それをパイロット事業選択基準で絞り込んで各2件を選んだ。 ・ 日本人専門家とは、トレーニングを受けたり、PDM作成を行った。 <p>3. 社会統合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紛争後の状況は宗教や民族で住民が分かれていた。 ・ 社会統合を阻むのは、互いへの恐怖や不信である。CCGPPの活動を通じて、その壁が壊れた。プロジェクト活動は、学校を修復するという便益で、それを支援した。 ・ 住民は住民として同じ存在であること、互いに関連しあっている。 ・ 市役所は選挙の時は住民の前に顔を出すのが、選挙が終わったら住民のことは忘れて、全く関係なくなる。 ・ プロジェクト活動では社会部と技術部が参加した。特に社会部は我々に市役所にアプローチするにはどうすればよいか、教えてくれた。 	

- ・住民間の関係を1を最小10を最大とするレートで表現すると、プロジェクト前はレート3が2人、同4が1人、同5が3人。現在は8が5人、9が1人。
- ・同じく市役所との関係は、プロジェクト前がレート2が3人、同3が1人、5が1人。現在は6が1人、7が1人、8が1人、9が2人、10が2人。

4. 若年層/地元労働者

- ・地元労働者の採用に際しては、異なる出身の人々が一緒に働くようにした。これで社会統合が前進した。
- ・採用基準は18歳から50歳であること。67人が登録し、そのうち37%が女性。女性の方が力強く、辛抱強く働いた。〔補足：PKG-S1の場合を説明しているとみられる〕
- ・民族別の割当は設けなかった。そうする必要はなく、働きたい人が働けばよいので。むしろ民族別割当を設けないほうが良い。設けたら、また争いの種になる。
- ・若者グループの代表2名は当初、互いに話もしなかった。少しずつ話せるようになり、ついに一緒に作業できるようになった。
- ・最初に仮設校舎建設のトレーニングがあった。それに参加した人が本校舎建設にも従事した。それは65人で労働者数の95%を占める。〔補足：プロジェクト情報では、この割合は高すぎるとみられる〕
- ・最初、コントラクターは地元労働者の採用する意義を分からず、地元労働者の採用を拒否した。CCGPPのメンバーが、地元労働者を採用することがどう社会統合に意味があるのかを説明して、最終的に地元労働者の採用をコントラクターも同意した。

以上

インタビュー記録 9

実施日	2015年8月31日 9:25 - 10:10	
議題	MODULUS : PKG3 コントラクター	
氏名 (敬称略)		役職
面談先	Mr. Shayoun Rizk	MODULUS 社長
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー一同
	乙黒 佳子	専門家
	Mr. Aboubakari Dosso	プロジェクト・スタッフ
調査団	一宮	調査団 (評価分析)
実施場所	EPP Plaque 1, 2, Abobo	
議事		
1. パイロット事業 (道路) について道路リハビリと排水溝新規		
<ul style="list-style-type: none"> ・設置。雨期で3週間、水道管破損で1~1.5ヵ月、工事中断。技術的な観点から当初設計を現地状況に合わせて変更した。それ以外は順調であった。 ・工事に関し、CCGPPからも住民からもクレームはなかった。JICAは工事着工前に、啓発活動を実施しており、事前準備が良かった。 ・工事期間中は、CCGPPや住民が工事を有難く思っていると感じた。一時的な不便も、工事後の便益のために我慢していた。 		
2. 地元労働者		
<ul style="list-style-type: none"> ・地元労働者は常時20~40人程度を雇用。全体の3分の1。そのうち熟練工はさらに3分の1。熟練工は配管工・石工・大工。また人手が足りなくなると、その都度、採用した。女性ははいない。 ・賃金は法定である最少額。熟練工にはその2から3倍の額。 ・委員会から示された地元労働者リストをそのまま採用した。通常、このような事業では住民 		

委員会が自分のコネで労働者を採用させようとしたり、住民が雇ってくれと言ってくるが、この事業はそういうことがなかった。委員会は地元労働者選考を公平に行ったのだと思う。

- ・ 工事は当初は非熟練工で対応できる土木作業だが、路面整備やアスファルト舗装は資機材を使っただけの作業である。そのため工事進捗とともに地元労働者の雇用は減った。工事終了とともに雇用関係も終わっている。

3. そのほか

- ・ 道路のメンテは排水溝の清掃と路面整備。排水溝は定期的に掃除する必要があるが、市役所の業務。だが建設省と市役所の所管範囲についての法律が変わっているので、市役所に確認するとよい。路面も市役所の業務範囲。
- ・ 品質管理：施工監理コンサルタントも適切に活動していた。
- ・ 安全管理：以前は、国所定であるヘルメットや保護靴、手袋の着用を守っていない会社が多かったが、最近は着用するようになっている。
- ・ JICA は今回事業で色々と学んだのではないか。次はもっと良く実施できるだろう。市役所は予算さえ手当てできれば、今回のような作業を自分たちで実施できると思う。
- ・ COSAY と似た事業を世界銀行が出資中。PRICI という名称でコートジボワール各地で実施中。

以上

インタビュー記録 10

実施日	2015年8月31日 10:35 - 12:25	
議題	CCGPP（道路）について：EPP Plaque 1, 2, アボボ市	
氏名（敬称略）	役職 アボボ市	
訪問先	Mr. Fofoaana Sindou 他	CCGPP メンバー（男性4名、女性1名）と男性地元労働者3名
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、他合同評価メンバー
	関口 正也	総括
	Mr. Aboubakari Dosso	プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山 真由美	COSAY 担当
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	EPP Plaque 1, 2, Abobo	

議事

1. CCGPP の沿革・構成

- ・ 2014年1月から3月の間に設立。
- ・ メンバーは、宗教・民族・女性・若者のグループの代表。住民集会で必要と思われるグループややる気がある人をメンバーに含めることになった。宗教はキリスト教とイスラム教を含む。宗教リーダーはもともと地域の開発に熱心だったので、CCGPPに参加してもらっている。メンバー数は15~20人。集まりに出席するのは3~10人。
- ・ 女性の参加が少ないのは家事に忙しいから。男性と女性が一緒にCCGPPの活動をするのに、女性からは問題ないし、男性も女性を尊敬している。

2. CCGPP の活動

- ・ 活動は①母の日の開催、②道路と学校の修復に関する対住民啓発活動、③修復工事に従事する地元労働者の選定、④研修受講：社会的統合とコミュニティ開発、道路維持管理
- ・ 研修は有用・有益だった。得た知識は例えば道路整備の際、利用した。

- ・道路整備の際の課題は沿道で商いをしている人たちを移動すること。道路整備の必要性を説明し、理解してもらった。また水道管破損・断水の際は、学校と道路のCGPPが集まって相談し、住民からの苦情にたいし、道路整備の意義や断水の状況を説明して、理解を得た。
- ・各種情報は、各グループ（宗教・民族等）のリーダーを通じて伝達している。

3. 社会統合

- ・コンフリクト・マネジメント研修の成果は、何らかの問題を解決するときに活用している。直接、会って話し合う方法をとっている。例えば、自分たちを侮辱する人たちと話し合い、事態を改善した。
- ・社会統合への関心は、コンフリクト・マネジメントの基礎でもある。住民間の融和に研修は効果的であった。
- ・労働者の選定は紛争の種となり得る。民族・宗教的な差別なく労働者が選定されるよう、選定基準を設けた。地元労働者の選定から漏れた人が生活のために採用してほしいと言ってきた際も、本人に直接、説明し理解を得るように努めた。
- ・住民間の関係は、プロジェクト前はレート1が5人、同2が3人。プロジェクト後は7が2人、8.5が2人、9が3人、10が1人。
- ・コミュニケーションの関係はプロジェクト前、0が3人、4が3人、7が1人。プロジェクト後は8が1人、9が6人、10が1人。プロジェクト開始前と比較すると、市役所が身近な存在になった。これまで市役所と言えば、住民票等の書類を作成する以外の活動を実施しているイメージがなかった。

4. 地元労働者

- ・地元労働者の選定は市役所と合同で実施。希望者の登録は2週間受付。本人確認ができるIDカード等の写しを添付。183人登録し、50人を選定。選定基準は学生ではないこと、45歳未満であること、このカルティエ在住であること。選定はCGPP、市役所、日本人専門家チームで実施。最終的にはコントラクターが採用。各ステップごとに関係者が合意しながら進めた。
- ・地元労働者で熟練工は3~4人。コントラクターは途中から自分たちの作業員を使うようになった。
- ・地元労働者からは食費を追及するよう要求があり、作業が中断した。CGPPが雇用条件を説明し、理解を得て、作業再開した。
- ・各家庭の排水管の接続作業は悪臭がするなどし、地元労働者が敬遠するなか、進んで作業する地元労働者もいた。熟練工は3~4人。コントラクターは途中から自分たちの作業員を使うようになった。
- ・道路整備工事はローテーション制で、異なる民族の人々が一緒に働いた。一緒に働いて初めて、それぞれの民族の風習・文化の違いを知った。他のカルティエに行くことはあっても、同じカルティエの別の民族を訪ねようとしたことはなかったが、一緒に働いた若者の間ではそれぞれの住居を訪問し合おうかという案が出た。〔実施されなかった模様〕
- ・道路整備工事に従事して、整備方法を知ったので、次回、道路整備工事に従事するときはこの知識を活かせると思う。現在、働いていないが、自分でハンダ付けを習うなど技能を習得している。機会があれば、新しい技能を使える仕事をしたい。
- ・プロジェクトには、地元労働者に証明書を出してほしい。

[補足: プロジェクト情報では応募者からの選定は100人以上で。選定された人が候補者となり、そのリスト(応募書類一式)がコントラクターに提出され、その中からコントラクターが雇用するという流れ。選定はCGPP会合で市役所と住民メンバーで行ったものであり、日本人専門家は黒子的なサポートを提供したのみ。]

5. COSAY 後について

- ・プロジェクトは自分たちを結びつけた。プロジェクトで整備した学校・道路・排水溝は、自

分たちにとって宝物や赤ちゃんの様な存在。

- ・ 校舎建設や排水管と道路の整備で、子どもが通学しやすくなり親も喜んでいる。今後はこれらの維持管理が必要。そのために、お金を出し合うことを検討。1世帯1,000CFA。その資金で、例えば、排水溝未整備の場所に排水溝を設けたり、排水溝の清掃などを予定している。
- ・ 市役所にはこれら予定を知らせて、支援してもらいたいと考えている。

以上

インタビュー記録 11

実施日	2015年8月31日 15:00 - 18:30	
議題	CCGPP (道路), CGQ の活動状況: Lycee Municipal アクセス道路改修工事、アボボ市	
氏名 (敬称略)		役職
面談先	Mr. Koné Abdoulaye 他	CCGPP, CGQ メンバー一同
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	Lycee Municipal (Abobo)	
議事	<p>1. CCGPP から CGQ への移行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COSAY プロジェクトでの CCGPP メンバーは 17 名であったが、社会統合のためには多くの住民を巻き込む必要があると考えて、2015 年 2 月からより多くの住民が参加することができる CGQ を設立して体制を移行した。 <p>2. CGQ について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CGQ のメンバーは、グループ毎に 3 名程度の 50 名から構成されている。構成は民族、宗教、ECOWAS、若者、女性等、すべての関係者が参加できるよう配慮している。また、CGQ は会長、副会長、会計、監査員、秘書等の役割がある。 ・ CGQ の立ち上げは、市役所からの助言ではなく、同地域内で必要性を感じて自分たちで結成に至った。 ・ 活動内容は道路の維持管理だけでなく啓発活動等を行っており、活動計画も存在する。 ・ CGQ の活動資金については、アフリカでは無償でなにかするという発想がない中で、我々はボランティアとして活動に参加している。 <p>3. 道路工事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パイロット事業では、アクセス道路をアスファルトで舗装したが、同舗装道路に続く道が未舗装部分となっている。未塗装部分では舗装部分や周辺からの雨水により浸食が進み問題となっている。 ・ パイロット事業は社会統合を促進する目的で実施しているが、舗装と未舗装部分の住民間では、同工事により格差が生じている。例えば、未舗装部分では、雨水の浸食により道が悪いため、車・ごみ収集車が入れない等の問題が生じている。パイロット事業実施前は、対象道路北部（通称エルサレム）と対象道路南部（通称アレックスシティ）間で分断されていた。パイロット事業の計画段階で両地域は統合されたが、道路工事で再び分断が表面化した。 ・ 未舗装部については、至急対応してほしいと考えており市役所への要請をしているが、対応は非常に遅い。 ・ また道路の開始地点付近の公有地では、違法で車両修理業者が占拠し、商売を行っている。 	

同区域での活動は車のオイルが舗装道路にダメージを与える恐れがあるとともに、夜間に車輛の陰に犯罪者が隠れることもあることから危険であり、移転を求めてコミュニケーションにも報告しているが、対応は見られない。

- ・対象道路南部の排水は東側にある既設水路につながっているが、同水路は途中で廃屋があり流れをせき止めている。その結果、道路からの排水が流れずに溜まるという問題が発生している。再三、市役所に廃屋の撤去を所管する建設省に申請するように要請しているが、対応が遅い。

[補足) 未塗装部分については、パイロット事業の道路改修区間外である。また、アボボ市役所・プロジェクトでは、未塗装部分及び流末の状況について現在調査中であり、対応策を検討している。]

4. 社会統合について

- ・プロジェクト開始前まではお互いに対する恐怖心があったが、CCGPPの活動を通じて多くの隣人、住民と交流する機会ができ、恐怖心がなくなった。
- ・プロジェクト開始当初は、CCGPPの集会には人が今ほど参加していなかったが、社会統合に関する啓発活動が実施されることにより、参加者が増えていった。それにより、民族等の異なる者同士が、共に生活することについて、自信が持てるようになった。
- ・また CCGPP の波及効果として、各メンバーが研修等に参加することで、個人レベルではなく、参加メンバーを通じてその家族、宗教、民族内に社会統合を広めることが可能となった。
- ・1) コミュニティと住民の関係、2) 地域の住民間関係について、CCGPP 設立前後での変化について1から10のレートで表現してもらった。(1が最も悪く、10が最も良い)
- ・下記の通り、いずれも CCGPP 設立前後でおおよそ関係が改善されているという意見がでた。

【コミュニティと住民の関係】

	前	後		前	後		前	後
参加者 1	4	6	参加者 6	5	8	参加者 11	4	8
参加者 2	5	7	参加者 7	4	5			
参加者 3	4	7	参加者 8	5	7			
参加者 4	5	6	参加者 9	3	5			
参加者 5	4	6	参加者 10	4	3			

- ・CCGPP 設立前のコミュニティと住民の関係の各レートの理由：コミュニティについてよくわからなかった、信頼が低かった、行政手続き以外で接点がなかった、コミュニティ職員が同地域にきたことがなかった、などの意見がでた。
- ・CCGPP 設立後のコミュニティと住民の関係の各レートの理由：COSAY を通じてコミュニティ職員と知り合うことができた、以前より要請に対して反応が見られた、などの意見がでた。他方、参加者 10 は、コミュニティ職員の変化は JICA がいる一時的なものではないか、という意見もでた。

【住民間関係】

	前	後		前	後		前	後
参加者 1	5	8	参加者 6	5	8	参加者 11	5	7
参加者 2	4	8	参加者 7	6	8	参加者 12	6	10
参加者 3	6	8	参加者 8	0	8	参加者 13	4	7
参加者 4	5	9	参加者 9	6	8			
参加者 5	7	9.5	参加者 10	6	9			

- ・CCGPP 前の住民間関係の各レートの理由：これまでコミュニケーションがなかった、他者への恐れがあった、などの意見がでた。
- ・CCGPP 後の住民間関係の各レートの理由：同じ活動を通じて関係が変わった、電話をする

仲になった、などの意見がでた。

以上

インタビュー記録 12

実施日	2015年9月1日 10:50 - 12:30	
議題	CCGPP（道路）の活動状況：Andokoi、ヨブゴン市	
氏名（敬称略）	役職	
面談先	Mr. Desse Fabrice 他	CCGPP メンバー一同
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
JICA 事務所	藤山	COSAY 担当
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	Andokoi	
議事	<p>1. CCGPP について</p> <ul style="list-style-type: none">・ コミュニンとの協力で選定された民族のチーフ、及び青年、女性団体、NGO、宗教団体の代表等 16 名で構成されている。 <p>2. 社会統合について</p> <ul style="list-style-type: none">・ これまで互いのことを非難していたり、距離を置いていたため、他者と一緒にいることが困難であった。プロジェクトを通じた変化は話をするようになったことである。今では、通りの向こうで見かけると挨拶し合うようになった。また個人だけではなく、共通の関心事項を軸にコミュニティ全体についても考えるようになった。「対話」を重ねること、具体的には一緒に座って、一緒に考えて、一緒に意思決定を行うことが、これだけの変化をもたらすということを実感した。・ COSAY のアプローチが受け入れられた理由として、活動が特定の個人に対してではなく、皆に共通した問題を取り扱ったからである。またこの地域には整備された道路がなかったが、COSAY を通じて皆に恩恵がある。・ プロジェクト開始のタイミングは非常によかった。お互いのことを信じるのが難しく社会統合が必要なタイミングで COSAY が開始された。異なる民族等が参加し、一緒に働く機会できた。 <p>3. 道路工事について</p> <ul style="list-style-type: none">・ 道路のセレクションには問題がなかった。・ 道路工事における問題として道路用地内の不法滞在があげられたが、話し合いを行い納得して移転してもらった。・ 道路が整備されることにより、これまでは遠くのバス停まで歩く必要があったが今後は状況が改善される。また歩いている際に女性が怖い思いをしなくなった。・ また道路のアクセスがよくなったことで、妊婦などが緊急時にも病院にすぐ行けるようになったのでありがたい。 <p>4. 住民からの労働者の選定</p> <ul style="list-style-type: none">・ 選定基準は、地域に在住していること、年齢は 18-35 歳である。・ 労働者の募集については地元のラジオ局等を通じて、住民に対してパブリックアナウンスメ	

ントをした。

- ・ 女性の労働者はいたが、少数である。人数については担当でないため把握していない。
- ・ 労働者選定の手順について特に問題はなかった。カルティエでは労働者リストを作成したが、最終的な労働者の選択はコントラクターが行う。そのため、コントラクターが労働者を連れてくることがあった。

5. 維持管理について

- ・ プロジェクト終了後の道路の維持管理に関して、CCGPP のメンバーを基本にし、CGQ 等を含めたグループが MUDA (仮英訳: Mutual Fund for Development of Andokoi) で基金の集金を考えている。

6. チーフの役割について

- ・ 同カルティエには 14 のチーフが存在し、紛争に先立って社会統合への不安が発生した際に既にチーフ同士が会議をするなど、住民同士の交流の場が存在した。また、同カルティエ内で問題がある場合には、警察ではなく、チーフが問題を解決する役割を果たしていた。
- ・ 元々宗教・民族間の関係は悪くはなかったと思うが、COSAY を通じてこの地域の社会統合はより深く・強化されたと感じる。
- ・ COSAY アプローチの新しい点は、住民間が共に座って話す機会があることである。これまでチーフ間の会議があったが、そこは情報伝達の場にすぎなかった。

7. コミュニオンと住民の関係、地域住民間の関係について

- ・ 1) コミュニオンと住民の関係、2) 地域の住民間の関係について、CCGPP 設立前後での変化について 1 から 10 のレートで表現してもらった。(1 が最も悪く、10 が最も良い)

【コミュニティと住民の関係】

	前	後		前	後
参加者 1	3	10	参加者 6	3	7
参加者 2	2	9	参加者 7	9	10
参加者 3	2	9			
参加者 4	6	10			
参加者 5	6?	10			

- ・ CCGPP 設立前のコミュニティと住民の関係の各レートの理由: コミュニオンについてよくわからなかった、信頼が低かった、コミュニティ職員が同カルティエにきたことがなかった、などの意見がでた。
- ・ CCGPP 設立後のコミュニティと住民の関係の各レートの理由: COSAY を通じてコミュニティ職員と知り合うことができた、などの意見がでた。他方、コミュニティ職員の変化は JICA がいる一時的なものではないか、という意見もでた。

【住民間の関係】

	前	後		前	後
参加者 1	5	10	参加者 6	9	10
参加者 2	3	8	参加者 7	5	10
参加者 3	6	10	参加者 8		
参加者 4	5	8	参加者 9		
参加者 5	3	10	参加者 10		

- ・ CCGP 設立前の住民間の関係の各レートの理由: これまでコミュニケーションがなかった、他者への恐れがあった、などの意見がでた。住民移転について啓蒙活動は簡単ではなかった。
- ・ CCGPP 設立後の住民間の関係の各レートの理由: 住民移転について意見があったが今は理解している。元々住民間の関係はあったが、強化された。

以上

インタビュー記録 13

実施日	2015年9月1日 13:50 - 14:30	
議題	CGQの活動:Niangon Nord、ヨブゴン市	
氏名(敬称略)	役職	
面談先	Mr. Gome Dazilignou 他	Niangon Nordの元CGQメンバー一同
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	Niangon, Yopougon	
議事	<p>1. CGQの沿革について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2002年から導入された。CGQのメンバーはカルティエ住民から選ばれる。プレジデントの場合は、応募者の書類を市役所が審査し、市長から任命される。CGQメンバーになる要件として、地主であること、既婚者、カルティエの住民(3年以上)、活動参加できること等がある。 前市長により組織され、カルティエ内の清掃・治安・衛生等が役割であった。 行政から補助金等活動予算は与えられないが、研修を受ける機会や活動に必要な資機材を供与されることはあった。 CGQは、青年・女性・財務・秘書等で構成されていた。 以前には、コミューンとの会議、研修も実施されていて、公衆衛生に関する研修をうけた。また、紛争中には住民間の関係改善について啓発していた。 <p>2. CGQとCOGESの違いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> COGESは学校の中の組織で、2年に一度交代する。すべての学校にはCOGESが存在する。 CGQは一つの学校だけでなく、カルティエにあるすべての学校や住民を対象とした活動を行っている。 <p>3. 現在のCGQについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在は同カルティエにCGQは存在しないが、宗教・青年・民族ごとの委員会は存在するため、住民間の情報伝達は今も行っている。 CGQはヨブゴン市で始まり、その後、他の市(コミューン)に広まった。現在はこの地域のCGQは解散しているが、市長からは、活動そのものは承認するレターをもらっている。 現在、市長が変わったこともあり、CGQは消滅したが、代わりにCGPという委員会を立ち上げようという動きがある。 <p style="text-align: right;">以上</p>	

インタビュー記録 14

実施日	2015年9月1日 15:40 - 17:20	
議題	CCGPP(道路)の活動: Banco 2、ヨブゴン市	

氏名（敬称略）		役職
面談先	Mr. Manbo N' cho François 他	CCGPP メンバー一同
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー（別会議のため途中退出）
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	Banco 2、Yopougon	

議事

1. CCGPP の活動

- ・ 村のチーフ、女性、青年、民族、宗教、NGO、CGQ の 16 名で構成されている。
- ・ 活動としては、住民への啓発活動、工事サイトのモニタリングと週例技術会議（毎週火曜実施。参加者は CCGPP、コミュニオン、コントラクター、コンサルタント、専門家）の出席である。また COSAY の研修（社会統合、工事の安全、道路の維持管理）にも参加しており、修了証明書も受領している。[CCGPP 設立年について確認するが回答はなし。]
- ・ 同地域での CCGPP と CGQ の違いは、CCGPP は COSAY の活動であり、CGQ は政治的に設定されたもので、コミュニオンが行うプロジェクトの実施を担当している。

2. 道路工事について

- ・ 道路の欠陥があり、毎週テクニカル会議にて議題になっている。
- ・ 側溝は、傾斜がなく水が流れないなどの問題がある。工事の欠陥はコントラクターに問題があると考えている。毎週のモニタリングのほか、毎日モニタリングを行っており、問題があった際には週例技術会議にて議題としている。
- ・ また沿道を不法占拠している商売人の移転は課題であったが、説明を行い対応した。
- ・ 地元労働者は、登録が 150 人であったが CCGPP により 80 人が選定され、最終的には 50 人になった。選定基準は、同カルティエの住人、非熟練者、職務経験がない、年齢制限を 50 歳とした。
- ・ 地元労働者には元戦闘員も含まれていて、敵対したものの同士と一緒に働いた。

3. 社会統合について

- ・ 皆元々知っていたので社会統合については個人的に問題を感じなかった。
- ・ 社会統合の研修に参加することで、問題が起きた際の解決方法について学ぶことができた。例えば地域で水道管が切れた際には、その方法を実践した。また既述のとおり道路工事にかかる立ち退き問題に関しても、研修で学んだ手法を活用して解決した。
- ・ COSAY の社会統合へのインパクトはまだ十分に評価できないが、これまで対話がない人ともかかわることができたため、プロジェクトに参加できたことはよかった。
- ・ 1) コミュニオンと住民の関係、2) 地域の住民間の関係について、CCGPP 設立前後での変化について 1 から 10 のレートで表現してもらった。（1 が最も悪く、10 が最も良い）

【コミュニオンと住民の関係】

	前	後		前	後
参加者 1	2	7	参加者 6	1	4
参加者 2	0	8	参加者 7	0	5
参加者 3	3	7	参加者 8	3	7
参加者 4	1	7	参加者 9	1	7
参加者 5	8	10			

- ・ CCGPP 設立前のコミュニオンと住民の関係の各レートの理由：コミュニオン職員との接点がなか

った、自分たちの地域にきたこともなかったなどの意見がでた。

- ・ CCGPP 設立後のコミュニケーションと住民の関係の各レートの理由：COSAY を通じてコミュニケーション職員と知り合うことができたなどの意見がでた。

【住民間の関係】

	前	後		前	後
参加者 1	7	9	参加者 6	7	8
参加者 2	4	8	参加者 7	7	9
参加者 3	7	9	参加者 8	9.5	10
参加者 4	8	8	参加者 9		
参加者 5	7	10	参加者 10		

- ・ プロジェクト前の住民間の関係の各レートの理由：これまでコミュニケーションがなかった、他者への恐れがあった、などの意見がでた。他方、昔から関係に問題がなかったという意見もあった。
- ・ プロジェクト後の住民間の関係の各レートの理由：活動を通じて関係が変わったなどの意見がでた。

以上

インタビュー記録 15

実施日	2015 年 9 月 2 日 10:00 - 12:30	
議題	COGES について	
氏名 (敬称略)	役職	
面談先	Mr. Yobouet Simplicie 他	教育省 Chief of Service Projects/Program, COGES 担当者
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	MEMIS	
議事	<p>1. COGES について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COGES のようコートジボワールにおいて、COGES の役割は政策記載されており、教育省の管轄にある。 ・ 地元に根付いた組織を活用することで、現地のニーズが把握でき地域住民を巻き込んだ事業が可能となる。 ・ 今後、教育省は分権化を進めていく予定であり、コミュニケーション及び COGES の役割が重要性だと考える。そのため、各地域におけるスクールマッピングを進めている。また COGES の管理能力の強化を考えている。COSAY で実施した研修には COGES メンバーも参加しており、COGES の能力強化につながった。 ・ COGES のように地元に根付いた組織を活用することで、現地のニーズが把握でき地域住民を巻き込んだ事業が可能となるため、地域住民、コミュニケーション、リソースパーソンで構成されたローカルコミッティの設立を考えている。 ・ 中央政府だけでなく、市・カルティエ住民が事業に関わることで、汚職防止となる。 ・ COGES の能力強化は今後、重要である。DAPS-COGES は COGES の機能強化を支援しスーパーバイズしていく組織。 	

2. 教育省、市役所、COGES の関係について

- ・ COSAY では既に市役所と地域住民を巻き込んだ事業をしてきたが、COSAY の経験から、現場では人材、財源、車両、機材等のリソースが十分でなく、財源・人材の確保が課題となった。
- ・ 教育省では、教育分野の分権化を進める計画を進めているが、コミューンと COGES の協働については具体的にははじめていない。
- ・ 同様に維持管理についても、教育省・コミューン・COGES での役割分担は定まっていない。現在は、軽微な維持管理については COGES が役割を担っているが、教育省からコミューンに維持管理費を委譲しているわけでない。また COGES には財源確保をどうするかというチャレンジがある。
- ・ 国家開発計画 2016-2020 にも、ローカルマネージメントの活用について記載される予定である。
- ・ 同計画において、コミューンが小学校を管轄することになる。

3. COSAY 事業、得に CCGPP と COGES について

- ・ COSAY 事業で学校建設する際は、建設現場は建設会社が担当し、COGES が JICA チームともにモニタリングした。
- ・ CCGPP は良いアプローチだと思う。地域住民を動員し、学校建設が地域住民によって管理・モニタリング・評価される。地域住民こそが自分たちのニーズを知っているので、良い方法で学校建設を管理できる。
- ・ 一方で、なぜ COGES があるのに、別組織として CCGPP を作ったのか。学校には色々な民族の子どもがいるので、社会統合にマイナスに働かないか。
- ・ [上記コメントに対し] JICA のパイロット事業ごとに設置された組織のため、プロジェクト後は解散となる予定とプロジェクト側より説明。
- ・ CCGPP メンバーは、社会統合に貢献しており、今後リソースパーソンになると考える。どのようにリソースパーソンとして活用できるか考慮したい。

4. 学校における社会統合について

- ・ 学校には色々な民族の児童がおり、学校は社会統合に大きな役割がある。学校では、啓発活動を行うことができる。例えば、社会統合に関するトピックを現地の文脈に合わせるようにして、地域社会に向けて強いメッセージを発信できる。
- ・ 異なる民族の子供同士が遊んでいる様子を見れば、それが両親・家族・コミュニティにも良い影響を与えることができる。そのため親同士は彼らが調和する必要があると感じている。学校は、平和を広めるための「agent of change」である。テレビ番組も社会統合に関するものを学校で見せている。COGES も政治化するのではなく、社会統合や社会の発展のために動いている。
- ・ そのため、いかなる時期にもすべての民族の子供が学校に行けるようにする必要がある。

以上

インタビュー記録 16

実施日	2015 年 9 月 2 日 15:00 - 17:00	
議題	National Social Cohesion Program について	
氏名 (敬称略)	役職	
面談先	Ms. Ouattara Yra Elise 他	Director, Solidarity and Social Cohesion Observatory 関連スタッフ
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ

調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	National Social Cohesion Program (NSCP)	
議事		
<p>1. 国家社会統合プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家社会統合プログラムは 2016-2020 年をターゲット期間としている。NSCP では、社会統合の促進と社会サービスの開発を目的とする。アフリカ開発銀行、UNDP からの支援でプロジェクトを実施している。 ・ 上記プログラムは、国家開発計画 2016 年-2020 年のなかで取り上げられている社会統合分野をさらに明確に述べたものである。2020 年までに developing country になるという開発計画の目標の実現を社会統合の面から取り組む。 ・ 社会統合の状況のモニタリング結果を更新し、報告書としている。2014 年度の評価では、司法制度の強化、繰り返される人権侵害等が課題であった。 ・ 主なモニタリング指標は、失業、セキュリティ、生活費、帰還民である。 ・ 社会統合とは何か、を広く知らしめるために、ハンドブックも出している。 ・ 司法は社会統合の根幹でもあり、また社会統合や連帯を推進していく上で欠かせない。さらにいえば貧困削減し、社会開発の基礎でもある。 ・ 国家社会統合プログラムにはマトリックスが設けられ、具体的な行動を掲げている。これらについて国内数か所でワークショップを開催している。これら行動は次の通り。司法制度の強化、地方分権化促進、社会正義へのアクセスの改善、裁判所等のマッピング〔補足：司法へのアクセス改善のための現状調査的なものとみられる〕 <p>2. 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリングを実施しているが、社会統合を図る指標については課題がある。指標としては、意思決定がどのように行われた、汚職、治安等で活用している。 ・ またすべての地域をカバーできておらず、地域委員会の設置が必要である。 ・ 社会統合に関する主要課題は、①選挙結果を受け入れる土壌をつくっていくこと、②民族・宗教をベースとした投票という行動パターンをいかに変えていくか、更には出身地や民族ではなくコートジボワール人としてのアイデンティティをいかに形成していくか、である。 ・ アビジャンの課題として、コミュニティ内の分裂を助長するリーダーシップの問題があげられる。 ・ リーダーシップは社会の分離を招くこともあるが、社会統合を促進することもある。またリーダーシップは都市部で強く、農村部のほうが弱い傾向がある。 ・ 都市部では情報の取り扱いも難しい。噂話のみならず、ソーシャル・メディア・ネットワーク (SMN) や携帯電話のテキスト送信で簡単に広まってしまう。10 月に予定されている選挙では、情報が正しく伝えられない可能性がある点が心配である。情報に惑わされないよう人々を啓発することが必要である。 ・ 司法の介入を求めないことを奨励する風潮がある。また司法へのアクセスがない人々もいる。 <p>3. COSAY プロジェクトについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ COSAY でのプロジェクトの教訓を NSCP にも活用ができればと思うので、プロジェクトとの打ち合わせを望む。また JCC に参加したいと思う。 ・ 社会統合は政府と住民の間でも、また住民同士の間でも存在する。社会のエリート層はロールモデルを果たす役割があり、住民はそれを受け入れる。コミュニン・オフィスは最も適したところであり、コミュニン・オフィスの能力強化は重要である。 		
		以上

インタビュー記録 17

実施日	2015年9月3日 11:00 - 12:30 (技術局)、14:10 - 15:15 (社会局)	
議題	ヨブゴン市役所	
氏名 (敬称略)	役職	
面談先	Mr. Yeo Adama	ヨブゴン市役所技術局長 他技術局、人間開発局及び広報部からの C/P
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	ヨブゴン市役所	
議事	<p>【副市長表敬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨブゴン市は紛争の影響が大きかった地域であり、異なる民族が一緒に集まっていくのは容易ではない。 ・プロジェクト後、市役所が再現できる COSAY の要素は、学校や道路といったインフラ整備について会議したりモニタリングしたりする点。活動に必要な移動・通信手段は提供される。 ・近くにいる人々が行うことで、社会統合や住民間の繋がりが維持されるであろう。人々を一緒に集めることで、互いに知り合うようになり、態度が変わってくるだろう。 ・ヨブゴン市の社会統合政策は、プレス関係者にも関わってもらい報告書を広めること、社会統合に関する部局を新規に立ち上げること、教育・伝統的グループ・環境・住環境・セキュリティのコミッショナーを通じて社会統合を広めること。 <p>【ヨブゴン市役所技術局】</p> <p>1. COSAY の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民を巻き込んだ方法は今までなく、プロジェクト通じて多くを学ぶことができた。特に住民といかにコミュニケーションをとるかについて学ぶことができた上、一人のコミュニティリーダーのみと協力するリスクについても学んだ。また、住民も地域住民同士が集まる COSAY の方法を受けていた。 ・困難であったことはパイロット事業 (道路) における露店商の立ち退きであった。そのため、道路は個人の所有地ではなく、公共財であることを説明し、理解してもらった。カルティエ住民も巻き込んだ方法により、彼らが主体性出たと感じた。更に、プロジェクト開始時期は、紛争後まもなくだったので闘った住民同士を集めることは容易でなかったが、プロジェクトが彼らに参加を奨励し、また啓発活動等のプロジェクト活動を通じて組織化することができた。 ・また、市役所内でも、インフラ事業に関して技術局と社会局が共に働くことははじめてであった。 ・他のインフラ事業でも COSAY を利用したいと考えている。 <p>2. CCGPP と CGQ 及び COGES について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CGQ は市役所によって任命されたメンバーで構成されており、CCGPP とは異なる構成メンバーである。そのため、多くの地域住民を巻き込むのには CCGPP の方が好ましいと思う。 ・維持管理について、CCGPP は COSAY に解散予定であるため、道路の場合は CCGPP の後継組織として MUDA などの組織の結成が進められている。学校は COGES に引き継がれる。 ・また、各パイロット事業では維持管理ができるよう、プロジェクトにて維持管理の道具・方法を研修する機会がある (PKG-S2)。 <p>3. COSAY 方法の活用について</p>	

- ・ 予算・人材・研修等が不足しているため、課題である。

【ヨブゴン市役所社会局】

1. COSAY 方法について

- ・ 地域住民を巻き込んだ COSAY は新しいアプローチであった。社会統合の促進のためヨブゴンによっては重要な方法であった。
- ・ 困難であったことは、CGGPP メンバーのコミットメントを得ること、もしくはボランティアベースの活動に関する理解促進である。
- ・ COSAY 方法を継続する際の課題は、関係者の意識を変えること、財政である。CGGPP の活動はボランティア業務のため、無償で活動に加わってもらうことが困難であった。そのため、地域住民には COSAY や公共財について何度も説明し徐々に住民は理解し始めた。財政面では活動には（通信費、交通費、会議の運営費）等が必要となる。
- ・ また皆が時間通りに集まるのが難しい点も簡単ではなかった。

2. 各 CGGPP、パイロット事業地で社会統合のインパクトの差

- ・ 各 CGGPP およびサイトごとに大きい変化はなかった。但し道路事業（Andokouw）は、CGGPP のメンバー構成に問題があったため、市役所が仲介する形でメンバー構成を変更した。メンバーや地域住民に研修・話し合いの機会を持った。

3. 住民雇用について

- ・ パイロット事業では住民雇用を行ってきたが、パイロット事業後の再就職先については課題である。

以上

インタビュー記録 18

実施日	2015年9月3日 15:00 - 16:00	
議題	PARCS/アボボとヨブゴンにおける住民の和解と社会統合支援事業支援事業	
氏名（敬称略）	役職	
面談先	Mr. Kone Donikpo	Project Coordinator,
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	ヨブゴン市役所	

議事

1. PARCS について

- ・ 2014年1月から2016年6月の期間でEU支援により、アボボ・ヨブゴンを対象とした社会統合プロジェクトである。予算は5000万円程度。各市役所からも予算のうち10%ずつ出している。
- ・ 社会統合を目的として、①社会文化事業、②研修、③インフラ改修事業、④ラジオ放送を行っている。社会文化事業としてはラジオブロードキャスト等実施している。また、インフラ改修については、アボボとヨブゴンで各1サイトを考えている。
- ・ 支援対象は文化とスポーツで、公園や運動場の整備を考えている。2015年の活動は、運動場のリハビリ、「Search for common ground」というテーマでの研修実施である。
- ・ インフラ改修については、COSAY方法を用いた方法を取っている（CGGPPと同様に住民組織

の結成)。COSAY 方法は、地域住民に広まっている。

- ・ インフラを支援する理由は、人々を集めることができること、人々の合意を得ることが必要で社会統合に繋がること、インフラ整備状況のバランスをとれること。
- ・ 劇場建設も考えており、そこでは社会統合に関する映画を上映する予定。
- ・ 連帯・家族・女性・児童省とは連携している。マネジメント・コミティやステアリング・コミティがあり、MEMIS もメンバーである。

2. 課題

- ・ 地域住民を巻き込んだ方法を取っているが、無償で活動に参加してもらうことが難しい。
- ・ アボボとヨプゴンでも違いがある。ヨプゴンでは、和解することへの抵抗感があるようだ。直接、話をすることも少ない。この点、COSAY の方法にヒントを得た。
- ・ またプロジェクト開始時に政治運動と見られることもあったので、啓発活動を行った。

以上

インタビュー記録 19

実施日	2015 年 9 月 5 日 9:00 – 10:00 (副市長表敬訪問)、10:00 – 11:15 (技術局)、11:15 – 12:30 (社会局)	
議題	アボボ市役所	
氏名 (敬称略)		役職
面談先	アボボ市役所	
	M. Coulibaly Valy 他	アボボ市役所技術局長 他技術局、社会・文化・人材局及び広報部からの C/P
COSAY	M. Koffi Ehoussou François 他	MEMIS 副プロジェクト・コーディネーター補佐、 他合同評価メンバー
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	アボボ市役所	
議事	<p>【副市長表敬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アボボを COSAY 事業地にしたことは、道路と学校の修復や建設、また社会統合の観点から重要であった。 <p>【アボボ市役所技術局】</p> <p>1. COSAY の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフラ事業等の選択基準を設けることができ、有益であった。通常業務に活用したいと思う。 ・ 住民を巻き込んだ方法は今までなく、プロジェクト通じて多くを学ぶことができた。また、住民も地域住民同士が関わる機会を持つ COSAY の方法を受け入れていたと思う。 ・ 以前は市役所内の技術局と社会局が協働する機会がなかったが、COSAY を通じて市役所内でも両局が共に働くことが可能となった。今後もこの体制で業務に取り組みたいと思う。 ・ これまでトップダウンでインフラ整備を実施してきたが、住民の意思に反するアプローチは妥当ないしは持続的ではないことが分かった。そのためには、最初から住民を巻き込む必要があることを理解した。 <p>2. CCGPP との業務での難しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インフラ事業の選定の際にロングリストからショートリストの作成を行った。リストから外 	

れた事業地で住民に伝えることは難しかった。

- ・ COSAY の方法は地域住民の参加型開発が基本となるが、地域住民のボランティアによる活動は簡単ではなかった。

3. COSAY モデルの活用について

- ・ インフラ整備を開始する前に、まず社会局に住民を組織化し、研修を実施してもらいたい。
- ・ COSAY の適応で難しいと感じる点は、ボランティアで活動する地域住民のモチベーションを維持させること、研修の費用、その他活動経費、CCGPP を組織化すること、である。

【アボボ市役所社会・広報局】

1. COSAY による市役所内部の変化

- ・ 以前はインフラ事業については技術局、住民問題は社会・広報局という役割分担であり、両局のコミュニケーションは限られていた。しかし COSAY を通じて両局の協働が増えたと感じる。

2. COSAY で選択されなかったパイロット事業サイトについて

- ・ パイロット事業で外れたパイロット事業の説明は社会・広報局にて実施した。パイロット事業から外れた地域を伝えることは容易ではなかったし、戸惑った。
- ・ しかし、COSAY が単なるインフラ事業ではなく、社会統合を主眼としていることを住民に伝えた。またパイロット事業から外れたとしても落胆せず、COSAY を通じてアボボ地域全体の社会統合が促進される機会と考えてほしいと伝えた。その後、会場ではアボボコールが起き、パイロット事業として選ばれたカルティエ、外れたカルティエの住民たちが皆で拍手、抱擁をしあった。
- ・ また、パイロット事業選択には透明性を確保した選択基準を設けて、住民には説明を繰り返し、政治的な選択がなされたわけではないことを伝えた。
- ・ パイロット事業の選択基準は、緊急性、予算、住民雇用を創出、COSAY の活動への賛同の有無、である。

3. プロジェクト実施時の課題

- ・ パイロット事業実施段階での課題は、住民のボランティア精神であった。
- ・ 各パイロット事業地の CCGPP の活動等には大きな変化はなかった。CCGPP のメンバーの構成についても、オピニオンリーダーや登録されている団体（青年・女性）の情報をもとに、各サイトで偏りがないようにした。
- ・ ただし、エブリエ村（伝統的な部族地域）のサイト Anonkoua Kouté については、これまで違う民族（子供も含めて）が集まることさえも難しく、情報が幅広く共有されないという問題に直面していたが、状況が変化した。

4. 社会統合のインパクトについて

- ・ 以前、市役所は何も活動がないと思われていたが、パイロット事業を通じて、市役所の存在を地域住民は感じていると思う。今では、カルティエで問題があった際には連絡がくるなどの変化があった。
- ・ 道路工事のサイトでは、露天商の立ち退きが問題であったが CCGPP メンバーが話し合いを行うなど、これまでにはない市役所と地域住民の協働が行われている。
- ・ また、地域でも道路、学校事業を通じて、共に働く中で地域住民同士の調和を感じる。

5. COSAY 方法の活用について

- ・ COSAY 方法（①社会インフラ事業の選択基準を設定、②選定基準をもとにインフラ事業の選定、③パブリックコンサルテーションと関係者の打合せ、④CCGPP を組織し事業のモニタリング）の活用については、プロジェクト終了後も活用したいと思う。
- ・ ③、④については住民を巻き込んだ参加型開発ができ、市役所の業務を助けるものになる。
- ・ 他方、①、②については、三か年計画にて技術局がインフラ事業の候補をリストアップする

が、最終的なサイト選択は市長が行うことになっているため、①、②については、COSAY 方法の採用が容易ではない。

- ・だが、正式な選択基準を設けることで、政治的な事業選択を避けることが可能となるため、すべての事業選択に適応できることは望ましい。
- ・EU 支援の PARCS がアボボ地域で実施しており、COSAY 方法の活用を行っている。PARCS では CCGPP と同様の組織として Leading Team という組織をつくり、住民雇用を行っている。

6. その他の懸念

- ・アボボ地域の治安に問題があり、泥棒、暴力事件が起こっている。

7. プロジェクト終了時までに取り組むべき活動

- ・社会統合に関する啓発活動は引き続き実施するべきである。
- ・CGQ を他のカルティエに組織したい。CGQ 組織には、研修が必要である。研修には、研修を受けた CCGPP メンバーによる TOT、市役所職員が講師となることなどが可能。

以上

インタビュー記録 20

実施日	2015 年 9 月 4 日 16:00 – 18:00	
議題	内務省	
氏名（敬称略）	役職	
面談先 COSAY	Mr. Gbala Gnato Raphaël	プロジェクト・コーディネーター
	Mr. Nemlin Abel José	副プロジェクト・コーディネーター
	Mr. Koffi Ehoussou François	副プロジェクト・コーディネーター補佐
	関口 正也	COSAY チームリーダー
	Mr. Aboubakari Dosso	COSAY プロジェクト・スタッフ
調査団	土肥	団長
	前川	評価企画
	一宮	評価分析団員
実施場所	内務省	
議事	<p>1. COSAY について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトサイトをアボボとヨブゴンとしたことについて、実際に紛争の被害状況知っているので、サイトの選択は適当であったと感じる。 ・またプロジェクトサイトの選択は人々との話し合いを通じて実施している点が、社会統合に影響を与えたと感じる。例えば、アボボでの道路事業で水道管が破裂したことがあった。以前であれば人々がおこり、業者の機会を壊したと思うが、COSAY を通じて人々の態度は変わり、大きな問題とならなかった。 <p>2. プロジェクト終了時までに取り組むべき活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民から市役所に要請が出せる体制づくりが必要だと感じる。6 か月という期間は限られているため体制づくりまでは難しいと思われるが、プロジェクトによる提案であれば可能かもしれない。 ・開発事業に CCGPP を活用できるようにしたいと思う。そのために、三か年計画の開発業務に地域住民組織を巻き込んだ方法を取るよう、条件・規定を設けることを考えている。 	

以上